

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七八三	天明3	4/27~	竹本座	伊賀越道中双六 十さつもの	第壱(和)、第二(友)、第三(和、中)、第四(浅)、第五(関、染、住)、第六(男徳齋、染)、第七(友)、第八(関、住)、第九(男徳齋)、第十(定)。 ※語り「ふり出しはぎやうれつそろへたちよくしのお入りはみこんのはじまり／あがりはさいさきいわふ下りふねのふな玉は諸願成就の敵討」。 ※早稲田大学演劇博物館蔵正本の浄瑠璃太夫役割に「第一鶴が岡の段、第二行家屋舗の段、第三円覚寺の段、第四郡山宮居の段、第五郡山屋舗の段、第六沼津の段、第七新関所の段、第八岡崎の段、第九伏見の段、第十敵討の段」の段名が見える。また第九に竹本中太夫、竹本男徳齋の名が見える点が番付と異なる(『義太夫年表 近世篇』)。	わたしづま(民蔵)、さゝ木丹右衛門(才蔵)、けいせいせ川(磯五郎)、さはりまた五郎(冠蔵)、政衛門女房おたに(三吾)、大内記(冠蔵)、うさみ五右衛門(才蔵)、さくら田林左衛門(民蔵)、から木政右衛門(才治)、ごふくや十兵へ(才蔵)、平さく(才治)、いけぞへまこ八(貴次郎)、幸兵へ娘おそで(磯五郎)、山田幸兵へ(冠蔵)。
一七八三	天明3	9/9~	京 四条通南側大芝居 蛭子屋吉良兵衛座	伊賀越道中双六 十冊物	第壱(代々)、第弐(友)、第三(代々、出水)、第四(和)、第五(友、組、住)、第六(和、源)、第七(友)、第八(菅、住)、第九(組、菅、和、出水、源)、第十(代々)。 ※語り「ふり出しはぎやうれつそろへたちよくしのお入はみこんのはじまり／あがりはさいさきいわふ下りふねのふな玉は諸願成就の敵討」。	和田しづま(大次郎)、佐々木丹右衛門(庫十郎)、沢井又五郎(常三郎)、けいせい瀬川(才蔵)、正右衛門女房お谷(才治)、大内記(才治)、宇佐み五右衛門(元吉)、さくら田林左衛門(源十郎)、から木正右衛門(才蔵)、ごふくや十兵へ(庄九郎)、平さく(才治)、池ぞへ孫八(庫十郎)、幸兵へ娘おそで(元吉)、山本幸兵へ(才治)。
一七九二	寛政4	11/1~	北之新地芝居 竹田内匠 豊竹 此母座	伊賀越道中双六	八つ目(口 頼母、奥 梶)。	しづま(平五郎)、政右衛門女房おたに(東十郎)、政右衛門(与八)、おそで(勢蔵)、幸兵へ(藤三郎)。
一七九三	寛政5	9/19~	北ほり江市の側 芝居 豊竹此母座	伊賀越道中双六	八つ目(口 頼母、奥 梶)。	しづま(平五郎)、政右衛門女房おたに(東十郎)、政右衛門(与八)、おそで(勢蔵)、幸兵へ(藤三郎)。
一七九四	寛政6	12/28~	道頓堀東の芝居	伊賀越道中双六 第壱より 第八迄	第壱(菊、力)、第弐(文)、第三(伊、巴)、第四(八十)、第五(頼母、氏)、第六(巴、内匠)、第七(八十)、第八(頼母、綱)。	わだしづま(平五郎)、丹右衛門(岩五郎)、けいせい瀬川(磯五郎)、さわ井股五郎(孫市)、政右衛門女房おたに(冠十郎)、大内記(冠蔵)、うさみ五右衛門(定蔵)、林左衛門(岩五郎)、から木政右衛門(文蔵)、ごふくや十兵へ(文蔵)、平さく(岩五郎)、まご八(孫市)、幸兵へ娘おそで(磯五郎)、幸兵へ(冠蔵)。
一七九七	寛政9	閏7/18	大坂	伊賀越道中双六	岡崎むらのだん(春、染)。	しづま(東工)、おたに(東十郎)、政右衛門(平五郎)、おそで(勢蔵)、幸兵へ(定蔵)。
△ 一八〇八	文化5	5/22~	伊勢 中之地蔵大芝居	伊賀越道中双六	八つ目。 ※『伊勢歌舞伎年代記』に拠る。	

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八一〇	文化7	5/5~	京 寺町泉式部境内 芝居	伊賀越乗掛合羽 拾巻段	桜がりの段（伊豆、倉）、[]家屋舗の段（千代、新）、八丁なわての段（沢）、上杉館の段（新）、ゑんがく寺の段（倉、千代、出水、沢）、木辻の段（かけ合 内匠・出水・沢・新・千代・倉・弥・磯）、はんにや坂の段（沢）、でんほうやの段（新、出水、弥）、沼津の段（倉、筆）、茶みせの段（千代）、小田町の段（新）、敵討の段（磯、出水、沢、加賀、行）。 ※角書「唐木政右衛門／沢井又五郎」。	しづま（豊吾）、丹右衛門（重五郎）、けいせい瀬川（才九郎）、沢井又五郎（三吾）、おたね（豊吾）、こんだ内記（冠四）、さくらだ林左衛門（重五郎）、唐木政右衛門（冠二）、池そへ孫八（重五郎）、おそで（才九郎）。
一八一二	文化9	2/12~	御 霊 境 内	伊賀越道中双六 大序より 六つ目まで	鶴岡のたん（口 美濃、おく 稲）、行家やしきの段（口 織、次 稲、おく 生駒）、円覚寺のたん（口 関、切 絹）、宮居のたん（操）、郡山屋敷の段（口 生駒、切 錦）、兵法のたん（かけ合 生駒・吾・絹・弥）、沼津の里の段（染）。 ※語り「ふり出しはぎやうれつそろへたちよくしのお入はゐこんのはじまり／あがりはさいさきいわふ下りふねのふな玉は諸願成就の敵討」。	しづま（小三郎）、さゝ木丹右衛門（伊三郎）、せがは（喜十郎）、沢井亦五郎（国五郎）、おたに（才九郎）、大内記（吉左衛門）、うさみ五右衛門（小三郎）、さくら田林左衛門（元五郎事 吉左衛門）、から木政右衛門（豊吾）、ごふくや十兵へ（鬼市）、平作（豊吾）、いけぞへ孫八（元五郎事 吉左衛門）。
一八一二	文化9	12/10~	堺 宿 院 芝 居	伊 賀 越	沼津のたん（染）。	およね（虎造）、ごふくや十兵へ（三吾）、平さく（紋子）、孫八（兵吉）。
一八一五	文化12	1/15~	京 六角堂境内芝居	伊賀越乗掛合羽	沼津の段（染）。	およね（重五郎）、十兵へ（千四）、平さく（九孝）、池添孫八（東十郎）。
一八一六	文化13	3/21~	いなり社内	伊賀越道中双六 大序より 八つ目迄	第壱（光、十七）、第貳（新）、第三（口 富、切 要）、第四（十七）、第五（口 式、中 中、切 綱）、第六（口 重、切 中）、第七（要）、第八（口 筆、切 綱）。 ※語り「ふり出しは きやうれつそろへたちよくしのお入はゐこんのはじまり／あかりは さいさきいわふ下りふねのふな玉は諸願成就の敵うち」。	わたなべしづま（新二）、さゝ木丹右衛門（千四）、けいせい瀬川（辰造）、沢井股五郎（千次郎）、女房おたに（辰造）、大内記（九孝）、うさみ五右衛門（冠三）、さくら田林左衛門（弥三郎）、から木政右衛門（千四）、ごふくや十兵へ（千四）、平さく（九孝）、池ぞへまご八（冠三）、おそで（東造）、山田幸兵へ（九孝）。
一八一六	文化13	8/15~	名古屋 清寿院御境内	伊賀越道中双六 大序より 八つ目迄	大序（鯉津、梅、美和）、行衛屋敷段（入、梶）、円覚寺の段（津摩、むら）、宮居の段（鶴、豊）、政右衛門屋敷の段（美和、染、梶）、大広間の段（綱）、沼津のたん（染）、新関のたん（津賀）、岡崎のたん（むら、綱）。	和田しづま（与吉）、佐々木丹右衛門（弥三郎）、瀬川（伝七）、沢井又五郎（兵吉）、女ぼうお谷（辰造）、菅田大内記（重五郎）、うさみ五右衛門（才治）、桜田林左衛門（弥三郎）、唐木政右衛門（文吾）、ごふくや十兵へ（兵吉）、百姓平作（文吾）、池添孫八（左造）、娘おそで（才治）、山田幸兵へ（重五郎）。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八一八	文化15	4/5~	ほり江市ノ側芝居	伊賀越乗掛合羽大序より大切まで	桜の馬場のだん(紋)、靱負屋敷之段(口 千賀、切 鐘)、土手のだん(紋)、上杉屋敷之段(口 吾、切 土佐)、円覚寺之段(口 富、切 磯)、上杉屋敷之段(染)、茶屋場之段(口 かけ合 吾・富・千賀・紋、切 宮戸)、はんにや坂之段(磯)、道ゆき(口 錦、切 紋)、沼津のだん(染)、新関所之段(吾)、岡崎のだん(口 鐘、切 土佐)、伏見のだん(口 かけ合 吾・磯・鐘・富、切 染、紋)、敵討之段(口 千賀、中 浪、切 翁)。 ※「道ゆき」の「口」「切」がなく、「沼津のだん」の竹本染太夫に「切」がつき、「岡崎のだん」を(鐘、土佐、染)とし、「伏見のだん」「敵討之段」を別狂言に差し替えた別番付あり。	しつま(金四)、丹右衛門(才治)、およね(国八)、又五郎(文吾)、おたね(国八)、内記(冠四)、林右衛門(与十郎)、政右衛門(文吾)、重兵へ(才治)、平作(冠四)、孫八(弥三郎)、おそで(冠作)、幸兵へ(新吾)。
一八一八	文政1	11	京 錦天神芝居	伊賀越道中双六	新関所のだん(紋、跡 広)、岡ざき村のだん(口 錦、切 綱=猪左衛門)。	しづま(与十郎)、おたに(金吾)、唐木政右衛門(千治郎)、おそで(国八)、幸兵へ(新吾)。
一八一九	文政2	1/7~	御 霊 境 内	伊賀越道中双六	新関のだん(美代)、岡崎のだん(口 錦、切 綱)、敵討のだん(かけ合 十七・翁・菅・戸和)。	志津摩(与十郎)、おたに(金吾)、政右衛門(千次郎)、娘おそで(国八)、幸兵へ(新吾)。
一八一九	文政2	5/4~	伊勢 中之地蔵常大芝居	伊賀越道中双六	岡崎の段(錦、綱)。	しつま(与十郎)、おたに(金吾)、政右衛門(金四)、おそで(冠作)、幸兵へ(弥三郎)。
一八一九	文政2	9/27~	江戸 結 城 座	伊賀越道中双六 十一冊もの	鶴ヶ岡の段(宮)、行家屋敷の段(式)、円覚寺の段(宮、久)、郡山八幡の段(入事 頼)、郡山屋敷の段(式、若)、郡山大広間の段(時)、沼津の段(若)、平作内の段(下り 頼)、関所の段(下り いろは事 幾)、岡崎の段(下り 久、時)、敵討の段(宮)。	志津馬(力蔵)、丹右衛門(伝兵衛)、せ川(新七)、股五郎(巳之助)、おたに(新七)、内記(伝兵衛)、郷右衛門(伝兵衛)、林左衛門(冠二)、政右衛門(伊三郎)、重兵衛(冠二)、平作(伊三郎)、孫八(巳之助)、おそで(新七)、幸兵衛(伝兵衛)。
一八二一	文政4	2/晦日~	稲 荷 社 内	伊 賀 越 続五場	大序(口 桑)、花見のだん(おく 鷹)、行衛やしきの段(口 琴、切 音、跡 島)、上杉屋敷のだん(口 錦、おく 染)、円覚寺の段(口 島、切 重)、上杉やしきの段(紋)、木辻揚屋のだん(かけ合 重・梶・音・島・錦・紋、切 中)、はんにや坂の段(むら、三役共人形出つかひにて相つとめ申候/吉田兵吉)、沼津の段(染)、新関の段(梶)、岡崎の段(口 むら、切 綱)、敵うちの段(左馬)。 ※角書「乗掛合羽/道中双六」。 ※「右巻丁目ヨリ拾一丁目迄のこらず奉御覧入候」(番付)。	和田しづま(千助)、佐々木丹右衛門(才治)、およね(辰五郎)、沢井又五郎(兵吉)、政右衛門女房おたに(辰五郎)、こん田内記(千次郎事 千四)、さくら田林左衛門(新治)、唐木政右衛門(千四事 文三郎)、ごふくや十兵へ(千次郎事 千四)、百性平作(千四事 文三郎)、池ぞへ孫八(千助)、幸兵へ娘おそで(才治)、山田幸兵へ(新吾)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八二二	文政5	7/23~	金沢 川上北芝居	接合駅路梅 続十巻冊	花見のだん(弦)、行衛やしきの段(口 雛、切 蔦、跡 柴)、上杉やかたの だん(口 浅、おく 八尾)、円覚寺の段(口 弦、切 富)、上杉やかたのだ ん(橋)、木つぢ茶やのだん(口 かけ合 富・鷹・八尾・浅・柴、切 紋)、 般若坂のだん(橋、又五郎/いしとめ武介/おく山左内 吉田兵吉/右三役共 早がはり出づかひにて相つとめ申候)、沼津のだん(内匠)、新関のだん (雛、柴)、岡ざきのだん(口 紋、切 綱)、敵討のだん(八尾、弦)。 ※角書「伊賀越 乗掛合羽/道中双六」。	和田しづま(文吉)、佐々木丹右衛門 (進四)、けいせい瀬川(進四)、沢井 又五郎(兵吉)、おたに(源十郎)、菅 田内記(政右衛門)、さくら田林左衛門 (進四)、から木政右衛門(兵吉)、ご ふくや十兵へ(源十郎)、百性平作(兵 吉)、池ぞへ孫八(富三郎)、おそで (源十郎)、幸兵へ(政右衛門)。
一八二二	文政5	8	京 四条南側大芝居	接合駅路梅 冊数十三冊	花見のだん(弦、八尾)、行衛やしきの段(口 政子、切 生駒)、上杉屋敷 の段(口 鷹、切 富)、円覚寺の段(口 勝、切 筆)、上杉屋敷の段 (紋)、木辻茶やのだん(むら、生駒、富、政子、橋、八尾、巻、切 弥)、 般若坂のだん(紋、又五郎/左内/武介 吉田兵吉/右三役出づかい早替り二 而相つとめ申候)、沼津のだん(中)、新関所の段(富)、大やぶのたん (橋)、岡崎のたん(口 綾、切 綱)、伏見宿やのだん(中、弥、筆、綾、 紋、勝)、敵討のだん(弦、弥生)。 ※角書「乗掛合羽/伊賀越/道中双六」。	わたしづま(源十郎)、丹右衛門(弥三 郎)、瀬川(国八)、おたに(国八)、 菅田内記(兵吉)、桜田林左衛門(弥三 郎)、唐木政右衛門(千四)、こふくや 十兵へ(金四)、平さく(千四)、いけ す孫八(源十郎)、おそで(小六)、幸 兵へ(新吾)。
一八二二	文政5	9/9~	道頓堀角丸芝居	接合駅路梅 十一冊	花見のだん(弦)、行衛やしきの段(口 桑、切 生駒)、上杉やかたの段 (口 桑、おく 祖)、円覚寺のだん(口 勝、切 筆)、上杉やかたの段 (紋)、木辻茶屋のだん(かけ合 むら・生駒・勝・祖・弥生、切 弥)、盤 若坂の段(紋、三役とも人ぎやう 吉田兵吉/出づかひ早かわりにて相つとめ 申候)、沼津のだん(中)、新関のだん(生駒)、岡崎のだん(口 綾、切 綱)、敵うちの段(弦、弥生)。 ※角書「伊賀越 乗掛合羽/道中双六」。 ※語り「続に 浅くさのさくらがりにおしかけたおひめさまのこし入しつほ りぬれたもゝのさかづきめぐり/てゐんろうのそれとあかさぬおやこの名 のりやみはあやしめやみのなんびやう五ぞうをしぼるみやうやくでほんふ くさしためいよのすけたち/并に 木つぢのさとの惣あげにもちかけたしん ぞうのもん出しつかりあふた山てのくふうさぐりあたつたそうしゆつはそれ とつゝんだむこしうとめあかりをはしる主君の上意三々九度のどくやくであ らひあげたる家老のはらわた」。	和田しづま(進四)、佐々木丹右衛門 (弥三郎)、けいせい瀬川(国八)、沢 井又五郎(兵吉)、おたに(国八)、菅 田内記(兵吉)、さくら田林左衛門(弥 三郎)、唐木政右衛門(千四)、ごふく や十兵へ(金四)、平さく(千四)、池 ぞへ孫八(朝右衛門)、娘おそで(小 六)、幸兵へ(新吾)。
一八二四	文政7	3/29~	座摩社内	伊 賀 越 大序ヨリ 八ツ目マデ	花見のだん(大序 種、おく 弓)、行衛やしきの段(口 の、切 長門)、上 杉屋敷の段(口 より、奥 の)、円覚寺の段(中 伊勢、切 弥、跡 房)、木 辻揚屋のたん(かけ合 政・伊勢・より・房・長門・の・弓)、般若坂の段 (長門、石留武介/奥山左内/沢井又五郎 吉田仙四/三役早替り二而相勤申 候)、沼津のたん(弥)、新関の段(長門)、岡崎のだん(口 伊勢、切 政)。 ※角書「乗掛合羽/道中双六」。	和田しづま(源治)、佐々木丹右衛門 (仙助)、およね(伝七)、沢井又五郎 (仙四)、政右衛門女房お谷(伝七)、 本田内記(弥三郎)、桜田林左衛門(仙 助)、唐木政右衛門(仙四)、呉添孫 八(源吾)、山田幸兵へ(弥三郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八二四	文政7	8/14~	いなり社内	伊賀越 大序ヨリ 岡崎迄七丁	大序(口 広、おく 和佐)、ゆきへやしきの段(口 式、切 吾)、円覚寺の段(口 佐賀、切 重、島)、上杉やかたの段(文字)、新聞所の段(島)、沼津のだん(湊)、岡崎の段(口 式、中 吾、切 中)。 ※角書「乗掛合羽ノ道中双六」。	和田しづま(榎右衛門)、佐々木丹右衛門(十九造)、瀬川(辰五郎)、沢井又五郎(源十郎)、又右衛門女房お谷(辰五郎)、菅田内記(榎右衛門)、さくら田林左衛門(東五郎)、唐木亦右衛門(文三郎)、ごふくや十兵へ(熊蔵)、平さく(文三郎)、池ぞへ孫八(鬼市)、おそで(辰造)、山田幸兵へ(熊蔵)。
一八二四	文政7	9	奈良 瓦堂芝居	伊賀越 大序より 八つ目まで	大序(管)、花見のたん(管)、行家やしきのたん(口 の、切 越後)、円覚寺のだん(口 菅、中 筆、切 鐘)、上杉やしきの段(錦)、はんにや坂の段(越後、又五郎ノ義内ノ武介 吉田千四ノ右三やく共早がはり出づかいにて相つとめ申候)、沼津の段(弥)、新聞の段(の)、岡崎のだん(口 鐘、切 政)。 ※角書「乗掛合羽ノ道中双六」。	しづま(源治)、丹右衛門(千四)、およね(亀七)、おたに(新吾)、さくら田林左衛門(清治)、政右衛門(千四)、十兵へ(新吾)、平作(千四)、孫八(卯造)、おそで(千造)、幸兵へ(新吾)。
一八二四	文政7	10	讃岐 金比羅大芝居	伊賀越道中双六 大序より 敵討まで	花見のだん(管)、ゆきへやしきのだん(口 管、中 鐘、切 越後)、円覚寺の段(口 菅、中 錦、切 筆)、上杉やかたの段(管)、木辻茶屋のだん(かけ合 越後・錦・菅・の・管、切 鐘)、はんにや坂の段(越後、武介ノ又五郎ノ義内 吉田千四ノ右三役早かわり出づかひにて相つとめ申候)、沼津の段(筆)、新聞の段(越後)、岡崎のだん(口 菅、切 政)、茶店の段(錦)、敵討の段(管)。	和田しづま(門之助)、丹左衛門(千四)、けいせい瀬川(清二)、おたに(亀七)、内記(冠吉)、林左衛門(冠三郎)、政右衛門(千四)、十兵へ(源二)、平作(千四)、孫八(田吉)、おそで(千造)、山田幸兵へ(新吾)。
一八二五	文政8	9/5~	御霊境内	伊賀越道中双六	鶴ヶ岡の段(口 梅、中 元、おく 岡)、行家やしきの段(口 和佐、おく 生駒、跡 和佐)、円覚寺の段(口 浜、切 吾)、是よりまくなし惣出がたり宮居の段(岡)、政右衛門やしきの段(口 鐘、切 君)、大広間の段(富)、はんにや坂の段(吾、沢井又五郎ノ石とめ武介ノいしや左内 吉田金四ノ右三役とも早がはり出づかひにて相つとめ申候)、沼津の段(切 若)、是よりまくなし惣出がたり 新聞のだん(君)、岡崎幸兵へ住家の段(口 生駒、切 巴)、蕎麦店のだん(浜)、伏見貸座敷の段(口 和佐、中 富、切 かけ合 まつの金介一若・おその一生駒・十兵へ一岡・おかな一和佐・池そへ孫八一浜・さくら田林左衛門一鐘・馬かた大八一吾・沢井又五郎一君)、煮うり店のだん(鐘)、敵うちのだん(かけ合 勝・朝、右くらがり大どうぐにて奉御覧ニ入候)。 ※語り「ふり出しは 行烈揃へた勅使の御入に意根の始りノ上りは 最先祝ふ下り船の舟玉に諸願成就の敵討」。 ※「大序より大切迄幕なしにて奉御覧ニ入候」(番付)。	和田しづま(十九造 岩五郎)、佐々木丹右衛門(新治)、瀬川・およね(国八)、沢井又五郎(金四)、おたに(国八)、菅田大内記(朝右衛門)、うさみ五右衛門(東十郎)、桜田林左衛門(十九造 岩五郎)、唐木又右衛門(金吾)、呉服や十兵へ(東十郎)、百性平作(金吾)、池添孫八(朝右衛門)、娘おそで(辰治)、山田幸兵へ(金四)。
△	一八二五	文政8	三州 御油宿	伊賀越	六つ目(阿曾)、七つ目(口 千歳、切 梅)、八つ目(綱)。 ※山本まち蔵「角力番付外二芝居番付」に拠る(『義太夫年表 近世篇』)。	

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八二六	文政9	3/18~	いなり境内	伊賀越 従大序 敵討二至ル 宿次五泊	花見の段(口照、おく友、次多見)、行衛やしきの段(口美咲、中佐賀、切染、跡友)、上杉やかたの段(口美咲、おく阿蘇)、円覚寺の段(口入、中文字、切湊)、上杉館の段(政子)、木辻揚屋の段(かけ合綱・入・文字・阿蘇・政子・多見、切染)、般若坂の段(入、石留武介／沢井又五郎／奥山義内 吉田兵吉／右三やく早がはり出づかひにて相つとめ申候)、沼津の段(湊)、新関の段(染、跡佐賀)、岡崎の段(口文字、切綱)、茶店の段(政子)、敵討の段(中子、泉)。 ※角書「継合 乗掛合羽／道中双六」。	和田志津馬(一山)、さゝ木丹右衛門(千助)、およね(辰五郎)、沢井又五郎(兵吉)、おたね(辰五郎)、菅田内記(兵吉)、さくら田林左衛門(源十郎)、唐木政右衛門(千四)、呉服や重兵へ(熊蔵)、平さく(千四)、孫八(辰助)、おそで(辰造)、幸兵衛(熊蔵)。
一八二七	文政10	4/2~	座摩境内芝居	伊賀越道中双六	円覚寺の段(口浦、おく此母)、沼津の段(叶)。 ※首振り芝居。	
一八二七	文政10	6/6~	伊勢 勢州中の地蔵大 芝居	伊賀越道中双六	はんにや坂の段(富、又五郎／いしや／武すけ 吉田金四／三やく早かはりにて仕候)、岡崎の段(口頼、切若)、敵討の段(カケ合元・桐・浪花・萩)。	しづま(辰造)、おたに(辰五郎)、政右衛門(金吾)、おそで(駒吉)、幸兵衛(弥三郎)。
一八二七	文政10	7/11~	ほり江荒木芝居	伊賀越 宿次七泊り	大序(口猪、次梅、おく政子)、行衛屋敷の段(口七、切の)、木辻の段(口筆野、中歌門、切かけあい 政右衛門一政・内記一筆・志づま一鐘・孫八一武・林左衛門一の・武介一政子・若紫一歌門・おたに一七・永蔵一猪・諸士一志賀)、般若坂の段(武、吉田兵吉／右三役早がはり出づかひにて相つとめ申候)、沼津里の段(筆)、新関の段(の、跡梅)、岡崎の段(口政子、切政)。 ※角書「乗掛合羽／道中双六」。 ※「吉丁目ヨリ八丁目までのこらず奉御覧二入候」(番付)。	志津馬(駒吉)、佐々木丹右衛門(辰助)、およね(辰造)、沢井又五郎(兵吉)、おたに(兵吉)、菅田内記(兵吉)、桜田林左衛門(弥三郎)、唐木政右衛門(千四)、呉服や十兵衛(兵吉)、平さく(千四)、池ぞへ孫八(辰助)、娘おそで(辰造)、山田幸兵へ(弥三郎)。
一八二七	文政10	11/8~	名古屋 若宮御社内	伊賀越道中双六	意記衛屋敷の段(口寿、切綾)、円覚寺の段(口津、中文字、切君)、沼津の段(阿蘇、綱)。	しづま(駒造)、丹右衛門(辰介)、およね(三吾)、又五郎(与吉)、重兵へ(与吉)、平さく(弥三郎)、孫八(辰介)。
一八二九	文政12	1/2~	江戸 土佐座	伊賀越駅路の梅 大序より 敵討迄 幕なし	桜がりの段(口関、おく桜)、行衛屋敷の段(口実、切染、跡式)、上杉屋敷の段(口蟻、おく菅)、円覚寺の段(若=市太郎／むら 右口切とも一日がわり相勤申候)、上杉屋敷の段(美咲)、木辻揚屋の段(口かけ合菅・三輪・美咲・実・式、切中)、般若坂の段(三輪、吉田文三／此所二而三やく早がわり相勤申候)、沼津里の段(染)、新関の段(中、跡元)、岡崎の段(若=市太郎／むら 右口切とも一日替り二相勤申候)、敵討の段(生駒、理、仮名)。 ※角書「道中双六／乗掛合羽」。 ※「般若坂にて 沢井股五郎／石留武介 下り吉田文三／[]早替りにて相勤申候	志津馬(東九郎)、佐々木丹右衛門(東九郎)、平作娘よね(新七)、沢井股五郎(下り文三)、政右衛門女房谷(幸五郎)、菅田内記(下り文三)、桜田林左衛門(幸五郎)、唐木政右衛門(兵吉)、呉服屋十兵衛(冠二)、平さく(兵吉)、池ぞへ孫八(一山)、おそで(力蔵)、山田幸兵衛(冠二)。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八二九	文政12	1	北堀江市の側芝居	伊賀越敵討 大序より 八つ目まで	花見のだん（序当磨、中多美、おく園）、行家やしきの段（口達、切浜、跡寿）、円覚寺の段（口猪、切阿蘇）、上杉やしきの段（春）、鳥居のだん（綱）、政右衛門やしきの段（口浜、切政）、はんにやざかの段（阿蘇、石とめ武介／沢井又五郎／おく山左内／沢井入平／やつこのら介 吉田千四／右五役出づかひ早がはりにて相勤奉御覽二入候）、沼津里の段（氏）、新関のだん（口寿、おく宇）、岡崎の段（口春、切綱）。 ※角書「道中双六／乗掛合羽」。 ※「鳥居のだん」の代りに「大広間のだん」竹本綱太夫が加わり、「新関のだん」の竹本宇太夫がなく、また人形役割のうち、菅田内記の配役を吉田千四、おそでの配役を吉田新十郎、平作娘およねの役名を平作娘およしとする別番付あり。	和田志津馬（東蔵）、佐々木丹右衛門（弥三郎）、平作娘およね（三吾）、政右衛門女房おたに（三吾）、菅田内記（文三郎）、宇佐美五右衛門（弥三郎）、桜田林左衛門（冠四）、唐木政右衛門（新吾）、ごふくや十兵へ（弥三郎）、平さく（冠蔵）、池添孫八（清七）、幸兵へ娘おそで（三吾）、幸兵衛（冠蔵）。
一八二九	文政12	7/1～	御霊社内	伊賀越道中双六	沼津のだん（長門）。 ※「夏景色みどり操 納涼六床」の内。	娘およね（東十郎）、ごふくや十兵へ（与十）、平さく（才治）、池添孫八（門二）。
一八二九	文政12	10/14～	兵庫 兵庫津芝居	伊賀越道中双六 平作住家の段	沼津里の段（氏）。	およね（三吾）、呉腹や重兵へ（新吾）、百性平さく（金四）、池添孫八（金助）。
一八三〇	文政13	1/2～	稲荷社内	伊賀越 大序ヨリ 岡崎迄拾丁	大序（梅）、花見の段（口弓、次楽、おく桐）、行衛家しきの段（口浜、切よど、跡道）、円覚寺の段（口島、切久）、上杉屋敷の段（よど）、木辻揚屋の段（かけあい 三根・島・よど・雛、切浪）、般若坂の段（久、又五郎／武助／左内 吉田才治／右三役とも出づかひ早がはりにて相つとめ申候）、沼津の段（高麗）、新関の段（岡）、岡崎の段（口三根、切巴）。 ※角書「乗掛合羽／道中双六」。 ※「行衛家しきの段」の竹本よど太夫の持ち場を「切」ではなく「おく」とし、「木辻揚屋の段」掛合のうち、竹本よど太夫が竹本八木太夫に、更に竹本高太夫が加わった別番付あり。	渡辺志津馬（駒造）、佐々木丹右衛門（新治）、娘およね（辰五郎）、沢井又五郎（才治）、おたね（辰五郎）、菅田内記（岩五郎）、桜田林左衛門（新治）、から木政右衛門（才治）、ごふくや十兵へ（岩五郎）、平さく（与十）、池ぞへ孫八（朝右衛門）、娘おそで（辰造）、山田幸兵へ（与十）。
一八三〇	文政13	11	道頓堀竹田芝居	伊賀越道中双六 大序より 八つ目まで	大序（口当美、跡三木）、行衛やしきのだん（口律、切筆戸）、松原のだん（弥宗）、右内館のだん（口吾、おく当賀）、円覚寺のだん（口工賀、中錦、切氏）、上杉館のだん（当能）、木辻のだん（口弥宗、かけあい 筆・筆戸・工賀・当能・組、切時）、般若坂のだん（錦、沢井又五郎／石とめ武介／おく山左内／飛脚早介／同 飛介 吉田千四／右五やく早がはりに出づかひ二て相勤申候）、沼津のだん（氏）、新関のだん（筆戸）、岡崎のだん（口時、切筆）。	和田しつま（吉之助）、さゝ木丹右衛門（新吾）、けいせい瀬川・娘およね（国八）、政右衛門女房お谷（国八）、菅田内記（千四）、桜田林左衛門（朝造）、唐木政右衛門（新吾）、ごふくや十兵へ（新吾）、百しやう平作（千四）、池ぞへ孫八（新三郎）、娘おそで（東三）、幸兵衛（千四）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八一八 ～ 一八三〇	文政年間	5/15～	江戸 芝神明社内	伊賀越道中双六 十冊続	花見の段(久、松)、行家屋敷の段(八津、式)、円覚寺の段(是、錦、三輪)、八幡の段(名)、唐木屋敷の段(八津、君)、かつたい村の段(式)、沼津の段(名、錦)、新関所の段(三輪)、岡崎の段(君、祖)、敵討の段(カケ合 是・松・八津)。 ※角書「唐木政右衛門／沢井又五郎」。	和田志津馬(兼吉)、佐々木丹右衛門(巳之助)、瀬川(清左)、沢井又五郎(冠重)、お谷(清左)、菅田大内記(冠重)、宇佐美五右衛門(定二)、桜田林左衛門(松五郎)、からき政右衛門(巳之助)、呉服や十兵衛(兼吉)、雲助平作(巳之助)、池添孫八(松五郎)、おそで(巳之助)、山田幸兵衛(冠重)。	
一八三一	天保2	4/2～	名古屋 若宮御社内	伊賀越道中双六 大序より 八つ目迄	大序(巴美)、行衛屋舗(口 桑、切 桐)、円覚寺の段(口 桑、切 春)、上杉屋舗(干賀)、政右衛門屋舗(口 桐、切 巴)、大広間の段(絹)、磐若坂の段(巴津)、沼津の段(岡)、新関の段(干賀)、岡崎の段(口 頼、切 巴)、沢井又五郎／石留武助／医師 吉田金四／右三役早替りにて御覧入候)。 ※「一はじめ、いが越浄瑠璃 沢井又五郎／石留武助／いしや 三役早替り 吉田金四／奇々妙々なる早きはやがわり、又五郎人形花道歩行、楽屋へ入る」(『見世物雑誌』)。	和田しづま(歌六)、笹木丹右衛門(紋三郎)、平作娘およね(三吾)、政右衛門女房おたに(三吾)、こんだ内記(金四)、しふと五右衛門(金助)、桜田林左衛門(紋三郎)、唐木政右衛門(門蔵)、呉服や十兵衛(金四)、駕かき平作(門蔵)、池そへ孫八(門二)、幸兵へ娘おそで(紋三郎)、山田幸兵へ(金四)。	
一八三一	天保2	4/6～	河州 葛井寺地内	伊賀越道中双六	沼津里の段(口 当勢、切 当美)。	およね(東十郎)、ごふくや重兵へ(清七)、平作(三吾)、池そへ孫八(善十郎)。	
△	一八三一	天保2	11/10	武州粕壁 奥州屋	(伊賀越)	新せき、ぬまづ。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
△	一八三二	天保3	8/17 8/20	江戸品川本宿 川熊	(伊賀越)	七ツ目(実)、八ツ目(実)。 沼津(実)。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
△	一八三二	天保3	9/5頃	相州箱根 福住	(伊賀越)	沼津(実力)。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
一八三二	天保3	11/25～	いなり社内	伊賀越 宿次七泊り	大序 花見の段(さと、鹿、光、歳)、行衛屋敷の段(口 志賀、切 湊)、円覚寺の段(口 島、切 久)、木辻の段(かけ合 久・島・湊・由良・沢、切 長門)、沼津の段(住)、新関の段(谷)、岡崎の段(口 長門、切 むら)。 ※角書「乗掛合羽／道中双六」。 ※「菅丁目ヨリ八丁目までのこらず奉御覧二入候」(番付)。 ※「新関の段」竹本谷太夫の部分が空白となった別番付あり。	和田志津馬(門三)、佐々木丹右衛門(岩五郎)、およね(辰五郎)、沢井又五郎(清七)、おたに(辰五郎)、本田内記(門蔵)、林左衛門(門三)、唐木政右衛門(金四)、ごふくや十兵へ(岩五郎)、平さく(門蔵)、池添孫八(三四)、おそで(小辰)、幸兵へ(門蔵)。	
一八三三	天保4	4/16～	御霊社内	伊賀越道中双六	沼津里の段(磯＝燕三)。	およね(国八)、ごふくや重兵へ(東十郎)、平さく(新吾)、池そへ孫八(文吾)。	
△	一八三三	天保4	6/12～	名古屋 広小路神明	(伊賀越)	遠目かね(コイ万)。 ※『名陽見聞図会』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八三四	天保5	1	堺 宿院芝居	伊賀越道中双六	沼津のだん（氏）。	娘およね（三吾）、ごふくや十兵へ（冠四）、沼津の平さく（千四）、池ぞへ孫八（吉之助）。
一八三四	天保5	11/23~	京 因幡薬師芝居	伊賀越	沼津ノ段（氏）。 ※素浄瑠璃。	
一八三四	天保5	11	（不明） 中島芝居	（伊賀越道中双六）	沼津（文字）。	
△ 一八三五	天保6	2/4~	名古屋 広小路神明社	（伊賀越）	沼津の段（富）。 ※『名陽見聞函会』、『見世物雑誌』に拠る。	
一八三五	天保6	10/2~	いなり境内	伊賀越 宿次十三泊	花見のだん（さと）、行衛やしきのだん（口叶、切綾、跡倉）、上杉館のだん（為）、円覚寺のだん（口さと、切巴勢）、上杉館の段（倉）、明神のだん（為）、郡山やしきのだん（口巴勢、切長門）、般若坂ノ段（綾、沢井又五郎／やつこ武介／おしや左内 吉田金四／右三やく早がはり出づかひにて相つとめ申候）、沼津のだん（綱）、新関のだん（綾）、岡崎のだん（口長門、切住）、ふしみ宿屋のだん（かけ合 綱・倉・さと・巴勢・むら戸・為・長門）、かたき討のだん（かけ合 むら戸・八津・稲・辰）。 ※角書「乗掛合羽ノ道中双六」。 ※「当浄るり場数多く候ゆへ大序より大切迄まくなしに仕りノ早朝より相始メ申候間何卒賑々敷御来駕之程奉希上候以上」（番付）。	渡辺志津馬（三四）、佐々木丹右衛門（とく蔵）、けいせい瀬川・およね（辰五良）、沢井又五郎（金四）、政右衛門女房お谷（辰五良）、本田内記（とく蔵）、宇佐美五右衛門（門蔵）、桜田林左衛門（門三）、唐木政右衛門（金四）、ごふくや十兵へ（とく蔵）、平さく（門蔵）、池添孫八（金車）、娘おそで（猪三郎）、幸兵へ（門蔵）。
△ 一八三五	天保6	12/28~	座摩境内	（伊賀越）	※六代目染太夫の旧蔵番付書込みに、「かわり浄るり伊賀越」とあるに拠る。	
一八三五 ~ 一八三六	天保6 ~ 天保7	?/15~	京 竹屋町堀川東江 入 長楽亭	伊賀越	沼津（尾木＝卯之助）。 ※天保6年後半～天保7年前半（『義太夫年表 近世篇』）。	
△ 一八三六	天保7	10/18~	名古屋 清寿院門内豊後 跡小屋	（伊賀越）	八つ目（咲＝勘七）。 ※素浄瑠璃。 ※『見世物雑誌』に拠る。	
一八三七	天保8	4/8~	御霊社内	伊賀越敵討 大序より 八つ目まで	花見の段（いづ、津多、八十）、ゆきゑ屋しきのだん（口律、中信、切実、跡津多）、上杉屋敷の段（口桂、おく八重）、円覚寺の段（口寿、切むら、跡信）、般若坂の段（口実、吉田兵倍ノ此所にて三やく右出づかひ早かわりにて相つとめ申候）、沼津の段（切靱）、新関の段（寿）、岡崎の段（口八重、切綱）。 ※角書「乗掛合羽ノ道中双六」。	和田しつまつ（文造）、佐々木丹右衛門（喜十郎）、瀬川・およね（東三）、沢井又五郎（東九郎）、おたに（兵信）、桜田林左衛門（八九）、唐木政右衛門（文三）、ごふくや重兵へ（文三）、平さく（兵信）、池ぞへ孫八（猪三郎）、おそで（猪三郎）、山田幸兵衛（国五郎）。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八三八	天保9	4/26~	江戸 結城座	伊賀越道中双六 拾巻冊物	花見の段(口 土勢、次 増)、行家屋しきの段(口 多磨、切 下り泉)、郡山屋しきの段(口 増、切 文字)、出立の段(土佐)、はんにや坂の段(播磨、下り 吉田千四/此所五役早代り仕候)、沼津の段(氏=勝七)、新関の段(多磨)、岡崎の段(口 氏、切 土佐=勘五郎)。	志津馬(兼三郎)、瀬川(伊三郎)、又五郎(下り 千四)、おたに(力蔵)、大内記(東九郎)、郷右衛門(新十郎)、林右衛門(六二)、政右衛門(伊三郎)、十兵衛(新十郎)、平作(下り 千四)、孫八(新蔵)、おそで(大三郎)、幸兵へ(東九郎)。
一八三八	天保9	4/28~	稲荷社内東芝居	伊 賀 越	般若坂の段(島、沢井又五郎/いしや奥山右内/石とめ武介 吉田辰造/右三やく出遣ひ早がはりにて相勤申候)、沼津の段(口 咲、切 勢イ見)、岡崎の段(口 大隅、切 靱=咲治)。 ※角書「乗掛合羽/道中双六」。	渡辺しづま(徳次郎)、娘およね(辰造)、政右衛門女房お谷(辰五郎)、唐木政右衛門(徳造)、ごふくや十兵へ(勝造)、沼津ノ平作(東十郎)、池ぞへ孫八(咲造)、娘おそで(百造)、山田幸兵衛(門造)。
一八三八	天保9	10	京 四条道場芝居	伊賀越道中双六	桜ノ馬場の段(真島、萩)、靱負屋敷の段(口 当喜、切 筆戸、跡 増)、円覚寺の段(口 当勇、切 操)、沼津の段(岡)、般若坂の段(実、吉尾兵吉/此所出づかひ早替りにて御覧二入候)。	しづま(宗吉)、佐々木丹右衛門(文蔵)、娘およね(喜十郎)、沢井又五郎(兵吉)、唐木政右衛門(文三)、ごふくや十兵へ(九幸)、平さく(国五郎)、池添孫八(朝右衛門)。
一八三九	天保10	11/1~	稲荷社内東芝居	伊 賀 越 大序より 岡崎迄 つゞき八丁	花見の段(十七、真島)、靱負家舗ノ段(口 桂、切 梶)、円覚寺の段(口 佐賀、切 綱、勢イ見)、上杉館の段(跡 音)、明神の段(口 はる)、郡山家舗ノ段(中 い、切 若)、沼津の段(切 重)、新関の段(佐賀、唐木政右衛門/やつこ助平/大山入之丞/ざとうふく市/品玉や玉介 吉田兵吉/右五やく此所二而早かわり相つとめ申候)、岡崎の段(口 梶、切 綱)。 ※角書「乗掛合羽/道中双六」。 ※語り「ふり出しは 行烈揃へた勅使の御入に意根の始り/上りは 最先祝ふ下り船の舟玉に諸願成就の敵内」。 ※六代染太夫旧蔵番付書込みに「沼津重太夫かわり役四日勤ル 三味線広助」と記す(『義太夫年表 近世篇』)。	渡辺志津馬(文造)、佐々木丹右衛門(国五郎)、けいせい瀬川(徳治郎)、娘およね(辰五郎)、沢井又五郎(新五郎)、政右衛門女房お谷(辰五郎)、菅田大内記(徳造)、宇佐美五右衛門(国五郎)、桜田林左衛門(文造)、唐木政右衛門(兵吉)、ごふくや十兵衛(国五郎)、沼津ノ平作(徳造)、池添孫八(新五郎)、娘おそで(喜十郎)、山田幸兵衛(徳造)。
一八四〇	天保11	4/2~	名古屋 清寿院御境内	伊賀越道中双六	沼津の段(豆熊)。	およね(玉造)、十兵へ(福之助)、平作(正吉)、孫八(巳之助)。
一八四〇	天保11	6	道頓堀若太夫芝居	伊賀越道中双六	沼津の里の段(千代=高麗造)。 ※「子供浄瑠璃緑見台」の内。	およね(咲造)、重兵へ(冠作)、平さく(一巴)、孫八(正吉)。
一八四〇	天保11	10/3~	座摩社内西芝居	伊賀越道中双六	沼津の段(弥)。	およね(咲造)、ごふくや十兵へ(元五郎)、平さく(一暁)、池添孫八(文五郎)。
一八四〇	天保11	11/7~	御霊社内芝居	伊賀越道中双六	沼津の段(内匠)。	およね(清十郎)、ごふくや十兵へ(冠四)、平さく(門蔵)、池添孫八(歌蔵)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八四一	天保12	9/6~	座摩西の芝居	伊賀越 宿次七泊り	花見のだん(岸、巴枝)、沢井屋しきの段(八百、当久、錦翁軒)、行家屋しきの段(口辰、切琴、跡美和)、上杉館の段(口峰、おく勝)、円覚寺のだん(口八百、切咲、頼母)、木辻のだん(かけ合茂・琴・勝・当久・美和・巴枝、切内匠)、般若坂の段(淀)、沼津のだん(錦翁軒)、新関のだん(琴)、幸兵衛住家の段(口内匠、切咲=広作)。 ※角書「乗掛合羽ノ道中双六」。 ※「吉丁目ヨリ八丁目までのこらず奉御覧ニ入候」(番付)。	渡辺しづま(福之助)、佐々木丹右衛門(文蔵)、およね(国八)、沢井又五郎(文三)、女房おたね(国八)、菅田内記(新吾)、桜田林左衛門(文蔵)、唐木政右衛門(文三)、ごふくや十兵衛(新吾)、平さく(文三)、池添孫八(朝右衛門)、娘おそで(国五郎)、幸兵衛(新吾)。	
△	一八四二	天保13	5中旬	京 四条南側芝居	伊賀越	※「天保改革令により人形が差し止めとなったため、竹本染太夫、竹本梶太夫らによって行われた素浄瑠璃興行」「素浄瑠璃にて「伊賀越」を四、五日興行するが、五月十七日またもや大雨のため、芝居打止め」(『義太夫年表近世篇』)。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
△	一八四二	天保13	6下旬	中 の芝居	(伊賀越道中双六)	八(綱)、沼津(内匠)。 ※素浄瑠璃。 ※『大歌舞妓外題年鑑』に拠る。	
	一八四二	天保13	8/1~	あ みだ池	(伊賀越道中双六)	沼津(梶)。 ※「時代ノ世話 みどり浄瑠璃」の内。	
	一八四二	天保13	9/1~	堀 江市の側芝居	伊賀越敵討 大序ヨリ 八つ目まで	花見のだん(口元、切梶戸)、行衛やしきのだん(口得、切当能、跡梶戸)、円覚寺のたん(口当久、切茂)、上杉やかたの段(氏戸)、政右衛門やしきのだん(口錦、切君)、大広間のだん(当能)、はんにや坂のたん(錦木)、沼津のだん(若=清左衛門)、新関のだん(口多満、跡当久)、岡ざきのたん(口茂、切氏)。 ※角書「道中双六ノ乗掛合羽」。 ※「花見のだん」竹本梶戸太夫の役場を「奥」とし、「新関のだん」竹本多満太夫の役場の「口」の表記がない別番付あり。	和田志津馬(咲造)、佐々木丹右衛門(新五郎)、娘およね(辰五郎事二喬)、又五良(猪造)、妻おたね(辰五郎事二喬)、大内記(徳造)、宇佐見五右衛門(源吾)、桜田林左衛門(金三)、唐木政右衛門(金四事花兄)、呉服や重兵衛(辰造)、平さく(徳造)、池ぞへ孫八(惣吉)、娘おそで(新五郎)、山田幸兵衛(徳造)。
△	一八四二	天保13	9/27~	徳 島二軒屋 長見寺	(伊賀越)	八段目(長門)、沼津(出羽)。 ※『元木家記録』に拠る。	
△	一八四二	天保13	9	北 ノ新地芝居	(伊賀越)	岡崎の段(紋)。 ※『浄瑠璃大系図』に拠る。	
	一八四二	天保13	10/2~	名 古屋 若宮御境内	伊賀越	沼津(志渡事房)。	
	一八四二	天保13	11/5~	堺 堺新地南芝居	伊賀越道中双六	新関のだん(寿)、岡崎のだん(口小野、切巴)。 ※『染太夫一代記』によれば、「新関所」の三味線は源吉、「岡崎のだん」の三味線は広作。	志津馬(宗十郎)、おたに(重八)、政右衛門(文三)、おそで(冠三)、幸兵衛(門十郎)。
△	一八四二	天保13	11/26	紀 州 橋本花会	(伊賀越)	沼津(梶=清八)。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
	一八四三	天保14	2	名 古屋	伊賀越	八つ目(綱)。	

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八四三	天保14	5/16~	ほり江市の側芝居	伊賀越宿次八泊	大序(木曾、市、柏)、行衛屋しきのだん(口得、中喜代、切氏)、松原のだん(紅梅)、円覚寺のだん(中恵見、おく春、切岡)、般若坂の段(口時)、沼津の段(切氏=広助)、新関の段(越)、藪垣の段(勇)、岡崎の段(口春、切染)。 ※角書「乗掛合羽／道中双六」。	和田志津馬(咲造)、佐々木丹右衛門(重五郎)、娘およね(辰五郎)、沢井又五郎(喜十郎)、政右衛門女房おたね(辰五郎)、こん田内記(徳蔵)、桜田林左衛門(金三)、唐木政右衛門(金四)、ごふくや十兵衛(辰造)、沼津平さく(徳蔵)、池添孫八(源吾)、娘おそで(重五郎)、山田幸兵衛(徳蔵)。
一八四三	天保14	6/2	宮島	伊賀こへ	(柏)。	
一八四三	天保14	6/10~	京四条北側芝居	伊賀越道中双六全部九巻	花見のたん(口松、おく梶の)、行衛屋舗のたん(口志我、中吉野、切当能、跡得)、木辻揚屋之たん(カケ合当能・吉野・梶戸・古島・得・梶の、切津島)、はんにや坂のたん(古島)、上杉館のたん(筆戸)、円覚寺の段(口勇、切駒)、沼津のたん(若=清左衛門)、新関所の段(津島)、藪垣のたん(得)、岡崎之たん(口当能、切氏)。 ※番付の日付は「六月吉日」とあるが、『染太夫一代記』の記述に従い、10日初日とした(『義太夫年表 近世篇』)。 ※「上杉館のたん」の役割を竹本綱戸太夫とする別番付もあり。	しずま(福之介)、丹右衛門(文造)、娘およね(国八)、又五郎(一暁)、女房おたに(国八)、内記(一暁)、桜田林左衛門(文造)、唐木政右衛門(新吾)、呉服や十兵へ(文造)、平さく(新吾)、池添孫八(国三郎)、娘おそで(国三郎)、幸兵へ(一暁)。
一八四三	天保14	6/24~	宮島	(伊賀越道中双六)	ぬまつ(広、島)。	およね(新五郎)、十兵衛(金三)、平作(徳造)。
一八四四	天保15	1	堺新地芝居	伊賀越乗掛合羽	沼津の段(田組)。	およね(新五郎)、ごふくや十兵へ(冠十郎)、平さく(徳造)、いけづい孫八(亀吉)。
一八四四	天保15	3上旬	紀州建貸芝居	伊賀越道中双六	沼津のさと(一日かはり二相つとめ申候 てる／江戸 巴勢=弥七)。	およね(力弥)、重兵衛(峰蔵)、平作(鶴助)、孫八(要助)。
一八四四	天保15	4/4	阿波観音寺村	(伊賀越道中双六)	沼津(源)。 ※『元木家記録』に拠る。	
一八四四	天保15	4/15	西宮西ノ宮今在家芝居	伊賀越	八(染)。 ※「夏げしきみどりの見台」の内。 ※『染太夫一代記』には「沼津」は梶太夫の役場とある。	
一八四四	天保15	5/5~	江戸結城座	伊賀越道中双六続十冊物	花見のたん(羽矢)、行家屋敷のだん(口桂、中沖、切巴恵)、郡山より大広間迄(口曾賀、切津賀)、磐若坂のたん(巴恵、吉田千四／式やく早かわり相つとめ申候)、沼津の里のたん(額)、新関のたん(松尾)、岡崎のたん(口富、切中)。 ※角書「唐木政右衛門／沢井又五郎」。	しつま(源吾)、丹右衛門(秀十郎)、およね(金助)、又五郎(千四)、おたに(周蔵)、大内記(千助)、うさみ五右衛門(荒吉)、さくら田林左衛門(秀十郎)、政右衛門(千四)、呉ふくや十兵衛(六二)、平作(千四)、いけそへ孫八(源吾)、おそで(周蔵)、幸兵衛(六二)。

△

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八四四	天保15	5	道頓堀竹田芝居	伊賀越 つゞき十一段	大序 花見の段(米、瀬戸、今)、鞆負やしきの段(口 若尾、中 峰、切 絹)、松原の段(跡 小)、上杉やしきの段(要)、円覚寺の段(口 当久、切 咲)、木辻茶屋の段(かけあい 絹・峰・小・今・真島・是、切 茂)、般若坂の段(是)、沼津里の段(若)、新関の段(多満、跡 要)、岡崎の段(口 茂、切 綱=伝吉)。 ※角書「乗掛合羽ノ道中双六」。	志津馬(国三郎)、丹右衛門(喜十郎)、瀬川・およね(清十郎)、沢井又五郎(正三)、おたに(国八)、菅田内記(徳蔵)、林左衛門(喜十郎)、唐木政右衛門(門蔵)、呉服や重兵へ(喜十郎)、平さく(徳蔵)、池添孫八(国助)、おそで(清十郎)、山田幸兵へ(徳蔵)。	
△	一八四四	天保15	9月上旬	徳島 佐古	(伊賀越)	沼津の里段(梶)。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
△	一八四五	弘化2	6/10~	尾州 大津町正万寺	伊賀越	※『小寺玉晁記録』に拠る。	
	一八四五	弘化2	10/4~	西宮 西宮芝居	伊賀越道中双六 大序より 八つ目迄	花見の段(口 入、ヲク 錫)、行衛屋敷段(口 市、切 錦)、上杉屋舗の段(口 美尾、ヲク 泉)、円覚寺の段(口 市、切 君登)、かつたい村の段(多賀)、沼津里ノ段(梶)、関所の段(口 梶戸)、岡崎の段(口 梶、切 綱=伝吉)。 ※角書「和田志津馬ノ沢井又五郎」。	しす馬(巳之助)、丹右衛門(冠四)、およね(国八)、又五郎(文三)、おたに(国八)、から木政右衛門(文三)、重兵衛(冠四)、平作(文三)、孫八(友造)、おそで(咲造)、幸兵衛(冠四)。
	一八四五	弘化2	10	名古屋 若宮御社内	伊賀越	八つ目(巴)。	
	一八四五	弘化2	11	兵庫 兵庫芝居	伊賀越 宿次八泊	大序(梶戸)、行衛屋敷ノ段(口 市、切 梶戸)、松原の段(浅香)、円覚寺の段(口 三木、切 君登)、般若坂の段(多賀)、沼津の段(切 梶)、新関の段(浅香)、藪垣の段(市)、岡崎の段(口 多賀、切 染)。 ※角書「乗掛合羽ノ道中双六」。 ※別番付の場割・配役は次の通り。大序(梶戸)、行衛館(市、君ト、梶戸)、円覚寺(三木、君ト)、かつたい村(多賀)、沼津里(梶)、関所(梶戸、市)、岡崎之段(多賀、染)。また、人形役割は和田志津馬(治三郎)、林左衛門(吉二郎)、池添孫八(市松)とある。	しづま(文吉)、丹右衛門(喜十郎)、およね(国八)、又五郎(文三)、お谷(国八)、林左衛門(八十郎)、唐木政右衛門(文三)、十兵衛(冠四)、平さく(喜十郎)、孫八(治三郎)、おそで(咲造)、幸兵衛(冠四)。
	一八四五	弘化2	11	尾州 宮宿亀井山御境内	伊賀越道中双六 錦摺式枚	般若坂の段(登賀)、沼津の段(男徳齋)。	妹およね(三之助)、呉服や十兵へ(金三)、沼津平作(伝七)。
	一八四五	弘化2	11	名古屋 若宮御社内	伊賀越道中双六	盤若坂之段(曾根、早替り 豊松伝七相勤申候)、沼津之段(田組)。	およね(三吾)、沢井又五郎(伝七)、呉服や重兵へ(重五郎)、駕かき平作(虎造)、いけぞへ孫八(音吉)。
	一八四六	弘化3	2	紀州 建かし	伊賀越	八つ目(口 久我、切 巴=清八)。	しづま(助八)、おたね(勝造)、政右衛門(利平)、おそで(国五郎)、幸兵へ(鶴助)。
	一八四六	弘化3	3	道頓堀竹田芝居	伊賀越道中双六	沼津の段(江戸 錦)。	およね(新五郎)、ごふくや十兵へ(猪造)、平さく(門蔵)。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八四六	弘化3	4/10~	甲府 亀屋座	伊賀越道中双六 大序より 敵討迄	花見之段(喜久)、行家屋舗之段(口豊、中伊磨、切絹)、鳥居之段(口豊、奥志磨)、郡山之段(口富、切播磨)、出立之段(高麗=紋左衛門)、般若坂之段(絹、此所三役早替り相勤候 西川伊三郎)、沼津之段(播磨)、関所之段(志磨、跡伊磨)、岡崎之段(口富、切越)、敵討之段(豊、喜久)。 ※角書「沢井又五郎/唐木政右衛門」。 ※上演の日付は七日の可能性を残す(『義太夫年表 近世篇』)。	和田志津馬(兼三郎)、佐々木丹右衛門(六二)、瀬川(国五郎)、沢井又五郎(伊三郎)、政右衛門女房おたに(刀造)、菅田大内記(新一郎)、宇佐美吾右衛門(国五郎)、桜田林左衛門(六二)、唐木政右衛門(伊三郎)、呉服屋重兵衛(六二)、雲助平作(伊三郎)、池添孫八(兼三郎)、幸兵衛娘お袖(六三)、山田幸兵衛(新一郎)。	
一八四六	弘化3	10/11~	道頓堀竹田芝居	伊賀越敵討 大序より 八つ目まで	花見のだん(千代、綱尾、勝)、ゆきゑやしきのだん(口千代、切島)、松原のだん(久我)、上杉館のだん(広)、円覚寺のだん(口富、切大登)、上杉館のだん(咲)、般若坂のだん(当久)、沼津のだん(切綱)、新関のだん(島)、岡崎のだん(中大登、切大住)。 ※角書「道中双六/乗掛合羽」。	志津馬(徳十)、佐々木丹右衛門(新五郎)、およね(辰造)、沢井又五郎(冠三)、女房おたに(弥三郎)、桜田林左衛門(新五郎)、政右衛門(金四)、呉服や重兵衛(喜十郎)、平さく(弥三郎)、池添孫八(玉造)、娘おそで(咲造)、山田幸兵衛(喜十郎)。	
一八四七	弘化4	11/11~	紀州 建がし芝居	伊賀越	八つ目(江戸組=勝造)。 ※「桂川 おびや」と一日替り。	しづま(伊久造)、おたね(筆五郎カ)、政衛門(熊造)、おそで(芳吉)、幸兵衛(長四郎)。	
△	一八四七	弘化4	江戸茅場町 高松亭	伊賀越	沼津(梶)。 八(梶)。 ※『染太夫一代記』に拠る。		
		11/16 11/25					
一八四八	弘化5	2/2~	名古屋 清寿院御境内	伊賀越	沼津ノ段(三国)。 ※「子供浄瑠璃」の内。		
一八四八	嘉永1	3頃	入郷村	道中双六伊賀越 敵討	大序(直)、ゆきへやしき(口萩、切市)、円覚寺(口直、切多賀)、木辻(かけ合 弥・加)、はんにや坂(二見)、沼津(津島)、新せき(萩)、岡さき(口二見、切染)。	しづま(亀三郎)、さゝき(大次郎)、およね(国八)、又五郎(金吾)、お谷(喜十郎)、政衛門(虎造)、十兵衛(大次郎)、平さく(文吾)、孫八(亀助)、おそで(国八)、幸兵衛(文吾)。	
△	一八四八	嘉永1	10上旬 以降	伊勢 古市	伊賀越	八つ目(一鳥軒)。 ※「子供浄るり」の内。 ※『伊勢歌舞伎年代記』に拠る。	
一八四九	嘉永2	3/7~	名古屋 若宮御社内	伊賀越	岡崎の段(浪花)。 ※「子供浄瑠璃」の内。		

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八四九	嘉永2	5	西よこぼり清水町浜	伊賀越道中双六	大序(菊・津广=朝ぞ蔵、三千=団八)、行衛やしきの段(富司=清四)、縄手のだん(浜=吉六)、上杉やしきの段(春戸=鶴太郎)、円覚寺のだん(口 淀木=由三郎、切 当久=仙八)、政右衛門やしきの段(口 萩=広八、切 津島=十蔵)、般若坂のだん(田喜=燕三)、沼津の段(切 梶=燕三)、新関のだん(当久=仙八)、岡崎のだん(口 津島=十ぞ蔵、切 若=団平)。 ※「岡崎のだん」の三味線を「十蔵」とする別番付あり。 ※『染太夫一代記』はこの興行について「この『伊賀越』より、切一幕づゝ人形入れる。これ西横堀浄瑠璃、人形入りのはじめなり」と記す(『義太夫年表 近世篇』)。		
△	一八四九	嘉永2	10前半カ	松山城下五穀神境内	(伊賀越道中双六)	沼津の里(梶カ)。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	2/4	伊予西条新居浜慈明寺	(伊賀越)	沼津(梶)。 ※素浄瑠璃。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
	一八五〇	嘉永3	5/1~	江戸両国回向院於境内	伊賀越道中双六大序より仇討迄	大序(常盤)、行家屋敷のだん(口 巴磨、切 幾)、円覚寺のだん(口 巴磨、切 此母)、政右衛門屋敷の段(口 幾、切 古野)、大広間のだん(是)、沼津のだん(島)、新関所のだん(是)、岡崎のだん(口 梶尾、切 麻喜)、茶見世のだん(古野)、仇討のだん(カケ合 梶尾・巴磨・幾)。	和田志津馬(巳の助)、佐々木丹右衛門(六二)、およね(冠平)、沢井又五郎(幸五郎)、おたに(幸五郎)、本田内記(冠二)、宇佐美五右衛門(力造)、桜田林左衛門(冠平)、唐木政右衛門(伊三郎)、呉服や十兵衛(六二)、平作(新十郎)、池添孫八(桃太郎)、おそで(幸五郎)、山田幸兵衛(六二)。
△	一八五〇	嘉永3	夏頃	播州大 咲	(伊賀越)	六(左乃)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	夏頃	播州網 干	(道中双六伊賀越)	六(佐野)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
	一八五〇	嘉永3	8/1~	新築地清水町浜文楽小家	伊賀越	八つ目(東=菊松)。 ※「みどり浄瑠璃」の内。	
	一八五〇	嘉永3	9	道頓堀竹田芝居	伊賀越つゝき十一段	花見のだん(口 杣、おく 三木)、鞆負やしきのだん(口 秀、喜代、切 多満)、松原のだん(三木)、上杉やしきノ段(口 市、おく 佐賀)、円覚寺の段(中 菅、お口 中)、木辻茶やのだん(カケ合 浪・佐賀・賀・菅・市・理・喜代、切 湊)、般若坂のだん(賀、切 浪)、沼津のだん(田組)、新関のだん(多満、跡 菅)、岡崎のだん(理、中 中、切 長登)。 ※角書「道中双六ノ乗掛合羽」。 ※「鞆負やしきのだん・口」竹本秀太夫を竹本森太夫とし、「般若坂のだん・切」を「おく」とする別番付、また「木辻茶やのだん」「般若坂のだん」の竹本賀太夫も竹本森太夫とする別番付あり。	佐々木丹右衛門(新五郎)、瀬川(冠三)、およね(辰造)、沢井又五郎(文五郎)、お谷(辰造)、大内記(文三)、桜田林左衛門(喜十郎)、荒木政右衛門(門蔵)、ごふくや十兵衛(喜十郎)、平作(門蔵)、池添孫八(大次郎)、おそで(新五郎)、山田幸兵衛(文三)。
	一八五〇	嘉永3	11/14~	堺さかい新地南芝居	伊賀越	六つ目(末)。 ※子供浄瑠璃興行。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一八五一	嘉永4	1	清水町浜	伊賀越	八ノ口(秀)。 ※「緑り浄瑠璃」の内。	
△	一八五一	嘉永4	7頃	江戸 さや丁	(伊賀越)	沼津(伊勢=鬼市)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五一	嘉永4	7頃	江戸 結城座	(伊賀越)	沼津(春=仲助)、岡ざき(口理=泰治郎)、雪ふりのだん(長門=清七)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	およね(文四)、お谷(伊三郎)、政右衛門(国五郎)、十兵へ(伊三郎)、平さく(冠二)、幸兵へ(冠二)。
△	一八五一	嘉永4	8/1	江戸 両国	(伊賀越)	沼津(小定)、政右衛門屋舗(氏)。	
		8/5	六つ目(氏)、八つ目(長子)。				
		8/8	平作内(小定)。				
		8/14	沼津(小定)。 ※『弥太夫日記』に拠る。				
△	一八五一	嘉永4	8以後	江戸 駿河丁席	(伊賀越)	六つ目(口小定)、こんれい(氏)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五二	嘉永5	5/5~	清水町浜	伊賀越乗掛合羽 大序より 八つ目まで	花見のだん(田勢=藤平、咲美=重太郎、緑=庄二郎)、行衛屋舗のだん(口梶勢=楠造、中梶虎=□□郎、切千賀=団十郎、跡喜久=豊四)、円覚寺のだん(口梶さ=団八、切当久=仙八)、般若坂のたん(三国=米作)、沼津のだん(切咲=豊吉)、関所のだん(田喜=団十郎、跡塚=□□郎)、岡崎のだん(口久=鶴太郎、切染=団平)。	志津磨(玉造)、丹右衛門(文五郎)、およね(辰造)、股五郎(文五郎)、おたに(辰造)、政右衛門(門造)、重兵へ(玉造)、平作(門造)、孫八(新五郎)、おそで(新五郎)、幸兵へ(才治)。
△	一八五二	嘉永5	11/1	法善寺	(伊賀越)	六(磯、是)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五三	嘉永6	2/4	大坂	(伊賀越)	(長子=くま吉)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五三	嘉永6	4/28	京	(伊賀越道中双六)	八(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五三	嘉永6	9	堺 堺新地南芝居	伊賀越道中双六 つゞき十一段	花見ノ段(小八重、梅、音の、卯)、鞆負屋敷ノ段(口鳴瀬、切千賀)、松原ノ段(道)、上杉やしきノ段(口卯、奥森)、円覚寺ノ段(口道、切富司)、木辻茶屋の段(かけ合千賀・多賀・森・鳴瀬・二見・富)、般若坂ノ段(口音の、奥多賀)、沼津ノ段(八重)、新関ノ段(二見、跡鳴瀬)、岡崎ノ段(多賀、富司、長尾)。	渡辺しづま(勢造)、さゝ木丹右衛門(光造)、およね(冠十郎)、沢井又五郎(才治)、おたに(国八)、本田内記(光造)、桜田林左衛門(金吾)、あら木政右衛門(才治)、ごふくや十兵へ(大二郎)、平さく(門蔵)、孫八(福之助)、おそで(国八)、山田幸兵へ(冠十郎)。
△	一八五三	嘉永6	11/26	播州 明石平松山	(伊賀越)	沼津のだん(田組)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五三	嘉永6		大坂カ	(伊賀越)	(小隅)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
	一八五四	嘉永7	3/27~	道頓堀法善寺境内	伊賀越	沼津里(口谷、切鞆木)。	

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八五四	嘉永7	8/15~	伊勢 勢州古市芝居	伊賀越道中双六 大序ヨリ 八つ目迄	大序(福、芳)、行衛屋敷段(口 浜、切 久我)、円覚寺ノ段(口 島戸、切 伊豆)、沼津の段(切 浪)、新関の段(種、跡 浜)、岡崎の段(口 久我、切 対馬)。	和田しづま(勢造)、佐々木丹右衛門(新三)、けいせい瀬川(三吾)、およね(東三)、沢井又五郎(金子)、おたに(三吾)、本田内紀(三朝)、唐木政右衛門(才治)、こふくや重兵へ(金作)、平さく(才治)、池添孫八(小才)、おそで(東三)、山田幸兵へ(金子)。
一八五四	嘉永7	10月上旬以降	名古屋 清寿院御境内	伊 賀 越	沼津のだん(逸=吉之丞)。 ※素浄瑠璃。	
一八五五	安政2	3	新築地清水町浜	伊 賀 越 大序より 八つ目迄	大序 花見の段(芳、三津、喜志、曾根)、和田行衛屋敷のだん(口 音賀、中 和国、切 弥)、縄手のだん(跡 巴津)、上杉館のだん(口 秀、おく 多賀)、円覚寺のだん(中 町、切 むら、巴)、般若坂のだん(勇)、政右衛門伝授の段(中 佐賀、切 田組)、沼津のだん(切 湊)、新関所のだん(田喜、跡 当勢)、岡崎のだん(中 勇、切 巴)。 ※角書「乗掛合羽ノ道中双六」。 ※「上杉館のだん・おく」豊竹多賀太夫を竹本佐賀太夫とする別番付あり。	
一八五五	安政2	3	名古屋 清寿院御境内	伊賀越道中双六	沼津のだん(蟠竜軒=庄治郎)。	
一八五五	安政2	4	京 京四条北側大芝居	伊賀越道中双六 大序より 八つ目マテ	大序(鶴尾)、花見のだん(初、蔦、りつ、さの、島戸、鹿、鷹)、靱負屋敷のだん(口 房、切 浪)、松ぼらのだん(口 小津賀)、上杉屋形のだん(成)、円覚寺の段(口 房事 寿、切 寿事 津賀)、菅領館の段(山登)、般若坂のだん(口 志賀、おく 氏戸)、政右衛門やしきの段(浪、津島=重造)、沼津里の段(春)、新関所の段(多満)、岡崎のだん(中 越、切 長登)。 ※「靱負屋敷のだん・切」豊竹浪太夫を豊竹浪戸太夫、「上杉屋形のだん」竹本成太夫を竹本成尾太夫とする別番付あり。	和田しづま(仙介)、佐々木丹右衛門(才蔵)、およね(兵吉)、沢井又五郎(千介事 文蔵)、政右衛門女房お谷(兵吉)、菅田内記(兼三郎)、桜田林左衛門(千介事 文蔵)、唐木政右衛門(文五郎事 文三)、こふくや重兵衛(兼三郎)、平さく(千四)、池添孫八(三朝)、娘おそで(国三郎)、幸兵衛(才治)。
一八五五	安政2	8/24	京 四条北側芝居	伊賀越道中双六	八つ目(巴=燕三)。	
一八五五	安政2	10以後	江戸	伊 賀 越	岡崎の段(小梶=叶)。	
一八五六	安政3	3/23~	京 四条道場北の席	伊賀越道中双六 大序ヨリ 八つ目マテ	大序 花見のだん(口 袖、奥 和咲=駒吉)、靱負屋敷のだん(口 房=猿次郎、切 山城掾=猿糸)、上杉屋敷のだん(口 津和=猿次郎、奥 蔦=亀助)、円覚寺のだん(口 蔦=為吉、切 浪=音五郎)、政右衛門屋敷のだん(口 房=音五郎、切 越=重助)、はんにや坂のだん(氏戸=亀助)、沼津のだん(切 咲=猿糸)、遠目鏡のだん(小津賀=為造)、岡崎のだん(口 山登=口助、切 津島=重造)。 ※「カケエ」浄瑠璃。	
一八五七	安政4	2/28~	法善寺浄るり席	伊 賀 越	八つ目(磯の)。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八五七	安政4	4	天満社内しん門ノ小家	伊賀越道中総合大序より八冊目まで	生玉花見のだん(対馬)、渡辺屋敷のだん(口 菅=燕市、切 久我=広市)、松原のだん(司=力松)、上杉館のだん(森=延吉)、円覚寺のだん(口 成駒=猿八、中 久我=平吉、切 富司=燕二)、般若寺坂のだん(口 瑠璃=延吉、おく 音代=清九郎)、本田館のだん(口 司=広市、切 津賀=源吉)、沼津里のだん(切 富司=燕二)、藤川新関所だん(島菊軒=平吉)、岡崎雪の段(口 津磨=力松、切 対馬=重造)。 ※角書「渡辺行恵が達人ノ沢井又五郎が不鍛練」。		
一八五七	安政4	5	あみだ池小家	伊賀越道中総合大序より八つ目迄	花見のだん(巴根、田関)、沢井屋敷の段(口 朝羽、中 歳、おく 久我)、和田鞆負屋敷のだん(口 咲の、切 町)、大手口のだん(田関)、縄手のだん(朝羽)、上杉館のだん(口 歳、おく 文)、円覚寺のだん(口 其、切 錦)、宮居のだん(谷)、政右衛門屋敷の段(口 久我、切 筑前)、大広間の段(カケ合 巴・咲・筑前・町)、般若坂のだん(泉)、沼津のだん(切 咲)、新関のだん(鰻)、竹藪のだん(巴津)、岡崎のだん(口 八十、切 巴)。 ※角書「道中双六ノ乗掛合羽」。		
一八五七	安政4	8以前	京	伊賀越道中双六大序ヨリ八ツ目マテ	大序 花見のだん(口 杣、奥 和咲=駒吉)、鞆負屋敷のだん(口 房=猿次郎、切 山城掾=猿糸)、上杉屋敷のだん(口 津和=猿次郎、奥 鶯=亀助)、円覚寺のだん(口 鶯=為吉、切 浪=音五郎)、政右衛門屋敷のだん(口 房=音五郎、切 越=重助)、はんにや坂のだん(寿=亀助)、沼津のだん(切 咲=猿糸)、遠目鏡のだん(小津賀=為造)、岡崎のだん(口 山登=亀助、切 津島=重造)。 ※「カケエ」浄瑠璃。		
一八五八	安政5	10/2~	京 寺町道場北新席	伊賀越	七ツ目(小津賀)、岡崎之段(津賀)。		
△	一八五八	安政5	10/28	紀州 小島	(伊賀越)	六(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五八	安政5	11/11	紀州 西大井村	(伊賀越道中双六)	沼津(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五八	安政5	11/19	紀州 直川	(伊賀越)	六(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五八	安政5	11/27	紀州 和歌山湊本町	(伊賀越)	六(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五九	安政6	3/10	泉州 深日	(伊賀越道中双六)	(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五九	安政6	9/4	紀州 道成寺門前小家	(伊賀越)	沼津(長子=六三郎)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八五九	安政6	9	稲荷社内東芝居	伊賀越 大序より 八つ目迄	大序 花見のだん（むら光、和、勝見、千鳥）、和田行衛屋敷の段（口喜志、切むら）、縄手のだん（跡音賀）、上杉館のたん（口和国、おく田喜）、円覚寺のだん（中佐賀、切咲）、般若坂のだん（多満、沢井又五郎／石留武介／奥山左内 吉田玉造／右三役共出遣ひ早替りにて相勤申候）、政右衛門伝授の段（中氏、切湊）、沼津のだん（切染）、新関のだん（当久、跡佐賀）、岡崎のだん（中実、次春、切長登）。 ※角書「乗掛合羽／道中双六」。 ※番付の日付は「九月吉日より」とあり、番付の2本には「九月廿四日より」の書込みがある。また祐田善雄氏が『近世義太夫年表 義太夫節之部』に書入れた注記には「十四日より（南木氏番付）」とあり、『浄瑠璃大系図』は初日を「九日より」とするので決定しがたい（『義太夫年表 近世篇』）。	和田志津馬（種吉）、佐々木丹右衛門（文三）、およね（新五郎）、沢井股五郎（玉造）、女房お谷（兵吉）、菅田内記（兵吉）、宇佐美郷右衛門（玉造）、桜田林左衛門（兵花）、唐木政右衛門（清七）、呉服屋十兵へ（玉造）、平作（兵吉）、池添孫八（冠寿）、娘おそで（竹吉）、山田幸兵へ（文三）。
△	一八五九	安政6	10/18	紀州 和歌山	（伊賀越） 六（長子＝六三）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五九	安政6	10/19	紀州 大川	（伊賀越） 六（長子＝六三郎）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八六〇	安政7	3/7・8・11 カ	阿州 上ノ浦	（伊賀越） 行衛殺シ（村尾）、円覚寺（狭間、ちくさ、栄）、政右衛門屋敷（常、鹿島）、般若坂（長子）、沼津（筑後）、新関（狭間、勝）、岡崎段（常、土佐）、敵討段（当喜）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八六〇	万延1	4/12	淡州 高村芝居	（伊賀越道中双六） 八。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八六〇	万延1	6/9・15	淡州 佐野	（伊賀越） （長子）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
	一八六〇	万延1	7	あみた池寺内	伊賀越 続八冊 大序 花見ノたん（三羽、二葉、大浜）、和田鞆負やしきノだん（口東、切音の）、円覚寺のだん（口鶴尾、岩美、切久）、政右衛門やしきノだん（口喜代、切筑膳）、般若坂のだん（久登、江戸事東、沢井又五郎／石留武介／奥山左内 吉田兵吉／右三やく出つかひ早がはりにて相つとめ申候）、沼津のだん（切鰻）、新関のだん（長子、跡二葉）、岡崎のたん（口鶴尾、中音の、切長尾）。 ※角書「乗掛合羽／道中双六」。	志津馬（冠寿）、さゝ木丹右衛門（新五郎）、およね（辰造）、おたに（辰造）、林左衛門（小兵）、から木政右衛門（清七）、こふくや十兵へ（文治）、平さく（兵吉）、孫八（千次郎）、おそで（竹吉）、山田幸兵へ（新五郎）。
	一八六〇	万延1	7	江戸 西両国	伊賀越道中双六 続七冊 大序（昇、岡子、矢音）、鎌倉山花見のだん（里）、行家屋敷の段（口信、切房）、馬場先のだん（矢音）、政右衛門屋敷のだん（口頼尾、切曾我）、大広間のだん（雛）、沼津里のだん（頼）、磐若坂の段（当賀、西川伊三郎／此所早替りにて相つとめ申候）。	和田志津馬（六二）、佐々木丹右衛門（冠造）、およね（仲助）、沢井股五郎（伊三郎）、おたに（六二）、本田内記（冠造）、宇佐美五左衛門（六三）、桜田林左衛門（仲助）、唐木政右衛門（伊三郎）、呉服や十兵衛（冠造）、平作（六三）、池添孫八（菊糸）。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八六一	文久1	11	道頓堀竹田芝居	伊賀越 大序より 八つ目まで	大序(菊、田美、曾我)、ゆきへやしきノたん(口尾上、中勝見、切二見、内匠)、円覚寺の段(口絹、切鰻)、政右衛門やしきノ段(中二見、切長尾)、武助内のだん(中絹、切山城掾)、般若坂のだん(浪)、沼津のだん(切春=吉弥)、新関のだん(鰻、跡鶴尾)、岡崎のだん(中伊達、切津島)。 ※角書「乗掛合羽ノ道中双六」。	志津馬(冠十郎)、丹右衛門(清七)、およね(辰造)、股五郎(辰造)、女房お谷(辰造)、菅田内記(門蔵)、五右衛門(辰造)、林左衛門(門治)、唐木政右衛門(清七)、重兵へ(清七)、平さく(門蔵)、池添孫八(常二郎)、娘おそで(兵花)、幸兵へ(門蔵)。	
△	一八六三	文久3	1/4	泉州 深日	(伊賀こへ) 沼津 辻十助(長子)、婚礼(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。		
△	一八六三	文久3	1/5	泉州	(伊か越) 七つ目(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。		
△	一八六三	文久3	1/11 1/12	紀州 和歌山	(伊賀越) 婚礼(長子)。 八(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。		
	一八六三	文久3	3/3~	いなり社内東小家	伊賀越 大序より 八段目まで	花見のだん(田美、左馬、咲花、琴)、鞆負やしきの段(中喜代、切筑前)、縄手の段(跡岩戸)、上杉館の段(和、桑、音賀)、円覚寺の段(中実、切弥)、郡山八幡の段(口佐渡、奥住)、政右衛門伝授ノ段(中佐賀、切染)、般若坂の段(口松尾、奥長枝、沢井又五郎ノ奥山左内ノ石榴武介 吉田玉造ノ右三役出つかひ早かはりニ而相つとめ申候)、沼津の段(切湊)、新関の段(多満、跡実)、岡崎の段(中住、次筑前、切長登)。 ※角書「道中双六ノ乗掛合羽」。	和田志津馬(喜市)、佐々木丹右衛門(新五郎)、娘およね(松江)、沢井又五郎(玉造)、女房お谷(松江)、菅田大内記(才治)、宇佐美五右衛門(喜十郎)、桜田林左衛門(新五郎)、唐木政右衛門(玉造)、ごふくや十兵へ(喜十郎)、平作(才治)、池添孫八(兵枝)、娘おそで(喜志造)、山田幸兵へ(才治)。
△	一八六四	文久4	1/3	泉州 淡輪	(伊賀越) 新関(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。		
△	一八六四	文久4	1/10 1/11	紀州 木駒	(伊賀越道中双六) 遠目かね(長子カ)。 ※太夫は一鳥の可能性もある(『義太夫年表 近世篇』)。 遠目かね(長子=勝之介)。 ※『弥太夫日記』に拠る。		
△	一八六四	文久4	1/14	紀州 大川	(伊賀越) 七つ目(長子=勝之介)。 ※『弥太夫日記』に拠る。		
△	一八六四	文久4	1/15	紀州 大川カ	(伊賀越) (長子=勝之介)。 ※『弥太夫日記』に拠る。		
△	一八六四	文久4	1/16	泉州 深日	(伊賀越道中双六) 遠目鑑(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。		
	一八六四	元治1	3/28	芸州広島	伊かこへ 八つ目(勢見=玉助)。		
	一八六四	元治1	5カ/25~	天満戒門	伊賀越道中双六 大序(入、河内)、鞆負やしきノだん(富田羽、田美、芝登)、円覚寺のだん(艶、鶴尾、鳴門)、般若坂のだん(富田羽、鳴瀬)、沼津のだん(富司)、新関のだん(尾上)、岡崎のだん(艶、鳴門、長尾)。 ※初日を「六月廿五日」とする別番付もあるが、誤刻とみなした(『義太夫年表 近世篇』)。		

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八六四	元治1	7	堺 南 芝 居	伊 賀 越 大序より 八つ目迄	大序(常)、ゆきへ館の段(和)、円覚寺の段(口 浪、切 鯉)、政右衛門館の段(口 和、切 弥)、般若坂の段(浪、又五郎/左内/武介 吉田兵吉/右三役早がはりに二而相つとめ申候)、沼津ノ段(咲)、新関の段(浪)、岡崎の段(口 佐賀、切 染)。 ※「道中双六/乗掛合羽」(外題下)。 ※「新関の段」豊竹浪太夫を豊竹浪登太夫とする別番付あり。	和田志津馬(小玉)、佐々木丹右衛門(小兵吉)、およね(歌録)、沢井又五郎(兵吉)、女房おたね(松江)、内記(兵吉)、宇佐美五右衛門(源十郎)、桜田林左衛門(辰五郎)、唐木政右衛門(文三)、ごふくや重兵へ(辰五郎)、平作(兵吉)、池添孫八(玉三郎)、娘お袖(歌録)、幸兵へ(与市)。
△ 一八六五	元治2	1/14	紀州 大 川 辺	(伊賀越道中双六)	沼津(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
一八六五	元治2	1	天 満 戎 門	伊 賀 越 大序より 大切まで	花見の段(弥噌、弥尾)、鞆負館の段(弥千代、弥儀)、円覚寺の段(口 春栄、中 千鳥、切 音の)、政右衛門館の段(口 谷、切 茂改 氏)、般若坂の段(百合、沢井又五郎/奥山左内/石留武介/かつたい 吉田兵吉/右四役出つかひにて早かはり相つとめ申候)、沼津の段(切 津賀)、新関の段(音の)、岡崎の段(中 鳴門、切 弥=新左衛門)、茶店のたん(春栄)、敵討の段(カケ合 千鳥・弥儀・谷)。 ※角書「道中双六/乗掛合羽」。	和田志津馬(奈ら吉)、佐々木丹右衛門(辰之助)、およね(源十郎)、沢井又五郎(兵吉)、おたに(安造)、菅田大内記(小兵吉)、宇佐美郷右衛門(源十郎)、桜田林左衛門(松助)、唐木政右衛門(兵吉)、呉服や十兵へ(小兵吉)、平さく(松助)、池添孫八(小政)、おそで(辰五郎)、山田幸兵へ(源十郎)。
一八六五	慶応1	6/20~	京 四 条 道 場 北 ノ 小 家	伊 賀 越	沼津ノ段(浜の=亀吉)。	
一八六六	慶応2	3/23~	京 四 条 道 場 北 ノ 小 家	伊 賀 越	沼津ノ段(賀シ輪=常吉)。	
一八六六	慶応2	4/20~	京 四 条 道 場 北 ノ 小 家	伊賀越道中双六	松原の段(要鯉=小兵)、鞆負やしきの段(要鯉=喜市、小賀=鶴太郎)、上杉やしきの段(賀シ輪=常吉、大内=吉兵)、円覚寺の段(口 津=小熊、切 阿蘇=万八)、般若坂ノ段(春戸=鶴太郎)、上杉屋舗之段(小賀=団六)、政右衛門やしきのたん(口 津賀子=庄之助、切 宮戸=兵吉、大内=万八)、沼津里ノ段(切 津賀=弥七・ツレ 鶴太郎・弥一郎・鼓弓 三吉)、関所の段(阿蘇=万八)、岡崎の段(口 相模=吉兵、切 長尾=吉左衛門)。	
一八六六	慶応2	6/18~	京 四 条 北 側 大 芝 居	伊 賀 越	政右衛門やしきより大広間迄(対馬=猿糸)。 ※『伊賀越』を別狂言に差し替えた別番付もあり。	
一八六六	慶応2	9/9~	京 四 条 道 場 北 ノ 小 家	伊 賀 越	沼津ノ段(要鯉=弥一郎)。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八六六	慶応2	11	座摩社内	伊賀越 大序より 八つ目まで	大序 花見のだん（悦、若美、旭）、鞆負やしきのだん（口 い寿、中 若美、切 富）、円覚寺のだん（口 若美、切 氏）、沼津のだん（切 駒）、新関のだん（口 尾木、い寿）、岡崎のだん（中 鳴戸、切 長尾）。 ※角書「乗掛合羽ノ道中双六」。	和田志津馬（文吾）、さゝ木丹右衛門（辰之助）、およね（辰造）、沢井又五郎（源十郎）、女房お谷（辰造）、菅田内記（兵吉）、唐木政右衛門（辰五郎）、ごふくや十兵へ（小兵吉）、平さく（与市）、池添孫八（奈良吉）、おそで（米三郎）、山田幸兵へ（与市）。
一八六七	慶応3	4/20~	稲荷社内東芝居	伊賀越 大序より 八つ目まで	大序 花見之段（七、咲馬、咲代、津瑠、左馬）、鞆負やしきノ段（中 常、切 実）、縄手のだん（音羽）、上杉館のだん（口 理久、次 和、奥 其）、円覚寺の段（中 越路、切 弥）、八まん宮の段（口 常、奥 音羽）、政右衛門屋敷ノ段（中 中、切 湊）、般若坂のだん（口 和、奥 実、吉田玉造ノ此所三役早替りにて相勤申候）、沼津のだん（切 春）、新関のだん（長枝、跡其）、岡ざきのだん（中 越路、次 弥、切 染=叶）。 ※角書「道中双六ノ乗掛合羽」。 ※番付の日付は「四月吉日より」であるが、番付の4本に「来廿日より」「廿日」などと書込みがあり、『撰津大掾出演手控』も「慶応三年卯四月廿日より」と記すので改めた（『義太夫年表 近世篇』）。 ※『撰津大掾出演手控』によれば、「円覚寺の段・切」の三味線は新左衛門、「岡崎の段・中」の三味線は由二郎、「次」の三味線は新左衛門、「切」の三味線は叶ではなく団平、「六月十八日迄四十七日之間」とある（『義太夫年表 近世篇』）。	和田志津馬（琴糸）、佐々木丹右衛門（玉三郎）、およね（松江）、沢井又五郎（玉造）、女房お谷（松江）、菅田大内記（玉三郎）、宇佐見郷右衛門（喜十郎）、桜田林左衛門（玉之助）、唐木政右衛門（玉造）、呉ふくや十兵へ（玉三郎）、親平作（玉造）、池添孫八（勢造）、娘おそで（玉蝶）、山田幸兵へ（喜十郎）。
△ 一八六七	慶応3	9/18~	名古屋 若宮	（伊賀越）	（山城大掾）。 ※『小寺玉晁記録』に拠る。	
一八六八	慶応4	4	京 四条道場北ノ小 家	伊賀越 道程十里	松原之段（豊=虎次郎）、鞆負やしき之段（須磨=燕勝、小賀=喜代七）、上杉やかた之段（蔦=鱗吾、和石軒=団六）、円覚寺のだん（春栄=弥市、氏=源之助）、般若坂ノ段（春戸=常吉）、上杉館ノ段（小賀=喜代七）、政右衛門やしき之段（津=小兵、長尾=鱗糸）、沼津之段（津賀=豊吉）、新関所ノ段（山城掾=弥七）、岡崎のだん（三光齋=伊達蔵、対馬=吉弥）。 ※角書「乗掛合羽ノ道中双六」。	
一八六九	明治2	12/10~	京都 北側大芝居	伊賀越	岡崎（長尾）。 ※典拠とした番付には興行年次に関する記述が見当たらないが、出演者の改名等から仮に明治2年のこととした（『近代歌舞伎年表 京都篇』）。	
一八七〇カ	明治3カ	3/24~	京都 道場北ノ小 家	伊賀越 大序より 八つ目まで	松原之段（嶋戸）、鞆負やしき之段（口 城、ヲク 須廣）、上杉やしき之段（口 嶋戸、切 津）、円覚寺のだん（口 城、切 佐賀美）、般若坂ノ段（小賀）、政右衛門やしきより大広間ノ段（口 須廣、切 紋）、沼津之段（切 浜）、新関所ノ段（紋）、幸兵衛住家之段（口 津、切 長尾）。 ※明治2年興行の可能性もある。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八七〇	明治3	9	座 摩 社 内	伊賀越道中双六 大序より 八つ目まで	花見の段（福貴、戸駒、駒尾）、鞆負やしきの段（津馬、中 雛、切 嶋）、宮居の段（口 稲場、奥 三国）、円覚寺の段（口 駒尾、切 巴勢）、政右工門やしきより伝授の段（口 真喜、切 津嶋、人形出つかひにて相つとめ申候）、般若坂の段（口 春賀、奥 国、吉田小兵吉／此所早かはり出つかひにて相つとめ申候）、沼津の段（切 駒＝吉弥）、新関の段（巴勢）、竹藪の段（跡 駒尾）、岡崎の段（口 勢見、切 津賀、人形出つかひにて相つとめ申候）。	志津馬（藤助）、丹右工門（小辰）、およね（清十郎）、又五郎（小兵吉）、お谷（清十郎）、内記（清七）、五右工門（清七）、林左工門（冠十郎）、政右工門（歌録）、十兵へ（千二郎）、平作（小兵吉）、孫八（才九）、おそで（清二郎）、幸兵へ（東十郎）。
一八七一カ	明治4カ	3	京都 四条北側大芝居	（伊賀越道中双六）	政右衛門やしきより大広間迄（長尾＝鱗系）。 ※典拠とした番付には興行年次に関する記載が見当たらない。『中西仁智雄コレクション 浄瑠璃番付写真集』には明治5年とあるが、『義太夫年表 明治篇』欄外記事、八世竹本綱太夫『でんでん虫』に従い、明治4年とした。	
一八七一	明治4	8	いなり東芝居	伊 賀 越 大序より 八冊目まで	大序 鶴ヶ岡の段（う、住都、卯、桎、九、春尾）、鞆負やしきの段（中 春戸、切 中）、縄手の段（富司）、上杉館の段（口 七、奥 浪）、円覚寺の段（中 むら、切 越路＝*新左衛門）、八幡宮の段（口 七、奥 梶）、政右工門屋舗の段（中 三根、切 実、染）、伝授の段（切 越）、般若坂の段（口 富司、奥 弥＝*吉之助）、沼津の段（古鞆、切 湊）、新関の段（口 春戸、奥 浪、此所出遣い早替りにて御覧入申候／吉田玉造）、岡崎の段（中 梶、次 越、切 春）。 ※角書「道中双双(マ)／乗掛合羽」。 ※「八月一日ヨリ四十三日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	和田志津廣（玉助）、佐々木丹右工門（玉治）、およね（辰造）、沢井又五郎（玉之助）、女房お谷（辰造）、本田大内記（玉助）、宇佐美郷右工門（玉治）、桜田林右工門（光造）、唐木政右衛門（玉造）、呉ふくや重兵へ（玉造）、親父平作（喜十郎）、池添孫八（玉枝）、娘お袖（鹿造）、山田幸兵へ（喜十郎）。
一八七一	明治4	12/9～	京都 寺町北向芝居	（伊賀越道中双六）	沼津里（和石）、八（春）。 ※興行年次は典拠とした番付記載の干支などから推定（『近代歌舞伎年表 京都篇』）。	
一八七二	明治5	1	座 摩 芝 居	伊 賀 越	岡崎の段（長尾＝鱗系）。	
一八七二	明治5	4/8～	京都 北側大芝居	伊 賀 越	政右衛門やしき大広間（佐賀＝宗七）。 ※素浄瑠璃。	
一八七三	明治6	2/3～	名古屋 金 橋 座	伊 賀 越	岡崎の段。 ※『勾欄類雑集録』には「二月二日より」とあり、太夫に関しては「名古屋連中・熱田連中」とある（『近代歌舞伎年表 名古屋篇』）。	しづま（貴松）、おたに（小辰造）、唐木政右衛門（清十郎）、おそで（清枝）、幸兵衛（辰治）。
一八七三	明治6	11	道頓堀竹田芝居	伊賀越乗掛合羽 大序より 八つ目迄	大序 鶴ヶ岡の段（小勢見、小豆、鞆尾、美馬、梶栄、浅尾、美代）、鞆負やしきの段（御幸、古賀、織尾、春戸）、円覚寺の段（大国、勢見）、毒酒の段（音）、八幡宮の段（仲、綾）、政右工門やしきの段（雛、文字、長尾）、伝授場の段（梶）、般若坂の段（春子）、沼津の段（浜）、孫八内の段（春戸、織）、新関の段（山四郎）、竹藪の段（鞆登）、岡崎の段（六ツ、津、巴＝*友次郎）、幸兵へ内の段（長尾）。	和田志津馬（小辰）、佐々木丹右工門（門造）、けいせい瀬川（為十郎）、娘およね（東十郎）、沢井又五郎（兵三）、女房お谷（東十郎）、本田大内記（兵吉）、宇佐美合右工門（光造）、桜井林左工門（兵三）、唐木政右工門（金四）、呉ふくや重兵へ（光造）、平作（喜十郎）、池添孫八（光造）、むすめおそで（辰太郎）、山田幸兵へ（光造）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一八七四	明治7	1	兵庫 兵庫常芝居	伊賀越乗掛合羽 大序より 八ツ目迄	大序 鶴ヶ岡のだん（小勢見、祈カ、巴代、美代）、鞆負やしきの段（浅尾、宮、織尾、春戸）、円覚寺の段（仲、勢見）、毒酒のだん（音）、政右衛門やしきの段（雛、文字、長尾）、大広間のだん（梶＝叶）、盤若坂の段（春子）、沼津のだん（浜）、新関所のだん（山四郎）、竹藪のだん（巴代）、相合傘の段（津）、幸兵へ住家のだん（巴）。 ※中西仁智雄コレクション『浄瑠璃番付写真集』に拠る。	渡辺しづ馬（小辰）、丹右衛門（門造）、娘およね（東十郎）、沢井又五郎（兵二）、女房お谷（辰五郎）、大内記（光造）、五右衛門（金四）、桜井林左衛門（兵二）、政右衛門（金四）、呉ふくや十兵へ（光造）、平作（喜十郎）、池添孫兵へ（才四）、娘そで（門造）、山田幸兵へ（光造）。
	一八七四	明治7	9中旬	京都 和泉式部演劇	伊賀越乗掛合羽 大序より 八ツ目迄	鶴ヶ岡段（都、小浜、袖）、鞆負やしきノ段（登和、織尾、操）、円覚寺之段（織の、嶋）、政右衛門やしきより大広間迄（口 操、切 梶）、般若坂ノ段（小賀）、沼津ノ段（切 浜）、関所之段（山四郎）、竹藪ノたん（梶 登）、岡崎之段（中 春子、切 巴＝友次郎）。 ※「岡崎之段・切」の三味線は『野沢の面影』に拠る。	和田志津広（小辰）、佐々木丹右衛門（門蔵）、娘お米（東十郎）、沢井又五郎（兵三）、女房お谷（東十郎）、大多大内記（門蔵）、郷右衛門（小兵吉）、桜田林左衛門（兵三）、唐木政右衛門（光造）、呉服や十兵衛（光造）、平さく（喜十郎）、池添孫八（小辰）、娘おそで（辰太郎）、幸兵衛（喜十郎）。
	一八七四	明治7	11/21~12/4	名古屋 末 広 座	伊 賀 越	八ツ目（淀、切 巴）。 ※浄瑠璃身振り。 ※初日、千種楽は『勾欄類見聞』に拠る。	
△	一八七四	明治7	12/7~9カ	名古屋 古袖町芝居 （橋 座）	（伊 賀 越）	※『古袖町勾欄記』に拠る。	
	一八七五	明治8	7/1~	名古屋 亀 の 家 座	伊 賀 越	遠目鐘（なきさ＝安次郎）。岡崎ノ段（長尾＝庄次郎）。 ※「浄瑠璃大寄」の内。	
	一八七五	明治8	7	名古屋 橋 座	伊 賀 越	五ツ目（呂＝仙系）。 ※太夫 豊竹古鞠太夫。素浄瑠璃カ。	
	一八七五	明治8	11	松嶋文楽座	伊 賀 越 大序より 八ツ目まで	大序 花見のだん（小、氏栄、梶栄、越代、栄、袖）、鞆負やしきの段（口 弥の、中 越の、切 実）、縄手のだん（中）、上杉館の段（中 田喜、次 長子、奥 茂）、円覚寺のだん（中 春栄、切 弥）、盤若坂の段（口 田喜、奥 南部）、政右衛門やしきの段（中 路、切 梶）、伝授のだん（氏）、沼津の段（津、切 住）、新関のだん（口 長子、奥 組、此所出遣い早替りにて御覧に入申候／吉田玉造）、岡崎のだん（中 春栄、次 梶、切 越路）。 ※角書「乗掛合羽ノ道中双六」。 ※「十一月一日ヨリ卅五日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	和田志津馬（小兵吉）、佐々木丹右工門（玉助）、およね（小玉）、沢井又五郎（玉治）、女房お谷（東十郎）、本田大内記（玉之助）、宇佐見郷右工門（玉治）、桜田林左工門（小兵吉）、唐木政右工門（玉造）、呉ふくや重兵へ（玉助）、親父平作（玉治）、池添孫八（松江）、娘おそで（辰吉）、山田幸兵へ（玉之助）。
	一八七五	明治8	11	竹 田 芝 居	伊 賀 越	五ツ目（呂＝松太郎）。 ※素浄瑠璃。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八七六	明治9	6	大江橋席	伊賀越 大序より 八つ目迄	花見の段(光、浜路、路久、田手、篤の、鑊、勇)、勒負やしきの段(口十九、切春戸)、松原の段(巴木)、円覚寺の段(口多門、切文字、磯)、般若坂の段(口田古、奥浜靱)、政右工門やしきの段(中織の、切呂)、大広間の段(頼)、沼津の里の段(切嶋、浜)、遠目鏡の段(山四郎)、竹藪の段(浜尾)、岡崎の段(中春戸、切巴=*友治郎)。 ※角書「道中双六ノ乗掛合羽」。	和田志津馬(栄造)、佐々木丹右工門(兵造)、むすめおよね(鹿造)、沢井又五郎(小光)、女房お谷(鹿造)、本田大内記(兵造)、宇佐見郷右工門(勢造)、桜田林左工門(友造)、唐木政右工門(辰五郎)、呉ふくや十兵へ(小光)、百しやう平作(才治)、池添孫八(才四)、むすめおそで(冠四)、山田幸兵衛(才治)。
△ 一八七六	明治9	9	座摩社内席	(伊賀越)	沼津里(駒=吉弥)。 ※『野沢の面影』に拠る。	
一八七六	明治9	11	名古屋 末広座	伊賀越	六ツ目(巴代)。 ※素浄瑠璃。	
一八七七	明治10	2/13~	弁天座	(伊賀越道中双六)	遠目鏡(山四郎)、伊賀越八(梶)、伊賀八(十三)、伊賀越六(春)。 ※故人太鼓卯之助追善「過し日のノ其年月もノめぐり来て連當手向の薫樹礼拝三度」の内。 ※日程は番付欄外の墨書に拠る。	
一八七八	明治11	1	名古屋 愛栄座	伊賀越	新聞(三根)。 ※太夫 竹本越路太夫。素浄瑠璃カ。	
一八七八	明治11	3	いなり北門小家	伊賀越 大序より 八冊目まで	大序 鶴ヶ岡の段(成駒、長の、は、氏栄)、靱負やしき段(口対王、中の、切富司)、縄手の段(鑊)、上杉館の段(口久子、奥春戸)、円覚寺の段(中多門、次路、切氏=*小团治)、八幡宮の段(口光、奥富=*新八)、政右衛門やしきの段(中額=*勝造、切長尾=*勝鳳)、大広間の段(氏)、般若坂の段(口若靱、奥富司=*豊松)、沼津の段(切嶋=*一平)、新聞の段(槇=*寛之助)、竹藪の段(鑊)、岡崎の段(中多門、次春戸=*清治郎、切呂=*吉三郎)。 ※角書「道中双六ノ乗掛合羽」。	和田志津馬(辰二)、佐々木丹右衛門(門造)、およね(辰造)、女房お谷(辰造)、菅田内記(兵三)、宇佐見郷右衛門(門造)、桜井林左衛門(辰二)、唐木政右衛門(辰五郎)、呉ふくや重兵へ(駒十郎)、平作(辰五郎)、池添孫八(才枝)、娘おそで(辰太郎)、山田幸兵へ(門造)。
一八七八	明治11	5	京都 せいぐわんじ本 堂前定席 夷谷座	伊賀越日記 大序ヨリ 敵討マデ	大序(亀尾)、円覚寺ノ段 上杉館ノ段(三輪)、政右衛門やしきの段(生熊)、沼津の段(九重)、遠目鏡の段(三輪)、幸兵衛住家の段(口亀尾、切嘉)、敵討ノ段(惣カケ合)。 ※浄瑠璃身振り。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八七八	明治11	10	松嶋文楽座	伊賀越 大序より 敵討まで	大序 鶴ヶ岡のだん（津田、梶さ、延寿、七五三、葉、の、弥津）、和田鞆負やしきの段（口 弥千代、中 袖、切 氏）、縄手のだん（跡 田喜）、上杉宮内少輔館のだん（口 谷、奥 実）、円覚寺の段（中 栄、切 津）、盤若坂のだん（口 谷、奥 田喜）、政右衛門やしきの段（中 多門、切 梶）、沼津のだん（切 住）、新聞のだん（口 袖、奥 三根・ツレ 栄、政右衛門 助平 おふく 玉八 獵人 たぬき 翁 吉田玉造／右七役早替りにて奉御覧に入候）、岡崎のだん（中 氏、次 津、切 越路=*団平）、伏見北国やのだん（中 長子、切 弥）、伊賀上野敵討のだん（口 曾我、奥 三根）。 ※角書「乗掛合羽／道中双六」。 ※「十月十九日ヨリ十一月廿六日マデ卅七日間」（『義太夫年表 明治篇』）。 ※「九冊目伏見北国ヤノ段ハ弥太夫ト文楽翁トノ増補合作ニテ弥太夫自作ノ章譜、団平校閲」（『義太夫年表 明治篇』）。	和田志津馬（辰吉）、佐々木丹右工門（玉助）、おみね（紋十郎）、沢井又五郎（玉治）、女房お谷（紋十郎）、本内大内記（紋十郎）、宇佐美郷右工門（玉治）、桜田林左工門（玉助）、唐木政右衛門（玉造）、呉ふくや十兵へ（玉助）、親父平作（玉造）、池添孫八（小兵吉）、むすめお袖（鹿造）、山田幸兵へ（玉治）。
一八七九	明治12	1	道頓堀角の芝居	伊賀越 大序より 八つ目まで	大序（浜子、浜代、若浜、駒子、呂儀）、鞆負やしきのだん（小音、鶴、富）、松原のだん（綾賀）、円覚寺の段（成、切 新靱）、般若坂のだん（千駒、此所吉田辰五郎三役出つかひ早替りにて相つとめ申候）、政右衛門やしきのだん（縫、切 綾瀬）、大広間の段（綾）、沼津の段（切 浜）、新聞所の段（路、跡 巴枝）、岡崎のだん（橋、切 巴=*友治郎）。 ※角書「乗掛合羽／道中双六」。	和田志津馬（勇造）、佐々木丹右衛門（兵三）、およね（辰太郎）、沢井又五郎（駒十郎）、女房お谷（辰造）、大内記（兵三）、郷右衛門（勢造）、桜田林左衛門（駒十郎）、唐木政右衛門（辰五郎）、呉ふくや十兵へ（光造）、平作（辰五郎）、池添孫八（冠四）、おそで（辰吉）、山田幸兵へ（光造）。
一八八〇	明治13	1/1~	京都 北側演劇	伊賀越	岡崎之段（染=叶）。	
一八八二	明治15	2	京都 誓願寺桜の町 高の家	伊賀上野 大序より 敵討マデ	大序（蔵=入蔵）、和田行家館の段（亀尾=弥十郎）、円覚寺の段（靱志=弥十郎）、木辻揚やの段（滝=寛八）、遠目鏡の段（萩=伊達蔵）、相合傘の段（亀尾=弥十郎）、幸兵衛住家の段（組栄=寛八）、上野敵討の段（滝=伊達蔵）。 ※角書「道中双六／乗掛合羽」。 ※浄瑠璃身振、男坂井座。	
一八八二	明治15	11	松嶋文楽座	伊賀越 大序より 八冊目迄	大序 鶴が岡のだん（重代、稲葉、時賀、住次）、和田鞆負屋敷のだん（口 梶賀、中 七五三、次 袖、切 組）、縄手のだん（栄）、上杉宮内少輔やしきのだん（多門、氏、実）、円覚寺のだん（中 谷、切 時）、荒木又右工門やしきの段（中 田喜、切 染）、沼津のだん（切 住）、新聞のだん（口 大倉、奥 組）、竹林のだん（袖）、岡崎のだん（中 むら、次 時、切 重=吉三郎）。 ※角書「乗掛合羽／道中双六」。 ※『千賀女日記』には「十一月廿一日ヨリ十二月十四日マデ廿二日間」、 『竹本撰津大掾』には「廿三日ヨリ廿二日間」とある（『義太夫年表 明治篇』）。	和田志津馬（亀松）、佐々木丹右工門（玉助）、およね（玉造）、沢井又五郎（紋三郎）、女房お谷（紋十郎）、本内大内記（玉助）、宇佐美太右工門（玉治）、桜田林左工門（玉治）、荒木又右工門（玉造）、呉ふくや重兵へ（玉助）、親父平作（紋十郎）、池添孫八（玉七）、娘おそで（鹿造）、山田幸兵へ（玉治）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八八四	明治17	11/1~	彦六座	伊賀越 大序より 八冊目まで	大序 花見の段(組の、富司子、真喜、入駒、鹿、源氏、住保、組路、朝尾、隅勢、登勢)、鞆負やしきの段(口若駒、中大内、次若鞆、切町)、縄手の段(信)、八幡宮居の段(口津代、奥歳)、政右衛門やしきの段(生嶋、源)、大広間伝授の段(カケ合 雛・朝・千駒・山登・駒子・柳適・組子)、上杉館の段(越磨、山登)、評義の段(田喜)、円覚寺の段(駒)、盤若坂の段(隅栄=*友松)、又五郎皮むきの段(富司)、沼津里の段(住)、新関の段(芳)、遠目かねの段(千駒)、相合傘の段(雛)、幸兵衛内の段(柳適)。 ※角書「道中双六／乗掛合羽」。 ※「廿三日マデ」(『義太夫年表 明治篇』)。	和田志津馬(玉松)、佐々木丹右衛門(兵吉)、むすめおよね(三吾)、沢井又五郎(亀松)、女房お谷(東十郎)、菅田大内記(亀松)、宇佐見五右衛門(三吾)、桜田林左衛門(玉松)、唐木政右衛門(辰五郎)、呉ふくや十兵へ(兵吉)、百しやう平作(才治)、池添孫八(友造)、娘おそで(松江)、山田幸兵へ(才治)。
一八八七	明治20	3/18~	御霊文楽座	伊賀越 大序より 敵討まで	大序 鶴が岡の段(十九、尾花、南枝、陸路)、和田行家やしきの段(口路代、中浜子、切町)、縄手の段(跡尾上)、上杉宮内少輔やかたの段(口梶栄、奥越羽)、円覚寺諸士会合の段(春栄)、茶の湯祝言の段(織)、佐々木丹右衛門忠義の段(谷)、盤若坂の段(口梶、奥呂、吉田玉造／此所出つかひ早替りにて御覧に入申候)、政右衛門やしきの段(中春栄、切長尾)、沼津の段(切津)、新関の段(浜子、織)、竹藪の段(尾上)、岡崎の段(次谷、切呂)、敵討の段(長尾、春栄、越羽、尾上)。 ※角書「乗掛合羽／道中双六」。 ※「四月十一日マデ廿五日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	和田志津馬(玉七)、およね(紋十郎)、沢井又五郎(玉七)、女房お谷(玉之助)、本田大内記(紋十郎)、宇佐美五右衛門(玉治)、桜田林左衛門(玉七)、唐木政右衛門(玉造)、呉ふくや十兵へ(玉七)、親父平作(玉造)、池添孫八(紋之助)、娘おそで(玉之助)、山田幸兵へ(玉治)。
△	明治21	1/27	京都 南側劇場	(伊賀越道中双六)	沼津の段(津=広助)。	
		1/29		(伊賀越)	政右衛門屋敷の段(呂=勝鳳)。 ※文楽座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	明治21	7/28	名古屋 千歳座	(伊賀越)	政右衛門邸の段(長尾=勝右衛門)、沼津の里(津=広助・ツレ 広七・小庄)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八八八	明治21	9	彦六座	伊賀越 大序より 岡崎まで つゞき 八丁	大序 花見のだん（八重路、十九、組登、朝の、七五三、袖）、鞆負やしきの段（口 弥鳳、中 鹿、切 若）、縄手のだん（かしく）、上杉館のだん（中 越磨、次 八重、奥 氏）、円覚寺の段（中 袖、切 越＝*吉三郎）、般若坂のだん（口 住次、奥 生嶋、此所人形出つかひ早替りにて御覧に入候）、八幡のだん（宝、芳）、政右工門屋敷の段（中 山登、切 新靱）、伝授のだん（此）、沼津里のだん（切 組＝豊吉、此所人形惣出つかひにて御覧に入申候）、新関のだん（口 住次、奥 田喜、奴助平 獅子太夫 いなり翁 女舞おきの 瓢金親父 戸目平 吉田辰五郎／右六役出つかひ早替りにて御覧に入申候）、竹林のだん（宝）、岡崎のだん（中 七五三＝*友松、切 柳適、此所人形惣出つかひにて御覧に入申候）。 ※角書「乗掛合羽／道中双六」。 ※語り「ふり出しは／行列揃へた勅使の御入に意恨の始り／上りは／最先祝ふ下り船の船玉御祈願成就の敵討」。 ※「「饅頭娘」で、私は、おのちを遣ひました。その頃は、ほんとうのお饅頭を使つて居て、舞台が済むと、おのちの役の私が貰ふ事になつて居ました」（『吉田栄三自伝』）。	和田志津馬（玉松）、佐々木丹右工門（兵吉）、お米（三吾）、沢井又五郎（亀松）、女房お谷（亀松）、菅田大内記（玉松）、宇佐美五右工門（光造）、桜田林左工門（玉米）、唐木政右工門（辰五郎）、呉ふくや重兵へ（兵吉）、平作（才治）、池添孫八（亀登）、こしもとお袖（玉米）、山田幸兵へ（光造）。	
△	一八八九	明治22	1/24	京都 北の劇場	（伊賀越） 八ツ目（呂＝叶）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一八八九	明治22	8/11 8/14・17	京都 北側演劇場	伊賀越 遠目鐘（巴勢）。 五段目（さの＝浜之助）。 ※文楽座、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一八八九	明治22	12/13 12/19	名古屋 千歳座	（伊賀越） 沼津の段（津＝勝七）。 沼津の場（巴勢＝寛二郎）。 ※竹本越路太夫・豊沢広介一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
	一八九〇	明治23	1/29～	彦六座	伊賀越 大序より 岡崎迄	大序 花見のだん（朝代、朝路、八重加）、和田鞆負やしきのだん（朝の、口 越磨、切 田喜）、縄手のだん（七々子）、上杉館のだん（口 鹿、中 宝、奥 袖）、会合のだん（山登）、円覚寺茶の湯祝言のだん（此）、沢井城五郎切腹のだん（生嶋）、般若坂のだん（口 越磨、奥 芳）、八幡のだん（七五三）、政右工門やしきの段（中 伊達、切 源）、大広間伝授のだん（大内記一新靱・林左工門一山登・政右工門一越・又右工門一七五三）、沼津駅のだん（新靱、此所出つかひにて御覧に入申候）、平作内のだん（越＝*吉三郎、此所出つかひにて御覧に入申候）、新関所のだん（口 源枝、奥 田喜、此所出遣早替りにて御らんに入申候／吉田辰五郎）、竹藪のだん（朝の）、岡崎のだん（中 生嶋＝*友松、切 組＝松太郎）。 ※角書「乗掛合羽／道中双六」。	和田志津馬（玉米）、佐々木丹右工門（兵吉）、およね（亀松）、沢井又五郎（玉松）、女房お谷（鹿造）、菅田大内記（亀松）、宇佐見五右工門（光造）、桜田林左工門（玉米）、唐木政右工門（辰五郎）、呉ふくや重兵へ（玉松）、平作（兵吉）、池添孫八（小三）、こしもとお袖（紋之助）、山田幸兵衛（光造）。
△	一八九〇	明治23	3/20	京都 南劇場	伊賀越 沼津（組＝松太郎）。 ※大坂彦六座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一八九〇	明治23	4/23	名古屋	（伊賀越） 五ツ目（組＝松太郎）。		

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△		4/24	千歳座		八ツ目(七五三)。		
		4/25			沼津の里(組=松太郎)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一八九〇	明治23	5/8	京都 北側劇場	伊賀越	五ツ目(綱)。 ※大坂文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八九〇	明治23	11	御霊文楽座	伊賀越 大序より 八つ目まで	大序 鶴ヶ岡のだん(呂み、呂嘉、谷路、時代、津葉芽、津子、鶴尾)、和田 鞆負やしきのだん(中 呂瀬、品尾、切 氏)、縄手のだん(津田)、上杉宮 内少輔やかたの段(津和、調)、円覚寺諸士会合の段(高尾)、茶の湯祝言 の段(綾)、佐々木丹右工門忠義の段(谷)、政右工門やしきの段(中文、 切 長尾)、沼津のだん(切 呂)、新聞のだん(越戸、相生・ツレ 文、此所 出つかひにて御覧に入れ申候/吉田玉造)、竹藪のだん(津田)、岡崎のだ ん(口 高尾、中 緑り、切 津=吉兵衛)。 ※角書「道中双六/乗掛合羽」。 ※「十一月一日ヨリ十三日マデ十三日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	和田志津馬(金之助)、佐々木丹右工門 (玉助)、およね(紋十郎)、沢井又五 郎(玉朝)、女房お谷(玉五郎)、本田 大内記(紋十郎)、宇佐美五右工門(玉 治)、桜田林左工門(玉助)、唐木政右 工門(玉造)、呉ふくや重兵へ(玉 助)、親父平作(玉造)、池添孫八(幸 三郎)、むすめおそで(玉五郎)、山田 幸兵衛(玉治)。
△	一八九〇	明治23	12/2	名古屋 千歳座	(伊賀越)	沼津(越)。	
			12/5			政右衛門屋敷より大広間まで(組)。 ※竹本組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	1/6	名古屋 末広座	(伊賀越)	五ツ目 政右衛門本宅の段(さの=小庄)。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	1/14	名古屋 末広座	(伊賀越)	沼津の段(路=花助)。 ※前項の二ノ替り。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	1/18	京都 北座	伊賀越	五ツ目(呂)。 ※公演日について、「日出新聞」(1月20日)ほかに「一昨十八日より」とあ り、18日の番組が掲載されているが、『文楽興行書入手帖』『文楽今昔譚』 によれば、1月18日千種楽で御霊文楽座の興行がある。	
			1/22		伊賀越道中双六	沼津(路)。 政右衛門屋敷(さの)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
			1/25				
△	一八九一	明治24	8/2	京都 道場座	伊賀越道中双六	政右衛門館(長尾=勝右衛門)。	
			8/6		(伊賀越道中双六)	沼津里(津=吉兵衛)。 ※竹本津太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	8/25	京都 北座	伊賀越道中双六	政右衛門館(呂)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一八九二	明治25	1/24	京都 北座	伊賀越道中双六	政右衛門邸（呂＝勝鳳）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	7/28 7/29	名古屋 千歳座	（伊賀越）	六ツ目（越＝吉弥）。 政右衛門の屋敷（相生＝鶴太郎）。 ※文楽・彦六両座合併「大阪浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	8/13	名古屋 千歳座	（伊賀越）	政右衛門内（靱（マ））。 ※竹本朝太夫・豊竹新靱太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	8/17 8/20	京都 北座	（伊賀越へ） （伊賀越）	（呂＝勝鳳）。 沼津の段（路＝小庄）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助・其外文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八九二	明治25	10	彦六座	伊賀越 吉丁目より 八丁目まで	大序 花見のだん（源子、作、七尾、組尾、津子、七栄）、靱負やしきのだん（中 鹿、切 芳）、縄手のだん（七栄）、円覚寺のだん（中 伊達、切 此）、郡山八幡のだん（口 朝路、奥 若）、政右衛門やしきの段より大広間迄（中 菅、切 十八、源）、沼津の里の段（越＝*吉弥、此所人形出つかひにて御覧に入候）、新聞所のだん（口 組尾、奥 若・ツレ 朝路、此所人形五役早替りにて御覧に入申候／吉田玉松）、岡崎のだん（中 生嶋、切 大隅＝団平）。 ※角書「乗掛合羽／道中双六」。	和田志津馬（紋之助）、佐々木丹右工門（玉米）、娘およね（亀松）、沢井又五郎（亀松）、女房お谷（鹿造）、本多大内記（亀松）、宇佐海五衛門（光造）、桜田林左工門（友右工門）、唐木政右工門（玉松）、呉ふくや重兵へ（玉米）、平作（玉松）、池添孫八（鶴松）、娘おそて（三吾）、山田幸兵へ（光造）。
	一八九三	明治26	2	御霊文楽座	伊賀越 大序より 八丁目まで	大序 鶴ヶ岡のだん（越鳳、呂尾、越江、綾免、相寿）、和田靱負やしきのだん（口 谷路、品尾、次 調、切 谷）、縄手のだん（巴勢）、上杉宮内少輔館のだん（口 津弥、次 久、奥 相生）、円覚寺の段（中 長子、切 長尾）、政右衛門やしきのだん（口 呂瀬、中 緑り、切 呂）、沼津のだん（切 津＝*吉兵衛）、新聞のだん（口 鶴、奥 谷）、竹藪のだん（むら）、岡崎のだん（中 文、次 相生、切 越路）。 ※角書「道中双六／乗掛合羽」。 ※『文楽興行書入手帖』には「二月四日カラ三月五日マデ廿八日間」とあり、『竹本撰津大掾』には「二月四日ヨリ廿九日間」とある（『義太夫年表明治篇』）。	和田志津馬（金之助）、佐々木丹右工門（玉助）、およね（紋十郎）、沢井股五郎（玉朝）、女房お谷（玉助）、本田大内記（紋十郎）、宇佐美又右工門（玉治）、桜田林左工門（金之助）、唐木政右衛門（玉造）、呉ふくや十兵へ（玉助）、親父平作（紋吉）、池添孫八（卯三郎）、娘おそて（玉六）、山田幸兵へ（玉治）。
△	一八九三	明治26	3/7	京都 北座	（伊賀越）	沼津（津＝吉兵衛）。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	8/4 8/6 8/8	名古屋 末広座	（伊賀越）	政右衛門屋敷（呂＝勝鳳）。 政右衛門屋敷（相生＝勝右衛門）。沼津（津＝吉兵衛）。 八ツ目（呂＝勝鳳）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	8/18 8/20	京都 南座	（伊賀越）	沼津（津＝吉兵衛）。 政右衛門屋敷（長尾）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		8/25			政右衛門屋敷（さの）。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	10/11	名古屋 音羽座	（伊賀越） 八ツ目の岡崎（阿蘇＝団六）。 ※竹沢弥七一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	10/16 10/18	名古屋 千歳座	（伊賀越） 五ツ目の政右衛門屋敷（勇＝団右）、六ツ目の沼津（隅次＝力松）。 八ツ目の岡崎（大隅＝団平・ツレ友松）。 ※大隅太夫・豊沢団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	1/27	名古屋 宝生座	（伊賀越） 沼津之段（中市＝大造）。 ※「大坂文楽座出勤若手三味線鶴沢小庄が今回（このたび）鶴沢大造と改名せし披露…」（「扶桑新聞」1月25日）。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	2/1 2/3 2/6 2/7	京都 南座	（伊賀越） 政右衛門邸（調）。 五ツ目（さの）。 沼津（路）。 政右衛門邸（さの）。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	2/13	京都 南座	（伊賀越） 五ツ目（新靱）。 ※彦六一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八九四	明治27	9	稲荷座	伊賀越道中双六 大序より 八ツ目まで 大序 花見の段（靱当、弥国、福、弥筑、一、源子、弥生、津葉芽、新靱）、和田靱負やしきの段（いさみ、隅次、生嶋）、縄手の段（尾上）、円覚寺の段（組の、菅、此）、盤若坂の段（生嶋）、政右衛門やしきの段（長子、源、新靱）、伝授場の段（柳適）、沼津里の段（越＝*吉弥）、新聞所 引抜 日清海戦覗の機 海戦日本全勝の場 落人の段（伊達、春子、雛、津葉芽、谷路、此所新工夫大道具入にて御覧に入候）、竹藪の段（組の）、岡崎雪降の段（中 いさみ、次 七五三＝*友松、切 大隅＝団平）。	和田志津馬（鶴松）、佐々木丹右工門（駒十郎）、娘およね（玉米）、沢井又五郎（栄三）、女房お谷（清十郎）、菅田大内記（玉米）、宇佐美五右工門（栄寿）、桜田林左工門（友造）、唐木政右工門（玉松）、呉服屋重兵衛（駒十郎）、雲介平作（清十郎）、池添孫八（栄寿）、娘お袖（三十郎）、山田幸兵へ（三吾）。
△	一八九五	明治28	2/23～	東京神保町 新声館	伊賀越道中双六 五幕 大序（播の、綾語）、和田靱負屋敷の段（識予＝才栄）、円覚寺の段（播尾、駒）、沼津の段（織＝広兵衛）、新聞所の段（識子＝八尾蔵）、相合傘の段（美浜＝勇三）、岡崎の段（綾瀬＝豊吉）。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	（不明）
△	一八九五	明治28	8/11 8/12 8/13	名古屋 千歳座	（伊賀越） 沼津里（調＝文二郎）。 政右衛門屋敷（調＝文二郎）。 八ツ目（呂＝叶）。 ※大坂文楽、豊竹呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八九五	明治28	11/23~	稲荷座	増補伊賀越	伏見北国やのだん(口品、中此、切弥)。 ※「増補伊賀越伏見北国屋ノ段ハ弥太夫増補作自作章上演」(『五世竹本弥太夫 芸の六十年』)。	和田志津馬(玉米)、林左工門(栄寿)、唐木政右工門(宗七)、呉服や重兵衛(玉松)、池添孫八(栄三)。	
一八九五	明治28	12/14	浪花座	伊賀越	沼津(角=浅太郎)。(新靱=森助)。 ※義太夫・稲荷座総一座。新靱太夫と森助の場割は不明。		
△	一八九六	明治29	名古屋千歳座	(伊賀越)	1/24	五ツ目(新靱=仙昇)。	
					1/25	沼津の里(越=小団治)。	
					1/26	まんぢう娘(新靱=仙昇)。	
					1/30	沼津(越=小団治)。	
					2/7	五ツ目(綾登=松之助)。	
					2/8	岡崎(梅)。 ※竹本越太夫・七五三太夫・新靱太夫・菅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	名古屋千歳座	(伊賀越)	2/14	沼津の里(越)。	
					2/15	八ツ目 岡崎(七五三)。	
					2/16	まんぢう娘(新靱)。 ※竹本越太夫。前項の二の替り。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	4/5	東京神保町新声館	(伊賀越)	沼津里(織=兵吉・平造)。 ※義太夫大演芸会。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	
△	一八九六	明治29	京都南座	(伊賀越)	7/25・8/1	沼津(路)。	
					7/28	政右衛門屋敷(呂)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	名古屋末広座	(伊賀越)	8/6	政右衛門屋敷の段(長子=団吉)。	
					8/8	六つ目 沼津里の段(長子=団吉)、平作住家の段(春子=惣太郎)。 ※大隅太夫・団平一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	名古屋千歳座	(伊賀越)	12/19	沼津平作内(越=小団治)。	
					12/21	五ツ目(新靱=仙昇)。 ※竹本越太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八九七	明治30	3/1~	稲荷座	伊賀越 岡崎まで八丁	大序 花見のだん（此子、隅子、弥登、源路、弥雲、弥駒）、鞆負やしきのだん（口 隅栄、奥 磯、中 菊）、鞆負殺しのだん（和田鞆負一菅・沢井又五郎一長子・佐々木丹右工門一角・荒巻伴作+和田志津馬一品・原田九郎一谷路）、縄手のだん（小野）、円覚寺のだん（中 雛、切 此、新鞆、此所人形出つかひにて御覧に入候）、盤若坂のだん（口 弥生、奥 長子）、唐木政右工門やしきのだん（中 菅、切 越）、大広間のだん（柳適、此所人形出つかひにて御覧に入候）、沼津里の段（切 弥）、新関のだん（口 一、奥 春子・ツレ 角・谷路・一・弥雲、此所引抜大道具入人形中乗り早替にて御覧に入候／吉田玉松）、竹藪のだん（源子）、岡崎雪降のだん（中 生嶋、切 組）。 ※角書「道中双六／乗掛合羽」。	和田志津馬（亀十郎）、佐々木丹右工門（駒十郎）、娘およね（亀松）、沢井又五郎（簀助）、女房お谷（亀松）、菅田大内記（玉米）、宇佐見五右工門（栄寿）、桜田林左工門（栄三）、唐木政右工門（玉松）、呉服屋重兵へ（玉米）、雲助平作（清十郎）、池添孫八（福松）、娘おそで（三十郎）、山田幸兵へ（駒十郎）。
△	一八九七	明治30 3/8 3/10	名古屋 音羽座	（伊賀越）	五ツ目（祖＝鶴助）。 東路より千本松平作腹切（相生＝大造）。 ※竹本相生太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30 3/14 3/15	名古屋 音羽座	（伊賀越）	政右衛門邸より大広間迄（祖＝鶴助）。 東路より千本松平作腹切迄（相生＝大造・伝四）。 ※前項の二の替り。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30 7/9 7/10	名古屋 千歳座	（伊賀越）	五ツ目 政右衛門屋敷より大広間まで二段つゞき（組＝源吉）。 沼津の里（住＝小団治）。 ※竹本組太夫・住太夫・朝太夫・伊達太夫合併大一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30 7/15	名古屋 宝生座	（伊賀越）	沼津里（住＝小団治）。 ※「千歳座に於て大評判を得たる大坂撰抜の朝、住、伊達、組太夫大一座は（中略）明十五日夕方より同千歳座及び大須宝生座の二分れとなりて涼み浄瑠璃を開場（後略）」（「新愛知」7月14日）。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30 7/17	名古屋 千歳座	（伊賀越）	沼津の里（組＝源吉）。 ※組太夫・朝太夫・生島太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30 7/30	京都 南座	（伊賀越）	政右衛門邸（呂）。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八九七	明治30	10	御霊文楽座	伊賀越 大序より 八つ目迄	大序 花見のだん（組の、津治、稲葉、谷登、谷代、津直、谷勢）、和田靱負屋敷のだん（口 呂子、越江、中 尾上、切 むら）、縄手のだん（跡 綾登）、上杉宮内少輔館のだん（口 登勢、奥 源）、円覚寺のだん（中 叶、切 染）、郡山八幡宮のだん（口 殿母、奥 祖）、唐木政右衛門やしきの段（中 呂瀬、次 七五三、切 呂）、沼津のだん（切 津=*吉兵衛）、新関のだん（口 呂嶋、奥 七五三）、竹藪のだん（跡 巴勢）、岡崎のだん（中 鶴尾、次 源、切 越路）。 ※角書「乗掛合羽ノ道中双六」。 ※「十月十二日ヨリ十一月十五日マデ卅四日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	和田静馬（助太郎）、佐々木丹右工門（玉助）、けいせい瀬川・およね（紋十郎）、沢井股五郎（玉朝）、女房お谷（玉助）、本田大内記（紋十郎）、宇佐美五右工門（玉治）、桜井林左工門（金之助）、唐木政右衛門（玉造）、呉服屋重兵衛（玉助）、親平作（玉造）、池添孫八（麿呂七）、娘お袖（三吾）、山田幸兵衛（金之助）。
△	一八九七	明治30	10/31 11/2	京都 南 座	（伊賀越） 政右衛門屋敷之段（長子=団之助）。 沼津（文）。 ※竹本さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	12/7	名古屋 音 羽 座	（伊賀越） 沼津里（国）。 ※巴太夫・山城太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	5/10	名古屋 宝 生 座	（伊賀越） 沼津（山城）。 ※路太夫・山城太夫・鶴尾太夫・団六・大三郎・卯三郎一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	8/4	京都 南 座	（伊賀越） 沼津（文）。 ※竹本文字大夫（佐野太夫改め）・竹本文太夫・竹本七五三太夫・竹本高尾太夫等の一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	8/19 8/24	名古屋 御 園 座	（伊賀越） 沼津里（文=重太郎）。 沼津の里（鶴尾=鶴五郎）。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	8/21	弁 天 座	（伊賀越） 政右衛門内（新靱）。 ※稲荷座連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	11	明 楽 座	伊賀越 大序より 岡崎まで 大序 花見のだん（小達、鑼、弥▲（王へんに玉））、和田靱負屋敷のだん（品、切 柳適）、縄手のだん（芳）、円覚寺のだん（口 一、切 此）、唐木政右工門やしきのだん（中 角、切 組、大広間迄相つとめ申候）、沼津のだん（切 住）、新関のだん 引抜 新作（口 弥生、奥 長子）、竹藪のだん（芳）、岡崎雪降のだん（中 生嶋、切 大隅=叶）。 ※角書「道中双六ノ乗掛合羽」。 ※「朝日新聞」には「十一月五日ヨリ」、『浄瑠璃研究書』には「十日ヨリ」とある（『義太夫年表 明治篇』）。	和田志津馬（玉治郎）、佐々木丹右工門（兵三）、およね（玉米）、沢井又五郎（鶴松）、女房お谷（清十郎）、菅田大内記（簗助）、宇佐美五右工門（栄寿）、桜田林左工門（清治）、唐木政右工門（玉米）、呉服や重兵へ（簗助）、百姓平作（清十郎）、池添孫八（琴糸）、娘おそで（紋三郎）、山田幸兵衛（門蔵）。
△	一八九八	明治31	12/10 12/12	名古屋 御 園 座	（伊賀越） 沼津平作内（住=小団二）。 五ツ目二段つづき（長子）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		12/14			相合傘（隅代＝小叶）。	
		12/16			遠眼鏡（弥生＝団友）。	
		12/17			藤川（弥生＝団友）。	
		12/21			相合傘（弥生＝団友）、岡崎（大隅＝叶）。	
		12/23			渡辺屋敷（隅代）。 ※大阪 大隈（マ）一座・東京 朝太夫一座による「京阪合併浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	3/9	名古屋 末広座	（伊賀越） 饅頭娘（柳適＝仙二郎）。 ※大阪稲荷座若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	4/26	名古屋 西栄座	（伊賀越） 政右衛門屋敷（柳適）。 ※大阪若手浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	7/19	京都 南座	（伊賀越） 政右衛門邸の段（呂＝勝鳳）。	
		7/25			沼津（文＝大三郎）。	
		7/26			岡崎（呂＝勝鳳）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	9/3	名古屋 末広座	（伊賀越） 沼津（住）。 ※住太夫・春子太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	7/27	京都 南座	（伊賀越） 政右衛門邸（呂）。	
		7/31			岡崎の段（呂）。	
		8/2			五つ目（祖）。 ※文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	8/11	名古屋 末広座	（伊賀越） 政右衛門屋敷（源）。	
		8/13			沼津平宅（文字＝猿糸・ツレ 亀太郎）。 ※大阪文楽座、竹本文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九〇〇	明治33	10/1～	明楽座	伊賀越 岡崎まで 八丁	和田志津馬（東京下り 重三郎）、佐々木丹右工門（東京下り 冠二）、娘およね（玉五郎）、沢井又五郎（玉治郎）、女房お谷（清十郎）、本田大内記（栄三）、宇佐見五右工門（友造）、桜田林左工門（光ル）、正太郎実は唐木政右工門（玉松）、呉服屋十兵衛（東京下り 重三郎）、雲介平作（清十郎）、池添孫八（友造）、娘おそで（玉五郎）、山田幸兵衛（東京下り 冠二）。
△	一九〇〇	明治33	12/2	名古屋 末広座	（伊賀越） 沼津（住＝小団二）。	
		12/10			政右衛門屋敷（生島＝浜右衛門）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇一	明治34	12/11			蝶花形（生栄＝新三）。沼津里（雛＝猿九郎）。 ※明楽座一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	一九〇一	明治34	2/2	名古屋 御園座	（伊賀越）	政右衛門屋敷より大広間（組＝仙昇）。 ※竹本組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	一九〇一	明治34	5/30	天満座	（伊賀越）	沼津（文）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。
△	一九〇一	明治34	6/8	名古屋 千歳座	（伊賀越）	相合傘の段（此路）。
		6/11	沼津（谷路）。			
		6/16	八ツ目（七々栄）。			
		6/18	政右衛門内（鏝）。			
		6/19	平作腹切（七々栄）。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。			
△	一九〇一	明治34	7/16	名古屋 歌舞伎座	（伊賀越）	沼津の里（文＝三二）。 ※越路太夫・文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	一九〇一	明治34	8/3	京都 南座	（伊賀越）	沼津（津）。
		8/8	政右衛門邸（文字）。			
		8/10	沼津（文）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。			
△	一九〇一	明治34	8/15	京都 幾代亭	（伊賀越）	沼津（組）。 ※「組太夫は一昨夜『伊賀越』沼津を語つて居る際持病の癪を起したので柳適が代つて語つて居る中に、十分間ほどで治まつたから引続いて語り終つた」（『大阪朝日新聞（京都附録）』8月17日）。
		8/21	沼津より平作切腹まで（組）。			
		8/22	政右衛門邸（柳適）。 ※組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。			
△	一九〇一	明治34	8/21	名古屋 末広座	（伊賀越）	政右衛門邸（新靱）。 ※大坂明楽座、竹本大隅太夫・鶴沢叶一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	一九〇一	明治34	12/3	名古屋 末広座	（伊賀越）	六ツ目 沼津の里（住＝小団二）。
		12/4	二段目（小福＝松吉）。			
		12/7	政右衛門の屋敷（新靱＝市治郎）。			
		12/9	新関遠目鏡（弥生＝富太郎）。 ※住太夫・朝太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。			
△	一九〇一	明治34	12/6	東京	（伊賀越）	五段目（長子＝吉作）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		12/13	歌舞伎座		岡崎(大隅=叶)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	12/10	京都布袋座	(伊賀越) (路代=団系)。 ※七五三太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	2/19 2/23	名古屋御園座	(伊賀越) 沼津の里(文=鶴次郎)。 沼津里(山城)。 ※大阪文楽座、文字太夫・吉弥一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	6/1	京都岩神座	(伊賀越) 沼津(文=鶴太郎)。 ※大阪文楽座、文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	8/2 8/12	京都南座	(伊賀越) 政右衛門内(呂=猿系)。 沼津(祖=三二)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	8/26	京都歌舞伎座	(伊賀越) 相合傘(信)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇二	明治35	11/1~	明楽座	伊賀越道中双六 大序より 八ツ目まで 大序 花見のどん(当久、一子、永栄、子筑、隅喜、此尾、此勢、生勢、靱登、組栄、組代、靱木、弥代、小福、小達、弥常)、和田靱負屋敷のどん(口 弥代、中 弥▲(王へんに玉)、切 君)、縄手のどん(組代)、円覚寺のどん(中 加賀、切 春子=*仙左衛門)、盤若坂のどん(口 住子、奥 弥生改 杉)、八幡のどん(組栄、加賀)、政右工門屋敷より大広間まで(中 角、切 新靱=*市治郎)、沼津の里のどん(切 住)、新聞のどん(口 好友、奥 角・ツレ 此勢=仙左衛門・ツレ 仙三郎、此所人形出遣い引抜早替りにて御覧入候)、竹藪のどん(此路)、岡崎のどん(中 雛、切 組)。	和田志津馬(鬼笑)、佐々木丹右工門(門造)、娘およね(玉五郎)、沢井又五郎(燕造)、女房お谷(清十郎)、本田大内記(玉五郎)、宇佐見五右工門(門造)、桜田林左工門(兵三)、唐木政右工門(玉松)、呉服屋重兵へ(玉治郎)、雲介平作(玉松)、池添孫八(友造)、娘お袖(琴糸)、山田幸兵へ(門造)。
△	一九〇二	明治35	12/16 12/17 12/18 12/20 12/23	名古屋千歳座	(伊賀越) 政右衛門屋敷より大広間迄(長子)。 八(杉)。 八つ目(住子)。 沼津(住=小団二・ツレ 八助・胡弓 子)。 政右衛門内(祖)。 ※「大坂文楽明楽合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	12/18	京都夷谷座	(伊賀越) 政右衛門内(組)。 ※組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九〇三	明治36	3/11	名古屋 歌舞伎座	(伊賀越)	沼津里之段(尾上=金造)。 ※「大坂文楽座竹本越路太夫改め竹本春太夫門人若手一座の浄瑠璃」(「新愛知」3月10日)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	7/21	京都 大黒座	(伊賀越道中双六)	沼津(尾上)。 ※「白黒合併の浄瑠璃を昨夜より」(「大阪朝日新聞(京都附録)」7月19日)。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	8/12	名古屋 御園座	(伊賀越)	政右衛門屋敷(新靱)。 ※竹本文字太夫改三代目竹本越路太夫改名披露。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	8/30	京都	(伊賀越)	政右衛門屋敷(新靱=市次郎)。	
			8/31	南座		沼津(文)。 ※文字太夫改め越路太夫・むら太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	9/12	京都 千本座	(伊賀越道中双六)	沼津(文)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	12/1	名古屋	(伊賀越)	二段目(生勢)。	
			12/2	千歳座		政右衛門屋敷(長子)。	
			12/4			相合傘(生勢)。	
			12/7			二ツ目(生栄)。 ※大坂明楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九〇四	明治37	3	御霊文楽座	伊賀越 大序より 岡崎の段迄	大序 鶴ヶ岡花見の段(隅和、津田、広見、文字子、いさ、静、須磨、字久、広、南勢)、和田靱負屋敷の段(口津磨、中津直、次殿母、切むら)、縄手松原の段(跡常子)、上杉宮内少輔館の段(口隅の、次さ路、奥時)、円覚寺の段(中源子、切七五三)、郡山八幡宮の段(口越喜、奥津ばめ=*綱造)、唐木政右工門屋敷の段(中富、次叶、切越路=吉弥)、沼津の段(切大隅=清六)、新関の段(南部・源子・ツレ越喜・千代)、竹藪の段(登勢)、岡崎の段(中津ばめ=*竹三郎、次文、切津=猿糸)。 ※語り「昵近武士の党々会合は聳のお使者は薄茶の手前／鎌倉武士の威勢立抜く舅の敵を討たる忠孝は聳の助太刀」。 ※「三月十日ヨリ四月九日マデ卅日間」(『義太夫年表 明治篇』)。 ※「丁度、日露戦争中でしたので、「遠眼鏡」の引抜きで、戦争当込みがありました。広作さんの作曲で、(中略)ちよつとしたクドキがありました。そして、「遠眼鏡」の段切に、その頃の流行唄の「ウテヨコロセヨ敵国を一、」の唄を、助平が唄ひながら引込みました」(『吉田栄三自伝』)。	和田志津馬(政亀)、佐々木丹右衛門(玉助)、娘およね(助太郎)、沢井又五郎(助太郎)、女房お谷(栄三)、菅田大内記(助太郎)、宇佐見五右工門(玉五郎)、桜井林左衛門(紋十郎)、唐木政右衛門(玉助)、呉服屋重兵衛(玉助)、親平作(紋十郎)、池添孫八(玉治)、娘お袖(紋太郎)、山田幸兵衛(玉治)。
△	一九〇四	明治37	7/20	名古屋	(伊賀越)	沼津(文)。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
		7/23	御園座		(文)。 ※越路太夫・文太夫・南都太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一九〇四	明治37	京都 歌舞伎座	(伊賀越)	沼津里(文=勝鳳)。		
		8/2			政右衛門邸(文=勝鳳)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一九〇四	明治37	8/12	京都 千本座	(伊賀越)	沼津之段(文)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	9/20	名古屋 歌舞伎座	(伊賀越)	六ツ目 沼津の里(大隅)。 ※竹本大隅太夫・伊達太夫・長子太夫・鍛太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	12/15	角座	(伊賀越)	五(長子)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	12/19	東京 歌舞伎座	(伊賀越)	政右衛門屋敷(越路=吉弥)。 ※大阪文楽義太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	1/17 1/23	京都 朝日座	(伊賀越道中双六)	政右衛門邸より広間まで(長子=仙之助)。 沼津里(長子=仙之助)。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38				2/18	名古屋 新守座
			2/23		(伊賀越)	東路(文字子)。 ※竹本住太夫・竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	6/4 6/6	京都 岩神座	(伊賀越道中双六)	沼津(長子)。 政右衛門屋敷(長子)。 ※竹本伊達太夫・竹本長子太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38				7/9	名古屋 新守座
△	一九〇五	明治38	7/19 7/26	東京 歌舞伎座	(伊賀越)	五(長子=仙之助)。 沼津。 ※竹本大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇五	明治38				8/18	京都

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
		8/20	南座	六)	八(新靱=勇造)。 ※大阪文楽座青年連、南部太夫・猿糸一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一九〇五	明治38	8/27	京都千本座	(伊賀越)	(新靱)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	9/6	名古屋千歳座	(伊賀越)	(長子)。 ※「大阪両座撰抜若手揃浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	2/8	京都南座	(伊賀越道中双六)	沼津(住)。	
			2/10		(伊賀越)	東路(文字子)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	2/22	京都岩神座	(伊賀越道中双六)	沼津(住)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇六	明治39	6	御霊文楽座	伊賀越 大序より 岡崎の段迄	大序 花見のだん(吉免子、蒼、福、勢尾、千鳥、富子、津路、喜、いさ、広見、須磨)、和田靱負屋敷のだん(口広、隅の、中津磨、越可、次津直、切勢見)、縄手のだん(津国)、上杉宮内少輔館のだん(口葉、中谷栄、奥津ばめ)、円覚寺のだん(中富、切文)、郡山八幡宮のだん(口南勢、奥源)、唐木政右工門屋敷のだん(中静、次津ばめ、切染)、沼津のだん(切津=猿糸)、新聞のだん(口千代、奥文)、竹藪のだん(登勢)、岡崎のだん(中源、次南部、切大隅=清六)。 ※「六月十四日ヨリ七月十一日迄廿七日間」(『義太夫年表 明治篇』)。 ※「宮内館ノ段奥モライ(役ガツイタダケデ実際上演セズ)」(『古靱太夫床年譜』)。 ※「紋十郎さんの大内記の息組といふものは、全く凄いものでした」(『吉田栄三自伝』)。	和田志津馬(玉六)、佐々木丹右工門(多為蔵)、娘お米(栄三)、沢井又五郎(玉治郎)、女房お谷(玉五郎)、菅田大内記(紋十郎)、宇佐美五右工門(門造)、桜田林左工門(栄三)、唐木政右工門(玉造)、呉服屋重兵衛(玉造)、親平作(紋十郎)、池添孫八(政亀)、娘おそで(政亀)、山田幸兵衛(多為蔵)。
△	一九〇六	明治39	7/27	京都歌舞伎座	(伊賀越)	相合傘(広見)。	
			7/29			沼津(大隅)。	
			8/1			政右衛門宅(源)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	8/7	名古屋末広座	(伊賀越道中双六)	沼津(文)。	
			8/8		(伊賀越)	東路(文字子)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	12/1	名古屋末広座	(伊賀越)	政右衛門屋敷より大広間 二段続(祖=団八)。	
			12/4		(伊賀越道中双六)	沼津(住=龍助)。	

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△		12/10		(伊賀越)	政右衛門屋敷より大広間迄(祖=団八)。		
		12/11		(伊賀越道中双六)	八(菅)。 ※朝太夫・松太郎一座、住太夫・龍助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一九〇七	明治40	8/9	京都南座	(伊賀越道中双六)	沼津(叶=吉松)。 ※摂津大掾一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇七	明治40	10/15~	堀江座	伊賀越岡崎まで八丁	大序 花見のだん(隅子、隅泉、隅栄、柴、初音、照、小国)、和田鞆負屋敷のだん(口敷嶋、吉野、中弥常、切一)、縄手のだん(筑)、上杉館のだん(口薫、中三笠、奥君)、円覚寺会合のだん(静)、沢井城五郎切腹のだん(切菅)、政右工門屋敷のだん(中司、切住)、大広間伝授のだん(角)、沼津の里平作内のだん(切春子、此所人形出遣いにて御覧に入候)、新聞のだん(口里、奥録)、竹藪のだん(組栄)、岡崎のだん(口隅の、中雛、切大隅=*団平)。 ※角書「道中双六ノ乗掛合羽」。	和田志津馬(政亀)、佐々木丹右工門(紋三)、およね(玉松)、沢井又五郎(光ル)、女房お谷(亀松)、菅田大内記(玉治)、宇佐見五右工門(兵三)、桜田林左工門(亀松)、唐木政右工門(玉松)、呉服屋重兵衛(亀松)、平作(兵吉)、池添孫八(冠四)、娘おそで(小兵吉)、山田幸兵衛(玉治)。
△	一九〇七	明治40	12/17	名古屋御園座	(伊賀越)	沼津(さの)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫・々太夫・南部太夫・時太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇七	明治40	12/15	名古屋末広座	(伊賀越)	沼津(住=龍助)。 ※「大阪文楽ノ堀江両座合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	2/24	京都歌舞伎座	(伊賀越)	沼津(長子)。 ※大阪文楽・堀江両座合併若手連素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	4/12	名古屋末広座	(伊賀越)	相合傘の段(小国=仙左)。	
			4/13			五ツ目 政右衛門屋敷の段(長子=八助)。	
			4/15			沼津里の段(絹=団丈)。 ※「大坂堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	7/14	名古屋御園座	(伊賀越)	政右衛門邸(源=勝太郎)。	
			7/15		(伊賀越道中双六)	沼津里(さの=春次郎)。 ※大阪文楽一座。竹本摂津大掾名古屋一世一代。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	8/6	京都南座	(伊賀越)	沼津(長子)。	
			8/8			沼津(寿)。	
			8/10			五(長子)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	8/13	中座	(伊賀越)	五(長子)。 ※竹本大隅太夫・豊沢団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	9/8	京都	(伊賀越)	沼津(さの=春次郎)。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		9/11	南座		政右衛門内（源＝勝太郎）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	9/16	京都 岩神座	（伊賀越） 沼津（文＝勝鳳・ツレ 勝太郎）。 ※文太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	10/28	京都 大宮座	（伊賀越） 八（今靱）。 ※大阪文楽若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	12/11	名古屋 御園座	（伊賀越） 沼津（三根＝大之助）。 ※「大阪文楽・堀江合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	12/16	東京 歌舞伎座	（伊賀越道中双六） 政右衛門内（源＝勝太郎）。 ※竹本撰津大掾一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	12/24	京都 歌舞伎座	（伊賀越道中双六） 沼津里の段（三根＝団治郎）。 ※大阪文楽若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	2/15 2/21	京都 南座	（伊賀越道中双六） 政右衛門屋敷（呂）。 沼津（呂）。 ※文楽一座、越路太夫・村太夫・南部太夫・呂太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇九	明治42	5/16～	御霊文楽座	伊賀越 大序より 岡崎の段迄 大序 花見の段（津雲、南次、源路、南登、柴、富路、桐、文次、福、時尾、南芳、文字子、富子）、和田靱負屋敷の段（口喜、須廣、中染代、越可、次津国、切むら）、縄手の段（鶴尾）、上杉宮内館の段（中広、次其、奥叶）、円覚寺の段（中谷、切文）、郡山八幡宮の段（口越見、奥むら）、唐木政右工門屋敷の段（中淀、次富、切七五三）、沼津の段（切染）、新関の段（文、源、常子、鶴尾、谷登）、竹藪の段（津直）、岡崎の段（中富、次古靱＝*喜左衛門、切越路＝吉兵衛）。 ※「六月十三日マデ廿九日間」（『義太夫年表 明治篇』）。 ※「新関ノ引抜ニマラソン競争ノ新浄瑠璃挿入」（『義太夫年表 明治篇』）。	和田志津馬（三左衛門）、佐々木丹右工門（助太郎）、娘およね（三左衛門）、沢井又五郎（玉治郎）、お谷（栄三）、菅田大内記（助太郎）、宇佐見五右工門（門造）、林左衛門（栄三）、唐木政右工門（玉治）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（紋十郎）、池添孫八（玉五郎）、娘お袖（玉六）、幸兵衛（玉治郎）。
△	一九〇九	明治42	8/18	京都 岩神座	（伊賀越） 饅頭娘（岡）。 ※大阪文楽座、染太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	9/3	京都 南座	（伊賀越） （鶴尾＝勝平）。 ※大阪文楽一座、越路太夫・南部太夫・鶴尾太夫・常子太夫・古靱太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九〇九	明治42	9/11	京都 国華座	(伊賀越)	政右衛門屋敷(柳適)。 ※「東阪合同浄瑠璃会」の内。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	10/1	名古屋 歌舞伎座	(伊賀越道中双六)	沼津(越登)。 ※鶴沢文治郎門人による浄瑠璃温習会。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	12/7	角座	(伊賀越道中双六)	沼津(長子)。 ※堀江座連による「浄瑠璃会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	2/5	名古屋 千歳座	(伊賀越)	政右衛門邸より大広間迄(呂=大三郎)。 ※呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	2/18・20 2/19	京都 明治座	(伊賀越道中双六)	沼津(鶴尾)。 (源路)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	7/2 7/4	名古屋 末広座	(伊賀越)	政右衛門邸(長子=八助)。 沼津(長子=八助)。 ※大隅太夫・団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	7/17 7/19 7/20	名古屋 御園座	(伊賀越)	六ツ目(鶴尾=兵三)。 吉原(鶴尾=兵三)。 相合傘(常子=一弥)。 ※大阪文楽座附竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8/1 8/5 8/6	京都 南座	(伊賀越道中双六) (伊賀越)	沼津(津=寛次郎・ツレ 団六)。 合傘(常子=一弥)。 (路久)。 ※文楽一座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8/13 8/17	京都 国華座	(伊賀越)	沼津(津=寛次郎)。 相合傘(常子=一弥)。 ※越路太夫・津太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8/18 8/22 8/24	京都 歌舞伎座	(伊賀越)	沼津(呂)。 沼津(鶴尾)。 政右衛門邸(呂)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	9/1	京都	(伊賀越)	(源路)。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
		9/3	岩神座		沼津（鶴尾）。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一九一〇	明治43	10/19	京都 明治座	（伊賀越） （路久）。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一九一〇	明治43	12/12	名古屋 千歳座	（伊賀越） （薩喜）。 ※豊竹薩摩太夫・小鞆太夫・薩喜太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一九一〇	明治43	12/17	名古屋 御園座	（伊賀越） 政右衛門屋敷（七五三＝綱造）。 ※大阪文楽座、越路太夫・七五三太夫・古鞆太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
	一九一一	明治44	1/2～	堀江座	伊賀越 大序より 敵討まで	大序 花見のдан（小錦、音名、小苗、旗、伊佐、早苗、鉄、小司、子扇、菅枝、雑栄、菅尾、春日、春次）、和田鞆負屋敷のдан（口小藤、中隅の、切絹）、縄手のдан（東）、上杉館のдан（口春日、中薫、切司）、会合のдан（米）、円覚寺祝言のдан（角）、沢井城五郎切腹のдан（切菅）、政右工門屋敷のдан（中三笠、切長子）、大広間伝授のдан（大内記一大嶋・政右工門一長子・林左工門一錦・五右工門十近習一三笠、此所人形出遣いにて御覧に入申候）、沼津里平作内のдан（切大隅＝*団平・ツレ*富太郎・胡弓小団、此所人形出遣いにて御覧に入申候）、新関のдан（口栄、奥錦、組栄、此所人形出遣い早替りにて御覧に入申候 吉田玉造）、竹藪のдан（敷嶋）、岡崎のдан（口組栄、中雛＝*猿治郎、切春子）、敵討のдан（薫、敷嶋、栄、春見、初音）。 ※角書「道中双六／乗掛合羽」。	和田志津馬（玉市）、佐々木丹右工門（政亀）、およね（玉造）、沢井又五郎（光ル）、女房おたに（文五郎）、菅田大内記（文五郎）、宇佐見五右工門（冠四）、桜井林左工門（政亀）、唐木政右工門（駒十郎）、呉服屋重兵衛（文五郎）、平作（兵吉）、池添孫八（小伊三郎）、娘おそで（玉吉）、山田幸兵衛（兵吉）。
△	一九一一	明治44	3/23	名古屋 御園座	（伊賀越道中双六） 沼津（鶴尾）。 ※竹本南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
	一九一一	明治44	4/15～	御霊文楽座	伊賀越 大序より 八ツ目の段まで	大序 花見のдан（古清、豆、古鶴、竹、越栄、三滝、松、越賀、南登、越穂、めばゑ、古金、源路、南次）、和田鞆負屋敷のдан（口文字子、英、文次、路久、中喜、富子、須磨、次津留、染代、切叶）、縄手のдан（葉）、上杉宮内館のдан（口越見、次常子、奥富）、円覚寺のдан（中谷、切七五三）、郡山八幡宮の段（口越喜、奥呂）、唐木政右工門屋敷のдан（中其、次源、切染＝広作）、沼津のдан（切撰津大掾）、新関のдан（口津国、奥古鞆）、竹藪のдан（むら）、岡崎のдан（中源、次叶、切越路＝吉兵衛）。 ※『文楽興行書入手帖』には「五月廿一日マデ卅九日間」、『古鞆大夫床年譜』には「卅二日間」とある（『義太夫年表 明治篇』）。	和田志津馬（三左衛門）、佐々木丹右工門（玉治郎）、娘お米（三左衛門）、沢井又五郎（紋三）、女房お谷（栄三）、菅田大内記（多為蔵）、宇佐美五右工門（玉五郎）、桜田林左衛門（玉治郎）、唐木政右衛門（文三）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（多為蔵）、池添孫八（琴糸）、娘お袖（玉七）、山田幸兵衛（多為蔵）。
△	一九一一	明治44	7/8	京都 歌舞伎座	（伊賀越） （源路＝猿三）。 ※文楽一座、越路一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一九一一	明治44	8/7	浪花座	（伊賀越） 政右衛門邸（源）。		

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		8/17			政右衛門屋敷（古靱）。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	9/7	京都南座	（伊賀越） （越代＝友之助）。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	10/9	名古屋末広座	（伊賀越） 五ツ目（長子＝八助）。 ※「大阪堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一二	明治45	4/11	京都開盛座	（伊賀） （明石）。 ※近松座若手連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一二	明治45	7/13	浪花座	（伊賀越） 沼津（叶＝寛治郎）。政右衛門屋敷（源＝勝市）。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九一二	大正1	9/20～	近松座	伊賀越 続き八駅 縄手のだん（明石、社、春次、東、隅の、雛栄、雛子、栄、敷嶋＝*猿吉、*新作、*新吾）、円覚寺のだん（中組栄＝*竜市、切角＝*新造、菅＝*助三郎）、政右衛門邸のだん（中三笠＝*富次、切前後毎日がわり長子＝*八助//大嶋＝*源吉）、大広間伝授のだん（鏝＝*仙市）、沼津里より平作切腹のだん（切春子＝*新左衛門・ツレ *新造・小弓 *新之助、此所人形出遣ひにて御覧に入申候）、新関所のだん 引拔三人座頭（口薫＝*団勇、奥雛・毎日かわり栄／東／敷嶋・雛子／社／隅の・春次／明石／雛栄＝*力松・ツレ *広市・*団市、此所人形出遣ひにて御覧に入申候）、竹藪のだん（琴＝*吉郎）、岡崎のだん（中錦＝*竹三郎、切大隅＝*団平）。 ※角書「乗掛合羽／道中双六」。 ※辻番付では「縄手のだん」雛栄太夫のところ里太夫とある。「岡崎のだん」は捕手から錦太夫が代る（『義太夫年表 大正篇』）。 ※「沼津里は近松座独特の道具で駒仕掛けで遠景は油画流真景を写し出して結構である」（『浄瑠璃雑誌』第109号）。	和田志津广（兵治）、佐々木丹右工門（政亀）、およね（玉造）、沢井又五郎（光ル）、女房お谷（文五郎）、本多内記（文五郎）、宇佐見五右工門（兵三）、桜井林左工門（政亀）、唐木政右工門（駒十郎）、呉服屋重兵衛（文五郎）、平作（兵吉）、池添孫八（勇昇）、娘お袖（小兵吉）、山田幸兵衛（兵吉）。
△	一九一二	大正1	10/18	京都開盛座	（伊賀越） 五（呂＝団六）。 ※文楽座、呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一二	大正1	12/24	京都明治座	（伊賀越道中双六） 沼津。 ※女義太夫呂昇一座に文楽座人形入り。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	（不明）
△	一九一三	大正2	2/10	京都南座	（伊賀越道中双六） 饅頭娘（錦）。	
		2/13		（伊賀越） 岡崎（錦＝竹三郎）。 ※大阪近松座引越し、大隅一派。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九一三	大正2	2/24	名古屋末広座	(伊賀越)	沼津(錦=仙市・ツレ 団平・胡弓 小団)。 ※大隅太夫・団平、伊達太夫・徳太郎、錦太夫・仙市、ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	7/3 7/5	京都京都座	(伊賀越道中双六)	沼津(津)。 饅頭娘(源)。 ※大阪文楽座連、越路太夫・吉兵衛。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	11/7	名古屋帝国座	(伊賀越道中双六)	沼津(米)。 ※近松座、竹本伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	11/19 11/22 11/24	京都明治座	(伊賀越) (伊賀越道中双六)	沼津(古靱=清六)。 饅頭娘(古靱=清六)。 沼津(津=綱造)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	12/4 12/8 12/10	東京新富座	(伊賀越道中双六) (伊賀越)	沼津(古靱=清六)。 政右衛門邸(古靱=清六)。 (源路)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一三	大正2	12/6 12/7	東京明治座	(伊賀越道中双六)	沼津(錦=団平・ツレ 団市・胡弓 小団)。 岡崎(錦=団平)。 ※近松座。素浄瑠璃。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一三	大正2	12/14 12/17	名古屋御園座	(伊賀越)	相合傘(源路)。 沼津(古靱)。 ※竹本越路太夫・野沢吉兵衛一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	5/9	京都岩神座	(伊賀越道中双六)	沼津(和)。 ※大阪文楽座、鏝太夫・団六ほか。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九一四	大正3	5/14~6/10	御霊文楽座	伊賀越道中双六	沼津のだん(切 越路=吉兵衛)。 ※越路太夫初役(番付口演)。 ※千穉楽は『松竹百年史』に拠る。 ※劇評ではおよねは吉田玉五郎。吉田玉七休みカ(『義太夫年表 大正篇』)。	娘およね(玉七)、呉服屋重兵へ(栄三)、親平作(多為蔵)、孫八(亀三郎)。
	一九一四	大正3	夏	松島八千代座	(伊賀越道中双六)	岡崎(錦=団平)。 ※近松座。素浄瑠璃。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一四	大正3	7/12	京都南座	(伊賀越道中双六)	沼津(古靱)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一四	大正3	7/22	名古屋 御園座	(伊賀越道中双六) 沼津(古靱=清六)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	8/5	東京 新富座	(伊賀越道中双六) 沼津(津=綱造・ツレ 勝平・胡弓 小綱)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一四	大正3	8/17	名古屋 末広座	(伊賀越道中双六) 沼津(錦=団平・ツレ 団市・胡弓 小団)。 ※竹本錦太夫・豊沢団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	12/10	名古屋 御園座	(伊賀越道中双六) 沼津(古靱)。	
			12/13	(伊賀越)	東口(鶴尾)。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一五	大正4	2/10~	御霊文楽座	伊賀越 大序より 八ツ目の段迄 大序 花見のだん(い、南海、めばゑ、南治、三滝)、序切 和旦那負屋敷の だん(越穂、路久、喜、文字子、九重、源路、一日がわり 小富/和/鶴、英 /谷)、縄手のだん(綾登)、円覚寺諸士会合ノ段(越代)、茶の湯祝言の だん(源)、丹右工門忠義のだん(時)、郡山八幡宮のだん(口 津国=*卯 三郎、奥 鏝=*兵内)、唐木政右工門屋敷のだん(中 越喜、次 静=*一弥 /*勝平、切 古靱=*清六)、大広間のだん(呂=*才治)、沼津のだん (切 津=*綱造・ツレ 芳之介・胡弓 小綱)、新関のだん(口 鶴尾、切 南 部、源・常子・淀・越見=*寛治郎・*勝市・*広太郎・*友造・他)、竹 藪のだん(綱尾)、岡崎のだん(中 駒=*三二、次 叶=*叶、切 越路=吉 兵衛)。 ※「三月十日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。 ※竹本源太夫休演のため、「茶の湯祝言のだん」を竹本常子太夫が代演、 「新関のだん」はい太夫が加わる(『義太夫年表 大正篇』、『浄瑠璃雑 誌』第140号)。 ※「岡崎」越路、16日後半代役常子(『松竹百年史』)。 ※「新関」の引抜きに、初めて「団子売」の踊をやりました(『吉田栄 三自伝』)。	和田志津馬(玉七)、佐々木丹右工門 (文三)、娘およね(文五郎)、沢井又 五郎(玉治郎)、女房お谷(栄三)、菅 田大内記(玉蔵)、宇佐見五右工門(駒 十郎)、桜井林左工門(玉治郎)、唐木 政右工門(多為蔵)、呉服屋重兵衛(栄 三)、親平作(多為蔵)、娘お袖(文五 郎)、山田幸兵衛(文三)、池添孫八 (玉七)。
△	一九一五	大正4	3/11	松の座	(伊賀越道中双六) 八(栄)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一五	大正4	4/21~23	名古屋 東陽町国産奨励 品評会本館楼上	(伊賀越) ※「二十一日より三日間、午後一時より、市内夢中連主催となり、大坂より 錦太夫を聘し、毎日『伊賀越』の通しものを(中略)三味線は市内芸妓連取 持にて勤める由」(「名古屋新聞」4月16日)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	7/1	京都	(伊賀越) 政右衛門邸(古靱=清六)。	
			7/3	南座	(伊賀越道中双六) 沼津(津=綱造)。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
		7/4		(伊賀越)	八幡(源路)。 ※大阪文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』、『松竹百年史』に拠る。		
△	一九一五	大正4	浪花座	(伊賀越道中双六)	饅頭娘(古靱=清六)。		
		7/9 7/10			沼津(津=綱造)。 ※「浄瑠璃大会」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』、『義太夫年表 大正篇』欄外記事、『松竹百年史』に拠る。		
△	一九一五	大正4	名古屋御園座	(伊賀越)	沼津(古靱)。		
		7/19 7/20			八幡宮(鶴尾)。 ※越路太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一九一五	大正4	名古屋御園座	(伊賀越道中双六)	沼津(古靱=清六)。 ※大阪御霊文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)	
△	一九一五	大正4	東京新富座	(伊賀越道中双六)	饅頭娘(源=勝市)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。		
△	一九一六	大正5	名古屋末広座	(伊賀越道中双六)	沼津(呂=広作)。 ※竹本春子太夫・鶴沢寛六等外十数名の大一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一九一六	大正5	京都南座	(伊賀越)	政右衛門の段(源=勝市)。		
		7/3 7/4			沼津(津=友治郎)。		
		7/6			相合傘の段(源路=清勇)。 ※大阪文楽座引越、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一九一六	大正5	浪花座	(伊賀越)	五(弥)。		
		7/8 7/9			(伊賀越道中双六)	岡崎(錦)。	
		7/11			平作住家(弥)。 ※竹本朝太夫・豊沢松太郎、近松座、錦・弥・角太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。		
△	一九一六	大正5	浪花座	(伊賀越道中双六)	沼津(米)。 ※近松座。素浄瑠璃。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。		
△	一九一六	大正5	京都明治座	(伊賀越)	五つ目(弥)。		
		8/2 8/4			(伊賀越道中双六)	沼津(弥)。	
		8/6			(明石)。 ※竹本朝太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
△	一九一六	大正5	名古屋末広座	(伊賀越)	沼津(弥=吉弥・ツレ 龍市・胡弓 新之助)。		
		8/11 8/14			政右衛門邸(弥=吉弥)。 ※東京 竹本朝太夫・豊沢松太郎一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九一六	大正5	9/23	名古屋 明治座	(伊賀越)	沼津(呂=広作・ツレ 浅造)。 ※豊竹呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一六	大正5	10/31~	近松座	伊賀越道中双六 和田屋敷より 岡崎まで	和田鞆負屋敷のだん(葵、米穂、弥野、小島、松重、扇子=吉鳥改メ 道之助、三郎、団三、八造、団伊三、竹弥、源吾、団茂登)、郡山八幡のだん(栄=新之助)、政右衛門屋敷のだん(弥国=団二郎、角=源吉)、大広間のだん(米=吉郎)、沼津の段(弥=吉弥・ツレ 吉子・小弓 三郎)、新関のだん 引抜 歐洲戦乱街余談独逸人漂浪の段(雛子=毎日替り 力造/竹広、雛・雛子・春次・組栄=竹三郎・ツレ 吉作/新之助・毎日替り 八造/団伊三)、竹藪のだん(扇子=毎日替り 八造/団伊三)、岡崎のだん(春次=毎日替り 道之助/団造、組栄=吉郎、三笠=龍市、錦=助三郎)。 ※浄瑠璃身振り。 ※「米太夫が組栄の相合傘代役のため角太夫広間迄つとむ 源吉病、吉郎代役 組栄吉郎の代り米団二郎つとむ」(『義太夫年表 大正篇』)。「大広間の米は相合傘の組栄病気の為、其代りを勤むるので、角が大広間迄追通しで勤める、又糸の源吉は病気にて吉郎の代勤「心掛け有る侍は」より語り出した」(『浄瑠璃雑誌』第161号)。	
△	一九一六	大正5	12/1 12/5 12/6	東京 歌舞伎座	(伊賀越道中双六) (伊賀越)	沼津(津=友治郎・ツレ 友之助)。 政右衛門屋敷(源=勝市)。 東路(鶴尾=友平)。 ※文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
	一九一七	大正6	3/1~	京都 竹豊座	伊賀越 大序より 八ツ目の段迄	大序 花見のだん(鳴美、時次)、和田鞆負屋敷のだん(古金、南登、伊達見)、円覚寺会合ノ段(春雄)、丹右工門使者のだん(春次)、城五郎切腹のだん(薫)、政右工門屋敷のだん(花、三笠=*兵三)、大広間のだん(大内記一薫・政右工門一春次・五右工門一古金/南登・林左工門一筆=*広次)、沼津里のだん(海老=*弥七・ツレ *兵之助)、平作腹切のだん(鳴門=*大造)、新関所のだん(操=*新三郎)、竹藪のだん(伊達見)、岡崎のだん(中筆=*門造、切 春子=*新左衛門)。 ※「二十四日間」(『義太夫年表 大正篇』)。	和田志津馬(文昇)、佐々木丹右工門(兵次)、およね(小兵吉)、沢井又五郎(松江)、女房お谷(小兵吉)、菅田大内記(小兵吉)、宇佐見五右工門(冠四)、桜田林左工門(松江)、唐木政右工門(辰五郎)、重兵工(紋太郎)、親平作(辰五郎)、池添孫八(兵枝)、娘おそで(玉米)、山田幸兵工(兵三)。
△	一九一七	大正6	5/1	名古屋 末広座	(伊賀越)	沼津(古鞆=清六・ツレ 芳之助・胡弓 清一)。 ※豊竹古鞆太夫・鶴沢清六一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九一七	大正6	6/20~	御霊文楽座	伊賀越 大序より 八ツ目の段まで	大序 花見のどん(陸路、津若、南枝、越登、富栄、源福、小町、津花、南海、めばゑ)、和田鞆負屋敷のどん(三滝、越穂、九重、喜、谷登、和、越代、菅)、縄手のどん(鶴)、円覚寺のどん(中 米、切 駒=*広作)、郡山八幡宮のどん(口 小富、奥 八十=*勇造)、唐木政右工門屋敷のどん(中 常子、次 淀、切 伊達=吉三郎)、沼津のどん(切 津=*友治郎)、新関のどん(口 源路、奥 叶=*叶)、竹藪のどん(鶴尾)、岡崎のどん(中 越見、次 源=*勝市、切 越路=吉兵衛)。 ※角書「道中双六ノ乗掛合羽」。 ※「七月三日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。 ※「岡崎のどん」越路太夫、後半を常子太夫が代った日あり(『義太夫年表 大正篇』)。	和田志津馬(玉松)、佐々木丹右工門(玉治郎)、傾城瀬川・娘お米(文五郎)、沢井又五郎(紋三)、女房お谷(文五郎)、菅田大内記(栄三)、宇佐見五右工門(紋三)、桜田林左衛門(玉治郎)、唐木政右工門(玉蔵)、呉服屋重兵衛(栄三)、親父平作(玉蔵)、池添孫八(政亀)、娘お袖(玉七)、山田幸兵衛(文三)。
△	一九一七	大正6	7/12 7/13	京都 南 座	(伊賀越) 沼津里(津=友次郎)。 政右衛門屋敷(伊達=吉三郎)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	7/12	名古屋 末 広 座	(伊賀越道中双六) 沼津(錦=団六・ツレ 団二郎)。 ※近松座、竹本錦太夫・竹本角太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	9	東京 有 楽 座	(伊賀越道中双六) 政右衛門邸(角)、沼津(呂)、岡崎(錦)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(不明)
△	一九一七	大正6	12/8 12/9	東京 歌 舞 伎 座	(伊賀越道中双六) 沼津(津=友治郎・ツレ 友之助・胡弓 友衛門)。 政右衛門屋敷(源=勝市)。 ※大阪文楽座浄瑠璃一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一七	大正6	12/22	名古屋 御 園 座	(伊賀越) 政右衛門屋敷(伴)、平作内(伊達=吉三郎)、岡崎幸兵衛内(越路=吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九一八	大正7	7/17 7/21	名古屋 御 園 座	(伊賀越) 政右衛門屋敷(源)。 沼津(津)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	7下旬	東京 有 楽 座	(伊賀越道中双六) 沼津(古鞆)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(不明)
△	一九一八	大正7	7/25 7/29	京都 南 座	(伊賀越) 沼津里(津)。 (源)。 ※大阪文楽座引越、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	8/6 8/10	中 座	(伊賀越道中双六) 沼津(津=友治郎)。 八(古鞆=清六)。 ※文楽座、越路太夫一座による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一八	大正7	9/7	北 劇 場	(伊賀越道中双六) 沼津(呂)。 ※文楽座太夫連による「涼み浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九一八	大正7	9/10~	京都竹豊座	伊賀越道中双六 沼津里のだん(春子=*新左衛門)。	およね(小兵吉)、重兵衛(玉松)、平作(辰五郎)、池添孫八(三郎)。
△	一九一八	大正7	12/5	東京歌舞伎座	(伊賀越道中双六) 政右衛門内(源=勝市)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一九	大正8	7/6	京都南座	(伊賀越) 沼津(津=友治郎・ツレ友之助・胡弓友衛門)。	
			7/10		(伊賀越道中双六) 饅頭娘(源=勝市)。 ※大阪文楽座引越、竹本越路太夫。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	7/7	名古屋御園座	(伊賀越道中双六) 沼津(呂=芳之助・ツレ引猿太郎・胡弓清一)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九一九	大正8	8/12~17	東京新富座	(伊賀越道中双六) 沼津(弥=吉弥・ツレ八造・胡弓友衛門)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事、『松竹百年史』に拠る。	平作(玉蔵)。
△	一九一九	大正8	8/20	浪花座	(伊賀越道中双六) 沼津(弥=吉弥)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	9/13	名古屋末広座	(伊賀越道中双六) 沼津平作住家(弥=吉弥・ツレ八造・胡弓喜代之助)。 ※竹本伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一九	大正8	11/7~	京都竹豊座	伊賀越 大序より 岡崎の段まで 大序 花見のだん(角登、時子、富久、多見、鳴尾、亀、時の、久米)、靱負屋敷のだん(千嶋)、円覚寺会合のだん(松重)、茶の湯祝言のだん(南登)、丹右衛門忠義のだん(円)、郡山八幡宮のだん(嶋菊)、唐木政右衛門屋敷のだん(明石、越=*龍市)、大広間のだん(大内記一時・政右工門一越・五左工門一操・近習一嶋菊・林左工門一錦)、沼津里のだん(錦=*宗七)、新関所のだん(三好)、竹藪のだん(松重)、岡崎雪降のだん(春次、時=*弥七)。	和田志津馬(扇太郎)、佐々木丹右工門(新三郎)、娘お米(扇太郎)、沢井又五郎(兵松)、妻お谷(小兵吉)、本田大内記(小兵吉)、沢井又五郎(兵松)、桜田甚左工門(新三郎)、唐木政右衛門(辰五郎)、呉服屋重兵衛(徳丸)、親平作(辰五郎)、池添孫八(東三郎)、娘おそで(玉米)、山田幸兵衛(徳丸)。
△	一九一九	大正8	12/4	東京歌舞伎座	(伊賀越道中双六) 政右衛門屋敷(源=勝之助)。 沼津(津=友治郎・ツレ友之助・朝馬・友子)。	
			12/6			
			12/7		(伊賀越) 岡崎(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座浄瑠璃大一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一九	大正8	12/19	名古屋御園座	(伊賀越) (常子=友平)。 (津=友治郎)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
			12/22・23			

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九二〇	大正9	5/1~	御霊文楽座	伊賀越 大序より 岡崎の段まで	大序 花見のだん（清、淀路、陸路、弥須、南枝、富栄、越登、辰、源福、越名、つばめ）、和田靱負屋敷のだん（口津花／豊島、中三滝／越穂、次小富、切菅）、縄手のだん（常子）、円覚寺諸士会合のだん（町）、茶の湯祝言のだん（駒）、丹右衛門忠義の段（切叶）、唐木政右衛門屋敷のだん（中嶋、次八十、切伊達＝＊吉三郎）、大広間のだん（越代改メ 相生＝＊竹三郎）、沼津のだん（切津）、新関のだん（口和泉、奥弥・ツレ録・淀・町・嶋）、竹藪のだん（鶴尾）、岡崎のだん（中源＝＊勝市、次古靱＝＊清六、切越路＝吉兵衛）。 ※角書「道中双六／乗掛合羽」。 ※「三十日間 五月三十日打上」（『義太夫年表 大正篇』）。 ※「沼津のだん」竹本津太夫初日より3日間休演、豊竹古靱太夫代役。「岡崎のだん」竹本越路太夫1日のみ途中より竹本八十太夫代役（『義太夫年表 大正篇』）。	和田志津馬（玉七）、佐々木丹右衛門（玉治郎）、娘お米（文五郎）、沢井又五郎（紋三）、女房お谷（文五郎）、菅田大内記（栄三）、宇佐見五右衛門（辰五郎）、桜井林左エ門（紋三）、唐木政右衛門（玉蔵）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（文三）、池添孫八（玉治郎）、娘お袖（政亀）、山田幸兵衛（辰五郎）。
△	一九二〇	大正9	東京有楽座	（伊賀越道中双六）	沼津（春子）。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	およね（小兵吉）、重兵衛（玉松）。
△	一九二〇	大正9	中座	（伊賀越道中双六）	政右衛門内（源＝団六）。 沼津（津＝友次郎）。 ※文楽座連中による「浄瑠璃会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二〇	大正9	名古屋御園座	（伊賀越道中双六）	沼津平作内（津＝友次郎）。	（不明）
		7/26		（伊賀越）	政右衛門屋敷の段（源＝団六）。 ※越路一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二〇	大正9	京都南座	（伊賀越道中双六）	沼津（津＝友次郎）。 政右衛門邸（源＝団六）。 ※大阪文楽座引越、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二〇	大正9	中座	（伊賀越道中双六）	沼津平作住家の段（古靱＝清六・芳之助）。 ※東西名流大演奏会。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二〇	大正9	京都南座	（伊賀越道中双六）	沼津のだん（古靱＝清六・ツレ 芳之助・胡弓 清市）。 ※東西名流演奏大会。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九二〇	大正9	京都竹豊座	伊賀越道中双六	沼津里のだん（若＝＊宗七・ツレ 宗三郎・胡弓 団二郎）。 ※「十一月七日迄」（『義太夫年表 大正篇』）。	娘およね（小兵吉）、呉服屋重兵衛（紋太郎）、親平作（玉松）、池添孫八（兵十郎）。
△	一九二〇	大正9	東京有楽座	（伊賀越道中双六）	岡崎（古靱＝清六）。 ※名流演奏会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二一	大正10	5/9	竹本伊達太夫宅	(伊賀越道中双六) 沼津(つばめ=清二郎)。 ※大序会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二一	大正10	7/6 7/8 7/9	京都南座	(伊賀越道中双六) 沼津里(津=友次郎)。 沼津里(弥=吉弥)。 (伊賀越) 政右衛門屋敷(源=勝市)。 ※大阪文楽一座引越し。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二一	大正10	8/5	名古屋御園座	(伊賀越) (弥=吉弥)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
	一九二二	大正11	6/10~7/1	御霊文楽座	伊賀越道中双六 大序より八ツ目まで 大序 鶴ヶ岡花見のどん(照、亀久、呂智、雀、南枝、淀路、陸路、富栄、辰)、和田靱負屋敷のどん(口 源福/越登/文/越名、中 三滝/鏡/つばめ、次 小富/常子、切 八十)、郡山八幡宮のどん(口 越穂、奥 町/淀)、政右衛門屋敷のどん(中 源路、次 相生、切 弥=*吉弥)、大広間のどん(大内記一静・政右工門一八十・林左工門一島・五衛門一鏡・近習一辰)、沼津里のどん(切 古靱=新左衛門・ツレ *友之助/*広太郎)、新関のどん(口 越名、奥 源=*勝市)、竹藪のどん(鶴尾)、岡崎のどん(口 つばめ、中 駒、切 津)。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	和田志津馬(政亀)、佐々木丹衛門(太郎)、娘およね(文五郎)、沢井又五郎(玉次郎)、女房お谷(文五郎)、菅田大内記(栄三)、宇佐美五衛門(玉次郎)、桜田林左衛門(紋三)、唐木政右衛門(文三)、重兵衛(栄三)、親平作(玉蔵)、池添孫八(門造)、娘お袖(玉七)、山田幸兵衛(辰五郎)。
△	一九二二	大正11	7/20	名古屋末広座	(伊賀越道中双六) 沼津(古靱=新左衛門・ツレ 新三郎・胡弓 友右衛門)。 ※大阪文楽座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九二二	大正11	7/26	京都中座	(伊賀越道中双六) 沼津(八十=八助)。 ※大阪文楽座若手連引つ越し。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二二	大正11	8/5	浪花座	(伊賀越道中双六) 政右衛門内(源=勝市)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』、『松竹百年史』に拠る。	
△	一九二二	大正11	8/9	京都南座	(伊賀越) 沼津(津=友次郎・友之助)。 ※文楽座引越し、津太夫・古靱太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二二	大正11	12/5 12/10	東京新富座	(伊賀越道中双六) 沼津(津=友次郎・ツレ 団六)。 饅頭娘(源=勝市)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九二三	大正12	2/6~26	御霊文楽座	伊賀越道中双六 沼津里のどん(切 津=*友治郎・ツレ *友之助/*友造・胡弓 *福太郎)。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	娘およね(文五郎)、重兵衛(栄三)、親平作(文三)、池添孫八(玉徳)。
	一九二四	大正13	6/7~25	御霊文楽座	伊賀越道中双六 沼津里のどん(切 津=*吉弥)。 ※二代竹本津太夫十三回忌追善。 ※三味線は野沢吉兵衛の予定であったが6月4日歿。稽古から野沢吉弥が代役(『義太夫年表 大正篇』)。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	娘およね(政亀)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(文三)、池添孫八(玉徳)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二四	大正13		中座	(伊賀越道中双六) 沼津(津=吉弥)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃演奏会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二四	大正13	京都南座	(伊賀越)	沼津(津=吉弥・ツレ 小綱・胡弓 団二郎)。 ※大阪文楽。素浄瑠璃。津太夫紋下清六改名披露。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九二五	大正14	京都 新京極文楽座	伊賀越道中双六	郡山八幡宮のだん(口 播路/駒尾/鷹=清丸、友吉、六三郎、奥 富=友工門)、政右衛門屋敷のだん(中 播路=清丸、次 三好=吉左、切 嶋=友平)、大広間のだん(大内記一越名・政右衛門一鏡・五右衛門一富・林左衛門一播路・近習一駒尾=八助)、沼津里のだん(切 八十=勝平・ツレ 友工門・胡弓 清丸)。	娘およね(小兵吉)、女房お谷(紋太郎)、誉田大内記(小兵吉)、宇佐見五右衛門(冠造)、桜田林左衛門(兵十郎)、唐木政右衛門(玉松)、呉服屋重兵衛(玉松)、親平作(栄三)、池添孫八(文之助)。
△	一九二五	大正14	神戸 松竹劇場	(伊賀越道中双六)	沼津(津=道八)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(不明)
△	一九二五	大正14	名古屋 御園座	伊賀越道中双六	沼津里のだん(切 津=道八・ツレ 団六・胡弓 団二郎)。 ※『御園座七十年史』に拠る。	娘およね(文五郎)、呉服や重兵衛(栄三)、親平作(玉蔵)、池添孫八(玉七)。
△	一九二五	大正14	東京 歌舞伎座	伊賀越道中双六	沼津里の段(切 津=道八・ツレ 団六・胡弓 団二郎)。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉蔵)、池添孫八(玉七)。
△	一九二五	大正14		中座	(伊賀越道中双六) 岡崎(鏡=友衛門)。 沼津(古靱=清六)。 ※文楽座連中による「涼み素浄瑠璃」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九二五	大正14	京都南座	伊賀越道中双六	沼津里のだん(切 津=道八・ツレ 団六・胡弓 団二郎)。	娘お米(文五郎)、重兵衛(栄三)、親平作(玉蔵)、池添孫八(玉七)。
	一九二五	大正14		中座	沼津里のだん(切 津=道八)。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉蔵)、池添孫八(玉七)。
△	一九二五	大正14	高知	(伊賀越道中双六)	沼津(米)。 岡崎(米)。 五(鏡)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二六	大正15	京都 京都座	(伊賀越道中双六)	沼津里の段(相生=友之助・ツレ 小庄)。 ※大阪文楽座、竹本文字太夫・竹本相生太夫ほか。竹本文字太夫襲名披露興行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二六	大正15	京都南座	(伊賀越道中双六)	沼津里の段(古靱=清六)。 岡崎の段(文字=勝平)。	
				(伊賀越)	政右衛門屋敷(源=仙糸)。 ※文楽座引越し、豊竹古靱太夫・竹本土佐太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二六	大正15	8/6~8	東京 歌舞伎座	伊賀越道中双六 沼津里の段（古靱＝清六・ツレ 綱右衛門・胡弓 吉貞）。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	娘およね（文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉蔵）、池添孫八（玉幸）。
	一九二六	大正15	9/15~	御霊文楽座	伊賀越道中双六 大序より 八ツ目まで 大序 花見の段（武蔵、源平、叶美、常子、源子、小松、豆、鷹、伊達喜、照、弥生、駒尾、駒登、淀路、播路）、和田靱負屋敷の段（口 亀久／陸路／長子／辰／源福＝*友作／他、中 三滝／綾＝*清二郎／*叶太郎、次 和泉／鶴尾＝*八助／*寛市、切 角＝*猿糸）、郡山八幡宮の段（口 越穂＝*友若、奥 嶋／相生＝*芳之助／*友造）、政右衛門屋敷の段（中 源路／富＝*綱右衛門／*猿二郎、次 文字＝*勝平、切 叶＝*叶）、大広間の段（静＝*吉弥）、沼津里の段（切 古靱＝清六・ツレ *浅造／*友衛門・胡弓 *福太郎／*小庄／*友駒）、新聞の段（口 越名＝*広太郎、奥 鋏、角・ツレ 町・常子＝*友次郎・*勝市・*友平・*吉左・*喜代之助）、竹藪の段（鏡＝*友之助）、岡崎の段（口 つばめ＝*猿太郎、中 駒＝*才治、切 津＝道八）。	和田志津馬（政亀）、佐々木丹右衛門（玉徳）、娘およね（文五郎）、沢井又五郎（扇太郎）、妻お谷（文五郎）、菅田大内記（栄三）、宇佐見五右衛門（辰五郎）、桜田林左衛門（玉松）、唐木政右衛門（文三）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（文三）、池添孫八（玉七）、娘お袖（養助）、山田幸兵衛（玉次郎）。
△	一九二七	昭和2	3/25	文具倶楽部	（伊賀越道中双六） 沼津（鷹、奥 雛子＝三郎・ツレ 竜二郎）。 ※第3回近松会。 ※『浄瑠璃雑誌』第259号に拠る。	
△	一九二七	昭和2	5/11	豊沢猿系邸	（伊賀越道中双六） 沼津（竹次＝広三郎）。 ※第3回松葉会（初午祭を兼ねる）。 ※『浄瑠璃雑誌』第260号に拠る。	
△	一九二七	昭和2	8/27	東京 歌舞伎座	（伊賀越道中双六） 沼津（津＝叶・ツレ 清二郎・胡弓 小庄）。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
			8/28		伊賀越道中双六 円覚寺の段（源子＝小庄）。 ※大阪文楽座義太夫一座。	
△	一九二七	昭和2	12/12	東京 宮戸座	（伊賀越道中双六） 沼津（米＝新次郎）、千本松（殿母＝猿蔵）。 ※身振劇。大日本義太夫因会大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第265号に拠る。	
	一九二七	昭和2	12/20	浪花座	伊賀越 沼津里の段（文字＝勝平・ツレ 叶太郎・胡弓 友駒）。 ※若手素浄瑠璃。	
△	一九二八	昭和3	1/6~23	地方公演 （山陽・九州）	伊賀越道中双六 沼津里の段（貴鳳＝芳之助・ツレ 清三郎）、岡崎（鏡＝吉左）。 ※竹本土佐太夫一行巡業。1月6・7日岡山・岡山劇場（6日は沼津里の段・三味線ツレは不明、7日は岡崎）、8日広島・寿座（沼津里の段）、15日小倉・勝山劇場（沼津・三味線は不明）での上演を含む。 ※「山陽新報」（1月5・7日の記事、1月5日の広告）、「中国新聞」（1月8日の記事と広告）、「大阪毎日新聞西部毎日（北九州版）」（1月11・15日）に拠る。	
	一九二八	昭和3	1/18~24	京都 南座	伊賀越道中双六 沼津里の段（切 津＝友次郎・ツレ 友之助・胡弓 福太郎／友駒）。 ※千鶴楽は「京都市出新聞」（1月24日）、「浄瑠璃雑誌」第265号に拠る。	娘お米（紋十郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉次郎）、池添孫八（政亀）。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九二八	昭和3	2/3~19	弁天座	伊賀越 大序より 八ツ目まで	大序 鶴ヶ岡花見の段(佐久、津磨、隅尾、駒司、源左、源喜、源賀、長、武蔵、源平、叶美、常子、小松、伊達喜、照、隅栄、駒尾、駒登、淀路=稲丸、外数名)、和田鞆負屋敷の段(播路、亀久、陸路、長子、千駒、辰、源福、千駒=叶太郎、越穂=猿二郎、和泉=広太郎)、縄手の段(綾=寛市)、円覚寺の段(中鏡=団六//島=友若//相生=芳之助、切大隅=道八)、郡山八幡宮の段(島=八助/浅造)、唐木政右衛門屋敷の段(中播路/陸路=綱右衛門、次文字=勝平、切土佐=吉兵衛)、大広間の段(大内記一貴鳳・政右衛門一和泉・林左衛門一富・五右衛門一源路・近習一辰=叶)、沼津里の段(切津=友次郎・ツレ猿糸・胡弓福太郎/友駒/小庄)、新関の段(口富=友作、奥録・ツレつばめ・越名・長子=新左衛門・勝市・友平・新吉・新之助・新作)、竹藪の段(綾=吉左/八造)、岡崎の段(中鏡=猿太郎、次駒=才治、切古鞆=清六)。 ※角書「道中双六/乗掛合羽」。 ※千種楽は「大阪朝日新聞」(2月19日)に拠る。	和田志津馬(玉七)、佐々木丹右衛門(玉松)、娘およね(文五郎)、沢井又五郎(玉徳)、妻お谷(文五郎)、本田大内記(文五郎)、宇佐見五右衛門(門造)、桜田林左衛門(玉松)、唐木政右衛門(栄三)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉次郎)、池添孫八(玉七)、娘お袖(紋十郎)、山田幸兵衛(玉次郎)。
△	一九二八	昭和3	神戸八千代座	(伊賀越道中双六)	沼津里の段(切古鞆=清六・ツレ勝三郎・胡弓福太郎/友駒)。 ※「神戸新聞」(2月26・28~29日・3月1~6日の記事、2月28~29日・3月1~8日の広告)に拠る。	お米(紋十郎)、重兵衛(栄三)、平作(玉次郎)。
		3/14~15	名古屋御園座	伊賀越道中双六	沼津里の段(切古鞆=清六・ツレ勝三郎・胡弓福太郎/友駒)。 ※大阪文楽座巡業(3月1~20日、神戸・名古屋・広島)の内。	娘およね(紋十郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉次郎)、池添孫八(紋太郎)。
△	一九二八	昭和3	豊橋東雲座	(伊賀越道中双六)	沼津(文字=勝平・ツレ吉左・胡弓勝芳)。 ※素浄瑠璃。 ※「豊橋日日新聞」(3月2・4日の記事、3月2日の広告)、「豊橋新報」(3月2~4日の記事、3月2日の広告)、「参陽新報」(3月3~4日の記事、3月2日の広告)に拠る。	
△	一九二八	昭和3	丹波柏原劇場	(伊賀越道中双六)	沼津(貴鳳=清二郎)。 ※『浄瑠璃雑誌』第270号に拠る。	
△	一九二八	昭和3	ラジオ放送	(伊賀越道中双六)	沼津の里(文字)。 ※『文楽浄瑠璃物語』に拠る。	
△	一九二八	昭和3	神戸八千代座	(伊賀越道中双六)	沼津(文字)。 ※若手幹部連の素浄瑠璃。 ※「神戸新聞」(6月23~25日の記事、6月23~26日の広告)に拠る。	
	一九二八	昭和3	東京新橋演舞場	伊賀越道中双六	沼津里の段(切津=友次郎・ツレ友衛門・胡弓福太郎/小庄)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉次郎)、池添孫八(門造)。
△	一九二八	昭和3	神戸八千代座	(伊賀越道中双六)	沼津(源)。 ※文楽中堅花形の大一座。素浄瑠璃。 ※「神戸新聞」(7月12・14~15・17~18日の記事、7月12~18日の広告)に拠る。	
	一九二八	昭和3	浪花座	伊賀越道中双六	沼津里の段(相生=芳之助)。 ※文楽座若手素浄瑠璃。	

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九二八	昭和3	12/11~15	東京 新橋演舞場	伊賀越 郡山八幡宮より 八つ目まで	郡山八幡宮の段（口 源左＝市之助、おぼこ＝団二郎、佐久＝新之助、奥 辰＝勝三郎）、唐木政右衛門屋敷の段（口 小松＝団伊三、中 鏡＝団六、切 源＝仙糸）、大広間の段（大内記一相生・政右衛門一鏡・林左衛門一源路・五右衛門一辰・近習一常子＝芳之助）、新関の段（口 小松＝団伊三、奥 鏝・ツレ つばめ・越名・源左・佐久・宮・相寿・おぼこ＝新左衛門・勝市・友衛門・勝三郎・市之助・清若・才吉）、竹藪の段（常子＝団二郎）、岡崎の段（中 源路＝清二郎、次 相生＝芳之助、切 古靱＝清六）。 ※角書「道中双六ノ乗掛合羽」。	和田志津馬（政亀）、女房お谷（文五郎）、菅田大内記（玉松）、宇佐美五右衛門（門造）、桜田林左衛門（玉幸）、唐木政右衛門（栄三）、娘お袖（紋十郎）、山田幸兵衛（玉治郎）。	
一九二九	昭和4	2/4~22	地方公演 （山陽・九州）	伊賀越道中双六	沼津里の段（津＝友次郎・ツレ 友衛門・胡弓 小庄）。 ※大阪文楽座巡業。2月4日岡山・岡山劇場（配役不明）、2月6日広島・寿座での上演を含む。 ※「山陽新報」（1月22日・2月1・5日の記事、2月2日の広告）、「中国新聞」（2月7~8日の記事、2月5~8日の広告）に拠る。		
△	一九二九	昭和4	5/26	東京 主婦の友講堂	（伊賀越）	沼津（重兵衛一巖・安兵衛十孫八一和国・お米一生駒・平作一君＝紋左衛門・ツレ 吉松郎・幸太郎・胡弓 紋三郎）。 ※第6回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃世界』第305号、『浄瑠璃雑誌』第280号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	7/1~5	東京 新橋演舞場	伊賀越道中双六	沼津里の段（切 津＝友次郎・ツレ 友之助・胡弓 友駒）。 娘およね（文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉次郎）、池添孫八（玉幸）。	
△	一九二九	昭和4	7/15~19	東京 報知講堂	（伊賀越）	鞆負殺の段（伊達代＝宗之助、松四郎）、丹右衛門上使の段（朝瀬＝良之助、扇之助）、円覚寺の段（扇賀＝照助、巴磨造）、蝶花形の段（米喜＝文之助、猿五郎）、婚礼の段（さ路＝団四郎）、政右衛門邸の段（巴磨＝猿三郎）、大広間伝授場の段（大内記一朝見・政右衛門一米・林左衛門一さの・五右衛門一さ路・近習一扇賀＝芳太郎）、沼津里の段（米＝新次郎・ツレ 新之丞）、平作腹切の段（さの＝猿平・胡弓 扇之助）。 ※『浄瑠璃世界』第306号では「丹右衛門上使の段」の三味線を豊沢良之助の替りに豊沢民之助とする。 ※『浄瑠璃世界』第306号、『浄瑠璃雑誌』第281号に拠る。	お米（小兵吉）、大内記（小兵吉）、林左衛門（新三郎）、重兵衛（玉徳）、平作（徳三郎）、政右衛門（冠造）。
△	一九二九	昭和4	9/10	名古屋 新守座	（伊賀越）	沼津の段（古靱＝清六）。 ※『浄瑠璃雑誌』第283号には、鶴沢清六病気のため、鶴沢芳之助代役とある。素浄瑠璃。 ※「新愛知」（9月3~8・10~11日の記事、9月6~7・9・11日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第283号に拠る。	
		9/14~15	神戸 八千代座	伊賀越道中双六	沼津里の段（切 古靱＝清六・ツレ 浅造・胡弓 小庄）。 ※「神戸新聞」（9月11~15・17~18日の記事、9月13~19日の広告）に拠る。	娘お米（文五郎）、重兵衛（栄三）、平作（玉次郎）、池添（玉幸）。	
		9/21~23	高松 聚楽座		沼津の里の段（切 古靱＝清六・ツレ 浅造・胡弓 福太郎）。 ※大阪文楽座巡業（9月7~23日、名古屋・神戸・高松）の内。 ※「香川新報」（9月19~23日の記事、9月20~21・23日の広告）に拠る。		

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二九	昭和4	9/18	岡崎 松 栄 座	(伊賀越道中双六) 沼津(千駒=吉房)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(9月18~21日、愛知・10月1~3日、京都)の内。9月20日安城座(三味線不明)、9月21日知立座(三味線不明)で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第284号に拠る。	
△	一九三〇	昭和5	3/1	東京 飛 行 館	(伊賀越道中双六) 沼津里の段(殿母=団左衛門)。 ※五代竹本さの太夫改め七代豊竹湊太夫披露会。竹沢竜造身振劇出演。 ※『浄瑠璃雑誌』第289号に拠る。	
△	一九三〇	昭和5	4/21	東京 三越ホール	(伊賀越道中双六) 岡崎雪降(殿母=猿三郎)。 ※第16回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第290号に拠る。	
	一九三〇	昭和5	6/5~26	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六 沼津里の段(古鞠=清六・ツレ 猿太郎/友衛門)、平作内の段(津=叶・胡弓 新之助/勝芳/小綱)。 ※千穉楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。 ※6月7日、NHKラジオ中継。 ※「沼津は(中略)一段を語り分けるが、紋下と他の太夫が一段の中に活躍する事は文楽初めての試み」(『浄瑠璃雑誌』第291号)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉次郎)、池添孫八(玉七)。
	一九三〇	昭和5	8/16 8/23	東京 東 京 劇 場	伊賀越道中双六 沼津里の段(津=友次郎・ツレ 勝平)。 岡崎の段(文字=勝平)。 ※素浄瑠璃。	
	一九三一	昭和6	3/1~25	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六 政右衛門屋敷の段(中 綾=友若/吉左//浪花=寛市/清二郎、次 相生=芳之助/友造、切 大隅=道八)、大広間の段(大内記一つばめ・政右衛門一和泉・林左衛門一長尾/鏡・五右衛門一富・近習一千駒/播路=叶/団六)。 ※千穉楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	妻お谷(文五郎)、菅田大内記(玉松)、宇佐美五右衛門(門造)、桜田林左衛門(玉幸)、唐木政右衛門(栄三)。
△	一九三一	昭和6	6/28	市 村 座	(伊賀越道中双六) 沼津(米=新次郎)。 ※豊竹巴磨太夫改め七代豊竹巴太夫襲名披露会。 ※『浄瑠璃雑誌』第304号に拠る。	
	一九三一	昭和6	7/1~2	京都 南 座	伊賀越道中双六 沼津里の段(切 津=友次郎・ツレ 友之助・胡弓 友駒)。 ※鶴沢友次郎休演、豊沢広助代役(『文楽興行記録昭和篇』)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉次郎)、池添孫八(玉幸)。
△	一九三一	昭和6	7/7	船場ビルヂング	(伊賀越道中双六) 沼津里(貴鳳=友造)。 ※浄曲研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第303号に拠る。	
△	一九三一	昭和6	10/29	谷町法妙寺	(伊賀越道中双六) 沼津の段。 ※近松半二百五十年忌追善会式。 ※「大阪毎日新聞」(10月28・30日)に拠る。	

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九三一	昭和6	11/1~	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六 通し狂言	郡山八幡宮の段（菅田大内記一和泉・宇佐見五右衛門一長尾・桜田林左衛門一貴鳳・お谷一文・近習一さの／津磨＝歌助／友之助）、唐木政右衛門屋敷の段（中 千駒／播路＝友作／友二、次 駒＝重造、切 土佐＝吉兵衛）、大広間の段（菅田大内記一文字・唐木政右衛門一相生・桜田林左衛門一鏡・宇佐見五右衛門一辰／陸路・近習一長子＝叶／広助）、沼津里の段（切 津＝綱造・ツレ 綱右衛門・胡弓 小綱／綱治／綱延）、新関の段（口 富＝八助／広太郎、奥 鏝・ツレ つばめ・町・源路・駒尾／小松／叶美／津城＝新左衛門・仙糸・芳之助・寛市／吉左・新三郎／新吉／団伊三・新之助／吉男／新八）、竹藪の段（綾＝叶太郎／喜代之助）、岡崎の段（中 島＝猿太郎／清二郎、次 大隅＝道八、切 古鞠＝清六）。 ※近松半二百五十年忌追善。 ※「大広間の段」近習の竹本長子太夫の代役、竹本隅栄太夫（『文楽興行記録昭和篇』）。	和田志津馬（扇太郎）、娘およね（文五郎）、女房お谷（文五郎）、菅田大内記（玉松）、宇佐見五右衛門（門造）、桜田林左衛門（玉幸）、唐木政右衛門（栄三）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉次郎）、池添孫八（文作）、娘お袖（紋十郎）、山田幸兵衛（玉治郎）。	
△	一九三一	昭和6	12/5~7	東京 明治座	伊賀越道中双六	沼津里の段（切 津＝綱造・ツレ 綱右衛門・胡弓 綱治）。	娘お米（文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉次郎）、池添孫八（文作）。
△	一九三二	昭和7	3/27	京都 烏丸日出会館	（伊賀越道中双六）	沼津（文字＝勝平・ツレ 団二郎）。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
△	一九三二	昭和7	5/4 5/6	名古屋 御園座	（伊賀越）	岡崎の段（陸路＝団二郎）。 沼津（文字＝勝平）。 ※竹本鏝太夫一行巡業（5月4~14日、東海）の内。文楽座の若手による素浄瑠璃。 ※「新愛知」（5月1・3~8日）、『浄瑠璃雑誌』第312号、『御園座七十年史』に拠る。	
	一九三二	昭和7	5/7~9	東京 東京劇場	伊賀越道中双六	沼津里の段（切 津＝綱造・ツレ 友造・胡弓 友花）。	娘およね（文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉次郎）、池添孫八（玉幸）。
	一九三二	昭和7	5/25~26	神戸 松竹劇場	伊賀越道中双六 郡山八幡宮より 沼津まで	郡山八幡宮の段（文＝友造）、政右衛門屋敷の段（中 播路＝団伊三、次 島改め 呂＝叶、切 大隅＝道八）、大広間の段（大内記一つばめ・政右衛門一相生・林左衛門一鏡・五右衛門一隅栄・近習一土佐子＝仙糸）、沼津里の段（切 津＝綱造・ツレ 清二郎・胡弓 綱治）。	娘およね（文五郎）、妻お谷（紋十郎）、菅田大内記（玉松）、宇佐見五右衛門（門造）、桜田林左衛門（玉幸）、唐木政右衛門（栄三）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉次郎）、池添孫八（玉市）。
△	一九三二	昭和7	6/20	北新地演舞場	（伊賀越道中双六）	沼津の里（文字＝勝平・ツレ＋胡弓 綱延）。 ※花菱会。桐竹門造指導少女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第313号では、北陽演舞場とする。 ※『浄瑠璃雑誌』第312・313号に拠る。	
△	一九三二	昭和7	7/2	備後町三休橋角 綿業会館	（伊賀越道中双六）	沼津（長尾＝友造）。 ※三人会（貴鳳・長尾・和泉）。 ※『浄瑠璃雑誌』第313号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三二	昭和7	7/9	姫路 山陽座 〈竹本座〉	(伊賀越道中双六) 沼津(錦=竜市)。 ※『浄瑠璃雑誌』第314号に拠る。	
△	一九三二	昭和7	8/1~	地方公演 (近畿・東海)	伊賀越道中双六 沼津の段(相生=清二郎・団二郎)。 ※文楽座若手連五人会(竹本相生太夫・豊竹呂太夫・豊竹つばめ太夫・竹本南部太夫・竹本小春太夫)巡業。8月1~2日京都・京都座、8月15~16日名古屋・御園座(役割不明)での上演も含む。 ※「京都日出新聞」(7月29・31日・8月2~3・5~7日)、「新愛知」(8月9~13・15~16日)、『御園座七十年史』に拠る。	
	一九三二	昭和7	10/25	東京 東京劇場	伊賀越道中双六 沼津里の段(大隅=道八・ツレ 寛市・胡弓 市松)。 ※素浄瑠璃。	
△	一九三二	昭和7	12/14	四ツ橋文楽座	(伊賀越道中双六) 沼津(津=綱造)。 ※英彦山国立公園運動寄附公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第319号、『松竹百年史』に拠る。	
△	一九三二	昭和7	12/22	西条 近松座	(伊賀越道中双六) 沼津(津)。 ※竹本津太夫一行巡業(12月16~24日、四国)の内。 ※「海南新聞」(12月16日)、「香川新報」(12月20日)、『浄瑠璃雑誌』第319号に拠る。	
	一九三三	昭和8	4/1~20	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六 沼津里の段(切 津=綱造・ツレ 綱右衛門/寛市・胡弓 綱延/勝之介)。 ※第1回二部制興行。 ※千鶴楽は『浄瑠璃雑誌』第322号に拠る。	娘お米(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉次郎)、池添孫八(門造)。
△	一九三三	昭和8	6/25	高知 堀詰座	(伊賀越道中双六) 沼津里(つばめ=芳之助)。 ※竹本土佐太夫一行巡業(6月22~26日、高知)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第325号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	7/14~	地方公演 (九州)	(伊賀越道中双六) 沼津(津=綱造)。 ※竹本津太夫一行巡業。 ※『浄瑠璃雑誌』第325号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	7/26~27	神戸 松竹劇場	(伊賀越道中双六) 沼津(相生)。 ※大阪文楽座人形浄瑠璃若手花形銷夏競演大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第326号、「神戸新聞」(7月20~23日の記事、7月22日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九三三	昭和8	8/19	紀州田辺 常磐座	(伊賀越) 沼津里の段(津=綱造・ツレ 綱治)。 ※「紀伊新報」(8月12日)、『浄瑠璃雑誌』第326号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	8/24~25	京都 南座	伊賀越道中双六 沼津里の段(切 文字=勝平・ツレ 新太郎・胡弓 仙三郎)。 ※「京都日出新聞」(8月23~24日)に拠る。	娘お米(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、平作(玉次郎)、池添孫八(玉七)。
	一九三三	昭和8	12/1~3	東京 歌舞伎座	伊賀越道中双六 沼津里の段(切 津=綱造・ツレ 勝平・胡弓 綱治)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉次郎)、池添孫八(門造)。
△	一九三四	昭和9	3/25	滋賀長浜 日比劇場	(伊賀越道中双六) 沼津(松栄=松二郎)。 ※まこと改め竹本松栄太夫披露会。桐竹門造指導少女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第332号に拠る。	

	西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三四	昭和9	5/24	山口下松町 大黒座	(伊賀越道中双六)	沼津(駒尾=勝之介)。	
			5/28	山口厚狭町 厚狭クラブ		沼津(駒尾=富平)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(5月23~30日、山口)の内。5月29日山口小野田町・須恵座で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第334号に拠る。	
	一九三四	昭和9	5/26~27	名古屋 名古屋劇場	伊賀越道中双六	沼津里の段(切津=綱造・ツレ重造・胡弓綱治)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉次郎)、池添孫八(光之助)。
△	一九三四	昭和9	6/27	福井 亀山座	(伊賀越道中双六)	沼津(駒尾)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(6月23~27日、福井)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第334号に拠る。	
	一九三四	昭和9	7/27~29	東京 歌舞伎座	伊賀越道中双六	唐木政右衛門屋敷の段(中隅栄=団伊三、次南部=吉弥、切大隅=道八)、大広間の段(大内記一つばめ・政右衛門一和泉・五右衛門一播路・近習一津磨・近習一土佐子・林左衛門一呂=叶)。	妻お谷(紋十郎)、誉田大内記(玉幸)、宇佐見五右衛門(政亀)、桜田林左衛門(玉市)、唐木政右衛門(玉松)。
△	一九三四	昭和9	9/13	東京 歌舞伎座前木村 屋別館	(伊賀越道中双六)	沼津(益=好造)。 ※鶴沢司好発起勉強会。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	10/1	東京 電気倶楽部	(伊賀越道中双六)	沼津(弥国=団市・ツレ扇之助)。 ※第1回東京義太夫新興会。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
△	一九三五	昭和10	1/8	神戸 御影公会堂	(伊賀越道中双六)	沼津(陸路=吉房・ツレ勝之介)。 ※桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第337号に拠る。	
	一九三五	昭和10	2/21~23	神戸 松竹劇場	伊賀越道中双六	沼津里の段(切津=綱造・ツレ友衛門・胡弓綱延)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉治郎)、池添孫八(門造)。
	一九三五	昭和10	7/12~14	東京 明治座	伊賀越道中双六	沼津里の段(切津=綱造・ツレ重造・胡弓綱治)。	娘お米(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉次郎)、池添孫八(光之助)。
△	一九三五	昭和10	8/24	浪花座	(伊賀越道中双六)	沼津(呂=友衛門)。 ※文楽若手浄瑠璃会納涼浄瑠璃。 ※「大阪毎日新聞」(8月21日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。	
	一九三五	昭和10	10/1~	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六 政右衛門屋敷 より 沼津里の段まで	唐木政右衛門屋敷の段(中むら=叶太郎//富=喜代之助、次南部=吉弥//呂=叶、切駒=清二郎)、大広間の段(大内記一文字・政右衛門一和泉・林左衛門一長尾/源路・五右衛門一貴鳳/播路・近習一駒尾/津磨・近習一叶美/駒若=勝平)、沼津里の段(切古靱=重造・猿糸・胡弓仙三郎)。	娘およね(文五郎)、妻お谷(紋十郎)、誉田大内記(扇太郎)、宇佐美五右衛門(門造)、桜田林左衛門(玉幸)、唐木政右衛門(玉蔵)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉次郎)、池添孫八(多三郎)。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三五	昭和10	11/28	岡山 岡山劇場	伊賀越道中双六 沼津里の段（切 津＝綱造・ツレ 友衛門・胡弓 綱延）。 ※大阪文楽座巡業（11月27日～12月8日、岡山・名古屋・豊橋）の内。12月3～4日名古屋・御園座（胡弓は綱治）で同公演あり。 ※「山陽新報」（11月23・26～29日）、「新愛知」（11月21・24・26～30日）の記事、11月25・28日の広告）、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一九三六	昭和11	2/2	松本 建国座	（伊賀越道中双六） 沼津の段。 ※大阪文楽座巡業（2月2～10日、長野・愛知・静岡）の内。2月6日長野・上田劇場（役割不明）で同公演あり。 ※「信濃毎日新聞」（1月30日・2月4日）、『浄瑠璃雑誌』第346号に拠る。	（不明）
	一九三六	昭和11	2/19～21	京都 南座	伊賀越道中双六 沼津里の段（切 津＝綱造・ツレ 寛市・胡弓 猿若）。	娘およね（文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉次郎）、池添孫八（光之助）。
	一九三六	昭和11	3/1～	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六 新関より 岡崎の段まで 新関の段 引抜き 子之助／はつか鼠道行（口 播路／千駒＝団伊三、奥 相生・呂・源路・辰・竹・土佐子＝団六・友衛門・吉左・喜代之助・新太郎／仙三郎／吉季・一郎右衛門／猿若）、竹藪の段（富＝叶太郎//むら＝友作）、岡崎の段（中 長尾＝友平、次 鑿＝新左衛門、切 津＝綱造）。 ※煤茂都扇性＝作（「子之助／はつか鼠道行」）。	和田志津馬（政亀）、女房お谷（文五郎）、桜田林左衛門（玉徳）、唐木政右衛門（栄三）、娘お袖（紋十郎）、山田幸兵衛（玉蔵）。
△	一九三六	昭和11	4/2～3	名古屋 御園座	伊賀越道中双六 新関より 岡崎まで 新関の段（口 津の子＝道造、駒、奥 小春、遠眼鏡 播路、掛合 駒尾・常子＝清二郎・寛市・友駒・吉季・一郎右衛門・猿若）、竹藪の段（隅栄＝新太郎、淀路＝道造）、岡崎の段（中 文字＝広助、切 津＝綱造）。 ※大阪文楽座巡業（4月2日～、東海）の内。 ※「新愛知」（3月26・28～29日・4月1～3・5・7日の記事、3月27・30～31日・4月1・6日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第347号に拠る。	
△	一九三六	昭和11	4/15～17	神戸 松竹劇場	（伊賀越道中双六） 沼津里の段（文字＝広助・ツレ 寛市）、平作内の段（大隅＝重造・胡弓 清友／猿若）。 ※「神戸新聞」（4月9・12・15～16日の記事、4月10・15日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第347号に拠る。	お米（紋十郎）、重兵衛（栄三）、平作（玉蔵）、池添孫八（玉市）。
△	一九三六	昭和11	5/3～13	地方公演 （山陽・九州）	（伊賀越道中双六） 沼津里の段（切 大隅＝広助・ツレ 鶴太郎・胡弓 猿若）。 ※竹本鑿太夫一行巡業。5月12日広島での上演を含む。 ※『浄瑠璃雑誌』第349号に拠る。	お米（紋十郎）、重兵衛（栄三）、平作（玉蔵）、孫八（門造）。
△	一九三六	昭和11	12	地方公演 （中国・四国・九州）	（伊賀越道中双六） 沼津（津＝綱造・ツレ 寛市・胡弓 重次郎）。 ※大阪文楽座巡業。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	娘およね（紋十郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉次郎）、池添孫八（門造）。
△	一九三六	昭和11	12/9	上海 東劇	（伊賀越） 沼津里（駒尾＝吉右）。 ※竹本陸路太夫一行巡業（12月7～11日、上海）の内。上海皇軍慰問公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第356号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	2/14	東京浅草 並木倶楽部	（伊賀越道中双六） 沼津（梅本香伯＝司好・ツレ 寛三郎）。 ※故五代目鶴沢仲助師二十三回忌追善大会。 ※『浄瑠璃時報』第177号に拠る。	
	一九三七	昭和12	3/1～	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六 沼津里の段（切 津＝綱造・ツレ 寛市・胡弓 猿若）。	娘およね（文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉次郎）、池添孫八（文作）。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三七	昭和12	4/27	堀江演舞場	(伊賀越) 沼津の里。 ※松崎松重翁三回忌追善浄瑠璃会。文楽人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第360号に拠る。	およね(文作)、重兵衛(玉徳)、平作(利男)、孫八(玉丸)。
	一九三七	昭和12	6/11~13	東京明治座	伊賀越道中双六 沼津里のどん(切津=綱造・ツレ吉左・胡弓吉蔵)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉次郎)、池添孫八(玉市)。
	一九三七	昭和12	7/3~	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六 沼津里の段(切駒=清二郎・ツレ鶴太郎/友駒・胡弓吉蔵)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉次郎)、池添孫八(栄三郎)。
	一九三七	昭和12	7/18~20	京都南座	伊賀越道中双六 沼津里の段(切古鞆=清六・ツレ友衛門・胡弓吉蔵)。	娘お米(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉次郎)、池添孫八(文作)。
△	一九三七	昭和12	9/11~12	名古屋御園座	(伊賀越道中双六) 沼津(古鞆=清六・ツレ清二郎・胡弓友三郎)。 ※『浄瑠璃時報』第191号、『御園座七十年史』、「新愛知」(9月1~5・8~12・14・16日の記事、9月4・8~16日の広告)に拠る。	(不明)
			9/17	豊橋東雲座	沼津里の段(古鞆=清六)。 ※大阪文楽座巡業(9月11~19日、東海)の内。 ※「豊橋日日新聞」(9月2・4~5・7~9・11~14・16日の記事、9月15・17日の広告)に拠る。	お米(文五郎)、重兵衛(栄三)、平作(玉次郎)。
	一九三七	昭和12	12/9~	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六 岡崎の段(前/後 役毎日替 相生=道八//織=団六)。	和田志津馬(政亀)、女房お谷(文五郎)、唐木政右衛門(栄三)、娘お袖(紋十郎)、山田幸兵衛(玉蔵)。
△	一九三八	昭和13	1/27	ラジオ放送	(伊賀越道中双六) 政右衛門屋敷(津賀=紋左衛門)。 ※「東京朝日新聞」「東京日日新聞」(1月27日)、『太棹』第94号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	2/21~23	京都弥栄会館	(伊賀越) 沼津里の段(相生=道八・ツレ吉左)、平作内の段(文字=広助・胡弓友三郎)。 ※『浄瑠璃雑誌』第368号、「京都日出新聞」(2月12・18・20~21・23日)、「京都日日新聞」(2月21日)、「大阪朝日新聞(京都版)」(2月22日の記事、2月17日の広告)に拠る。	(不明)
	一九三八	昭和13	3/16~25	北陽演舞場	伊賀越道中双六 沼津里の段(切大隅=寛治郎・ツレ友造/友平・胡弓清友)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉蔵)、池添孫八(門造)。
△	一九三八	昭和13	3/28	東京歌舞伎座	(伊賀越道中双六) 沼津里の段(平作一殿母・重兵衛一米・お米一東・安兵衛一麗=吉作・仙十郎)。 ※竹本津賀太夫引退披露。 ※『浄瑠璃雑誌』第368・369号、『太棹』第93・94号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	6/22	高知堀詰座	(伊賀越) 六ツ目 沼津の里(大隅=重造・ツレ重次郎)。 ※『浄瑠璃雑誌』第371号、「高知新聞」(6月13・15~16・19~23日)に拠る。	

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三八	昭和13	7/8~10	東京 新橋演舞場	伊賀越道中双六 沼津里の段（切 津＝綱造・ツレ 寛治郎・胡弓 友三郎）。	娘およね（文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（門造）、池添孫八（文作）。
△	一九三八	昭和13	8/23	ラジオ放送	（伊賀越道中双六） 沼津の段（大隅＝重造・胡弓 友駒）。 ※「大阪朝日新聞」「東京朝日新聞」（8月23日）、『太棹』第99号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	10/15	東京浅草 並木倶楽部	（伊賀越道中双六） 沼津（殿母＝良造）。 ※日本帝都義太夫因会大会。 ※『太棹』第99号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	10/25	東京 蚕糸会館	（伊賀越道中双六） 沼津（杣＝松市郎）。 ※東京浄瑠璃人形芝居秋季特別公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第376号は26日の演目とする。 ※『太棹』第99号、『浄瑠璃雑誌』第376号に拠る。	お米（池田三国）、平作（吉田国五郎）、重兵衛（吉田清三郎）。
△	一九三八	昭和13	12/9~18	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六 岡崎の段（前／後 役毎日替 相生＝道八//織＝団六）。	和田志津馬（政亀）、女房お谷（文五郎）、唐木政右衛門（栄三）、娘お袖（紋十郎）、山田幸兵衛（玉蔵）。
△	一九三九	昭和14	1/27	東京 日本橋倶楽部	（伊賀越） 沼津（前 駒登＝扇之助、後 弥国＝寛三郎）。 ※東京南北座初春興行。 ※『浄瑠璃雑誌』第377号、『太棹』第101号に拠る。	お米（綱助）、重兵衛（清三郎）、平作（吉田国五郎）、孫八（高瀬弦之丞）。
△	一九三九	昭和14	2/1~3	京都 南座	（伊賀越道中双六） 沼津里の段（切 津＝綱造・ツレ＋胡弓 吉左）。 ※「京都市日新聞」（1月23・25~26日・2月2日の記事、2月1日の広告）、 「京都日日新聞」（1月28・30日・2月3日の記事、1月26日の広告）、『昭和の南座 資料編（上）』に拠る。	およね（文五郎）、重兵衛（栄三）、親平作（門造）、池添孫八（紋太郎）。
△	一九三九	昭和14	2/11~12	神戸 松竹劇場	（伊賀越道中双六） 沼津里の段より平作内の段まで（大隅＝鏝）。 ※「神戸新聞」（2月9・14~15日の記事、2月7日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九三九	昭和14	2/17	広島 新天劇場	（伊賀越道中双六） 沼津里の段。 ※「中国新聞」（2月13・17日の広告）に拠る。	（不明）
			2/19	博多 大博劇場	沼津里の段（大隅＝広助、切 鏝＝新左衛門）。 ※文楽座一行巡業（2月17~23日、広島・博多・山口）の内。 ※「九州日報」（2月19・21~23・25日）に拠る。	お米（文五郎）、重兵衛（栄三）、平作（門造）。
△	一九三九	昭和14	3/20~23	東京 明治座	伊賀越道中双六 沼津里の段（切 津＝綱造・ツレ 寛市・胡弓 吉蔵）。	娘およね（文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（門造）、池添孫八（玉市）。
△	一九三九	昭和14	3/22	神奈川 平塚劇場	（伊賀越道中双六） 沼津（菊美＝延左衛門）。 ※南北座。 ※『太棹』第103号に拠る。	およね（吉田国三郎）、重兵衛（才三郎）、平作（吉田国五郎）、孫八（高瀬弦之丞）。
△	一九三九	昭和14	6/23	東京 日本橋倶楽部	（伊賀越道中双六） 沼津（紅葉＝猿三郎・ツレ 美之助）。 ※日本帝都義太夫因会男子部春季大会。 ※『太棹』第105号、『浄瑠璃月報』第13号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九三九	昭和14	7/23~24	京都 南座	(伊賀越道中双六)	沼津(文字=吉左・ツレ 吉季)、平作内(大隅=広助・胡弓 清友)。 ※吉田栄三休演のため、重兵衛を吉田玉市が代演(『文楽興行記録昭和篇』)。 「京都日出新聞」(7月16~17・21~24・26日の記事、7月16・21~24・26~27日の広告)、「京都日日新聞」(7月17・19~20・25~26日の記事、7月20~25日の広告)、「大阪朝日新聞(京都版)」(7月19日)に拠る。	およね(文五郎)、重兵衛(栄三)、平作(門造)。	
△	一九三九	昭和14	ラジオ放送	(伊賀越道中双六)	沼津の段(駒=清二郎・胡弓 友若)。 ※「大阪朝日新聞」「東京朝日新聞」(8月29日)、『太棹』第108号に拠る。		
	一九三九	昭和14	11/1~	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六	唐木政右衛門屋敷の段(中 千駒=叶太郎/友作/団伊三、次 和泉=叶//源=吉弥、切 駒=清二郎)、大広間の段(大内記=大隅・政右衛門=文字・林左衛門=和泉・五右衛門=長尾・近習=常子・近習=隅若=広助)、沼津里の段(切 津=友次郎・ツレ 友造/友平・胡弓 友花/友三郎)、新聞の段(口 辰=寛若//播路=広二、奥 鑿=織・南部/伊達・さの/津磨・宮/駒若・松島/土佐夫=寛治郎・団六・鶴太郎/友太郎/新太郎/友十郎・友衛門/寛市・一郎右衛門/吉蔵/広若・叶/吉弥)、竹藪の段(富=寛若/広二/団作)、岡崎の段(中 伊勢=仙糸、次 相生/呂=新左衛門、切 古鞆=清六)。	和田志津馬(政亀)、嫁およね(文五郎)、女房お谷(文五郎)、菅田大内記(玉蔵)、宇佐見五右衛門(門造)、桜田林左衛門(玉幸)、唐木政右衛門(栄三)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(門造)、池添孫八(玉徳)、娘お袖(紋十郎)、山田幸兵衛(玉蔵)。
△	一九三九	昭和14	12/3	大分 大分劇場	(伊賀越道中双六)	沼津(文字)。 ※大阪文楽座、竹本大隅太夫豊沢広助一行巡業(12月3~15日、九州)の内。乙女人形入。12月5日中津・蓬萊館(役割不明)、13日博多・大博劇場(役割不明)で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第385号、「豊洲新報」(12月1・3日)、「大分新聞」(12月3・5日)、「大阪朝日新聞(大分版)」(12月5日)、「福岡日日新聞」(12月11~13・25日の記事、12月10日の広告)、「九州日報」(12月13・15日)に拠る。	
△	一九三九	昭和14	12/14	東京 日本橋倶楽部	(伊賀越道中双六)	政右衛門邸より大広間(政右衛門=殿母・武助+林左衛門=さくら・五右衛門=弥国・お谷=近衛・柴垣+大内記=東・おのち+近習=一宗・乳母=朝見=猿之助)。 ※日本帝都義太夫因会大会。 ※『太棹』第109・110号に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	3/24	ラジオ放送	(伊賀越道中双六)	沼津の段(津=重造・胡弓 清友)。 ※『太棹』第114号は、3月25日放送とする。 ※「大阪朝日新聞」「東京朝日新聞」(3月24日)、『太棹』第114号に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	9/22	東京 新橋演舞場	(伊賀越道中双六)	沼津(津=寛治郎・他)。 ※素浄瑠璃。 ※「朝日新聞(東京版)」(9月20~22・25~27日の広告)、「報知新聞」(9月20~27日の広告)、「東京日日新聞」(9月25日の記事、9月22日の広告)、『太棹』第118号、『浄瑠璃雑誌』第394・395号に拠る。	

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九四〇	昭和15	10/8	東京 日本橋倶楽部	(伊賀越道中双六) 沼津(平作=殿母・重兵衛一近衛・安兵衛一稻=紋左衛門・延左衛門)。岡崎(殿母=良造)。 ※日本義太夫因会男子部秋季大会。 ※『太棹』第119号、『浄瑠璃雑誌』第394号に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	10/28	京都 朝日会館	(伊賀越道中双六) 沼津の段(大隅=広助・広若・胡弓 吉蔵)。 ※国粋古典芸術鑑賞会、第9回秋季文楽浄瑠璃の夕。 ※「京都日日新聞」(10月24日)、「京都日出新聞」(10月25日)に拠る。	
	一九四〇	昭和15	12/1~	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六 沼津里の段(大隅=広助・ツレ 友造)、平作内の段(切 古鞆=清六・胡弓 吉蔵)。 ※12月5日西園寺公国葬のため劇場休場(「大阪毎日新聞」(12月3日)、「朝日新聞(大阪版)」(12月5日)に拠る)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(門造)、池添孫八(光之助)。
	一九四一	昭和16	8/4~6	京都 南座	伊賀越道中双六 沼津里の段(相生=吉五郎・ツレ 団伊三)、平作内の段(切 文字=喜代之助)、千本松の段(和泉=叶・胡弓 吉蔵)。	娘お米(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(門造)、池添孫八(栄三郎)。
△	一九四一	昭和16	8/11~12	名古屋 御園座	(伊賀越道中双六) 沼津里の段(相生=吉五郎)、平作内(切 文字=喜代之助)、千本松原(和泉=叶)。 ※『御園座七十年史』、「新愛知」(8月2・6・12日の記事、8月5・11・13日の広告)に拠る。	(不明)
	一九四一	昭和16	9/1~23	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六 沼津里の段(大隅=清二郎・ツレ 友花/清友)、平作内の段(文字改め 住=喜代之助・胡弓 吉蔵)。 ※文字太夫改め六代竹本住太夫襲名披露。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	娘お米(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(門造)、池添孫八(玉徳)。
△	一九四一	昭和16	10/3	ラジオ放送	(伊賀越道中双六) 沼津の段(文字改め 住=喜代之助・胡弓 勝之介)。 ※「朝日新聞(東京版)」では三味線は野沢喜代之助ではなく豊沢新左衛門。 ※「朝日新聞(大阪版)」「朝日新聞(東京版)」(10月3日)、『太棹』第130号に拠る。	
△	一九四一	昭和16	10/3	東京 国民新劇場	(伊賀越道中双六) 沼津(浪花=猿平)。 ※南北座秋季公演。 ※『太棹』第130号に拠る。	(不明)
	一九四一	昭和16	12/4~8	東京 新橋演舞場	伊賀越道中双六 沼津里の段(相生=吉五郎・ツレ 友衛門)、平作内より千本松の段(切 文字改め 住=喜代之助・胡弓 一郎右衛門)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(門造)、池添孫八(玉幸)。
△	一九四二	昭和17	4/9	ラジオ放送	(伊賀越道中双六) 沼津里の段(大隅=清二郎)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「朝日新聞(東京版)」(4月9日)、『浄瑠璃雑誌』第409号に拠る。	
△	一九四二	昭和17	4/10	東京浅草 並木倶楽部	(伊賀越道中双六) 岡崎(駒登=猿蔵)。 ※日本義太夫因会春季大会。 ※『太棹』第134号、『浄瑠璃月報』第42号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九四二	昭和17	5/2	東京浅草 並木倶楽部	(伊賀越)	大広間(大内記一朝見・政右衛門一巴・林左衛門一駒登・吾右衛門一卯=絃内)。 ※古曲発表会。 ※『浄瑠璃月報』第43・45号、『太棹』第134・135号に拠る。	
	一九四二	昭和17	7/16~20	東京 新橋演舞場	伊賀越道中双六 新関の段 竹藪の段 岡崎の段	新関の段(娘お袖一南部/伊達・奴助平一七五三・和田志津馬一つばめ=綱造・勝平/重造・友衛門・ツレ 団作/清広)、竹藪の段(津磨/隅若/呂賀=一郎衛門)、岡崎の段(中 宮/司=勝芳、次 呂=仙糸、切 古靱=清六)。	和田志津馬(光之助)、女房お谷(文五郎)、桜井林左衛門(紋太郎)、唐木政右衛門(玉蔵改め 玉造)、娘お袖(紋十郎)、山田幸兵衛(栄三)。
	一九四二	昭和17	12/11~15	東京 新橋演舞場	伊賀越道中双六	沼津里の段(切 古靱=清六・ツレ 友衛門・胡弓 錦糸)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(門造)、池添孫八(玉徳)。
	一九四三	昭和18	2/1~	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六	沼津里の段(切 古靱=清六・ツレ 友衛門・胡弓 清友)。 ※吉田文五郎、風邪のため途中で桐竹紋十郎に代わりそのまま休演、2月22・23日再出演(「朝日新聞(大阪版)」(2月21日)、『浄瑠璃雑誌』第417号に拠る)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(門造)、池添孫八(玉徳)。
	一九四三	昭和18	5/1~23	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六	新関の段(奴助平一七五三・娘お袖一源/文・和田志津馬一つばめ=綱造・友造/友平・八造・仙三郎)、竹藪の段(松島=友三郎/仙松)、岡崎の段(中 隅若=錦糸、次 呂=仙糸、切 古靱=清六)。 ※人形役割、山田幸兵衛を3日目より桐竹門造に代わり吉田玉助が代演。吉田栄三病気のため、唐木政右衛門を中日頃まで吉田玉市が代演、その後、吉田栄三が病気をおして菰まで勤め、千穉楽は段切りまで勤める(『松竹百年史』)。 ※千穉楽は「毎日新聞(大阪版)」(5月22日)、『浄瑠璃雑誌』第421号に拠る。	和田志津馬(光造)、女房お谷(文五郎)、桜田林左衛門(多三郎)、唐木政右衛門(栄三)、娘お袖(栄三郎)、山田幸兵衛(門造)。
△	一九四三	昭和18	5/7	東京浅草 並木倶楽部	(伊賀越道中双六)	沼津(紅葉=猿三郎・ツレ 美之助)。 ※大日本義太夫因会春季大会。 ※『太棹』第144号、『浄瑠璃月報』第67号に拠る。	
△	一九四三	昭和18	8/6~9	名古屋 御園座	(伊賀越道中双六)	沼津(古靱=清六・ツレ 友衛門)。 ※『御園座七十年史』、「中部日本新聞」(7月28日の記事、8月1・5・10・13・15日の広告)に拠る。	(不明)
	一九四三	昭和18	9/1~4	京都 南座	伊賀越道中双六	沼津里の段(切 古靱=清六・ツレ 友衛門・胡弓 綱延改め 錦糸)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(門造)、池添孫八(玉徳)。
	一九四三	昭和18	9/15~17	神戸 松竹劇場	伊賀越道中双六	沼津里の段(切 古靱=清六・ツレ 友衛門・胡弓 綱延改め 錦糸)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(門造)、池添孫八(玉徳)。
	一九四三	昭和18	10/1~	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六	唐木政右衛門邸の段(中 住=吉三郎//呂=仙糸、切 古靱=清六)、大広間の段(大内記一源/雛・政右衛門一源/雛・林左衛門一隅若・五右衛門一干駒・近習一つばめ・近習一松島=寛治郎)。	女房お谷(文五郎)、菅田大内記(玉助)、宇佐見五右衛門(門造)、桜田林左衛門(玉市)、唐木政右衛門(栄三)。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九四四	昭和19	7/1~	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六	沼津里の段（住＝重造・ツレ 友松／錦糸）、平作内の段（大隅＝清八・胡弓 寛弘）。	娘およね（紋十郎）、呉服屋重兵衛（光造）、親平作（玉助）、池添孫八（紋昇）。
△	一九四四	昭和19	8/22~24	神戸八千代劇場	（伊賀越道中双六）	沼津より平作内まで。 ※「神戸新聞」（8月19・24日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九四五	昭和20	2/3~25	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六	岡崎の段（前 住＝重造//相生＝吉五郎、後 大隅＝清八）。 ※『松竹百年史』は千鶴楽を2月23日とする。	和田志津馬（文枝）、女房お谷（亀松）、唐木政右衛門（玉助）、娘お袖（紋司）、山田幸兵衛（門造）。
△	一九四五	昭和20	3/11~16	神戸松竹劇場	（伊賀越道中双六）	沼津の段。 ※18日千鶴楽予定の処、17日神戸市街空襲により松竹劇場被災（『文楽興行記録昭和篇』）。 ※「神戸新聞」（3月11日）に拠る。	お米（文五郎）、十兵衛（光造）。
△	一九四五	昭和20	9/7~12	京都南座	（伊賀越道中双六）	沼津里の段（相生）、平作切腹の段（呂）。 ※『昭和の南座 資料編（上）』、『文楽人形の芸術』、「京都新聞」（8月27~28・30~31日・9月1・6~7・12~13日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九四五	昭和20	9/19~23	朝日会館	伊賀越道中双六	沼津里の段（切 前 住＝重造・ツレ 新三郎、後 相生＝吉五郎・胡弓 寛弘）。	娘お米（栄三郎）、呉服屋重兵衛（光造）、親平作（門造）、池添孫八（玉徳）。
△	一九四五	昭和20	11/22~27	神戸八千代劇場	（伊賀越道中双六）	沼津里の段。 ※「神戸新聞」（11月16・21日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九四七	昭和22	2/22	京都西洞院にしき	（伊賀越道中双六）	新関（織＝団六）、岡崎（中 織＝団六、切 古靱＝清六）。 ※古靱を聴く会第2次第4回。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
△	一九四七	昭和22	5/3~27	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六	沼津里の段（七五三＝寛治郎・ツレ 市治郎／錦糸）、平作内の段（切 大隅＝清八・胡弓 寛弘）。 ※千鶴楽は『松竹百年史』に拠る。	娘およね（栄三郎）、呉服屋重兵衛（亀松）、親平作（玉助）、池添孫八（玉徳）。
△	一九四七	昭和22	9/20~25	東京東京劇場	伊賀越道中双六	沼津里の段（住＝広助・ツレ 友衛門）、平作内の段（大隅＝清八・胡弓 錦糸）。	娘およね（紋十郎）、呉服屋重兵衛（亀松）、親平作（門造）、池添弥（マ）八（紋昇）。
△	一九四七	昭和22	12/6~25	四ツ橋文楽座	伊賀越道中双六	沼津里の段（松＝綱造・ツレ 重造）、平作内の段（住＝吉五郎//相生＝清二郎）、千本松平作腹切の段（相生＝清二郎・胡弓 寛弘//住＝吉五郎・胡弓 寛弘）。 ※三代竹本津太夫追善芸題。 ※千鶴楽は『松竹百年史』に拠る。	娘およね（文五郎）、呉服屋重兵衛（紋十郎）、親平作（門造）、池添孫八（紋昇）。
△	一九四七	昭和22	12/30	ラジオ放送	（伊賀越道中双六）	沼津（相生）。 ※「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞」（12月30日）に拠る。	
△	一九四八	昭和23	7/1~6	名古屋御園座	伊賀越道中双六	沼津里の段（切 大隅＝清八・ツレ 一郎右衛門）。	娘およね（紋司）、呉服屋重兵衛（紋十郎）、親平作（玉徳）、池添孫八（亀三）。
△	一九四八	昭和23	7/16	浜松江東劇場	（伊賀越道中双六）	沼津里より平作内まで（大隅＝清八）。 ※東海巡業（7月13~16日）の内。 ※「浜松民報」（7月21日の記事、7月16日の広告）に拠る。	（不明）

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一九四九	昭和24	3/3~30	地方公演 (九州) 〈組合〉	伊賀越道中双六	沼津の里より千本松原まで(前 呂=清二郎・ツレ 燕三、後 住=吉兵衛)。	お米(紋之助)、呉服屋重兵衛(紋昇)、平作(玉徳)、池添孫八(作十郎)。
△	一九四九	昭和24	4/22	瀬戸市 東海劇場 〈組合〉	(伊賀越)	沼津の段(前 綱、後 住)。 ※巡業(7日間)の内。 ※「東海民生新聞」(4月19日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九四九	昭和24	6/20~21	神戸 湊川神社儀式殿 七生館 〈組合〉	(伊賀越道中双六)	沼津(住、呂)。 ※「神戸新聞」(6月21日)に拠る。	(不明)
△	一九四九	昭和24	10/7~12	東京 帝国劇場 〈因会〉	伊賀越道中双六	沼津里の段(山城少掾=清六・ツレ+胡弓 毎日替り 清友/新三郎)。	お米(文五郎)、呉服屋重兵衛(光造)、親平作(玉助)、池添孫八(玉男)。
△	一九五〇	昭和25	2/11~12	兵庫 洲本劇場 〈組合〉	(伊賀越道中双六)	※淡路芸能文化協会主催、洲本市制10周年記念行事。 ※「神戸新聞(淡路版)」(2月10日)に拠る。	(不明)
△	一九五〇	昭和25	4/1~26	四ツ橋文楽座 〈因会〉	伊賀越道中双六	沼津里の段(切 山城少掾=弥七・ツレ 清友・胡弓 寛弘)。 ※光造改め二代吉田栄三襲名披露。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(光造改め 栄三)、親平作(玉助)、池添孫八(玉男)。
△	一九五〇	昭和25	5/12~23	地方公演 (北陸・東海・中京) 〈因会〉	伊賀越道中双六	沼津里の段(切 山城少掾=弥七・ツレ 清友・胡弓 寛弘)。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。 ※『文楽興行記録昭和篇』、『松竹百年史』、「新潟日報」(5月8日の広告)、『幕間』(昭和25年7月号)に拠る。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(光造改め 栄三)、親平作(玉助)、池添孫八(玉男)。
△	一九五〇	昭和25	8/20~27	名古屋 御園座 〈因会〉	伊賀越道中双六	沼津里の段(河内=広助・ツレ 友十郎)、平作内より千本松原の段まで(切 綱=弥七・胡弓 寛弘)。	娘およね(文五郎)、重兵衛(光造改め 栄三)、雲助平作(玉助)、池添孫八(玉男)。
△	一九五一	昭和26	6/1~6	東京 三越劇場 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津の里より 千本松まで	沼津の段(切 住=友衛門・ツレ 一郎右衛門)。 ※紋昇改め二代桐竹勘十郎襲名披露。	娘お米(紋十郎)、呉服屋十兵衛(勘十郎)、雲助平作(玉徳)、池添孫八(作十郎)。
△	一九五一	昭和26	7/11	ラジオ放送 〈三和会〉	(伊賀越道中)	沼津(住)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(7月11日)に拠る。	
△	一九五一	昭和26	9/8~27	四ツ橋文楽座 〈因会〉	伊賀越道中双六 新聞の段より 名残の出立の段 まで	新聞の段(奴助平一河内・娘お袖一越名・和田志津馬一長子/宮=豊助)、竹藪の段(十久=寛弘)、相合傘の段(中 織部/織の=新三郎、次 雛=広助)、師弟再会の段(津=寛治郎)、葎切の段(大隅=清八)、名残の出立の段(相生=松之輔)。 ※竹本大隅太夫休演のため代役を竹本綱太夫に予定したが、竹本相生太夫となる(『幕間』昭和26年10月号)。	和田志津馬(玉男)、女房お谷(亀松)、桜田林左衛門(兵次)、唐木政右衛門(玉助)、娘お袖(玉五郎)、山田幸兵衛(玉市)。
△	一九五一	昭和26	9/21	京都 宮津劇場 〈三和会〉	伊賀越道中双六	沼津の段(住=勝太郎・ツレ 団作・胡弓 勝平)。 ※丹後・山陰・山陽・九州巡業の内。9月23日鳥取・大黒座で同公演あり(「日本海新聞」(9月22日の広告)、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る)。	およね(紋之助)、重兵衛(勘十郎)、平作(玉徳)、孫八(紋之丞)。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九五二	昭和27	2/13	ラジオ放送 〈三和会〉	(伊賀越道中双六) 岡崎の段(若=綱造)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(2月13日)に拠る。	
	一九五二	昭和27	5/2~21	四ツ橋文楽座 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段(切 山城少掾=藤蔵・ツレ 錦糸・胡弓 寛弘)。 ※10日まで豊竹山城少掾休演のため、竹本相生太夫が代演(『幕間』昭和27年6月号、『文楽因会三和会興行記録』に拠る)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(亀松)、親平作(玉助)、池添孫八(兵次)。
△	一九五二	昭和27	5/14	ラジオ放送 〈因会〉	(伊賀越道中双六) 沼津の段(大隅)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(5月14日)に拠る。	
	一九五二	昭和27	8/1~5	京都 南座 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段(切 山城少掾=藤蔵・ツレ 友十郎・胡弓 寛弘)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉助)、池添孫八(玉男)。
	一九五二	昭和27	8/12~14	名古屋 御園座 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段(切 山城少掾=清二郎改め 藤蔵・ツレ 友十郎・胡弓 寛弘)。	娘およね(文五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(玉助)、池添孫八(玉五郎)。
△	一九五二	昭和27	8/18	中津川 旭映画劇場 〈因会〉	(伊賀越道中双六) 沼津の段。 ※『松竹百年史』に拠る。	
	一九五二	昭和27	11/15~20	三越劇場 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津里より千本松原の段(前 つばめ=市治郎・ツレ 一郎右衛門、切 住=勝太郎・胡弓 勝平)。	娘およね(紋十郎)、呉服屋重兵衛(勘十郎)、親平作(辰五郎)、池添孫八(作十郎)。
	一九五二	昭和27	12/9~14	東京 三越劇場 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津里より千本松原まで(前 つばめ=市治郎・ツレ 団作・一郎右衛門、切 住=勝太郎・胡弓 勝平)。	娘お米(紋十郎)、呉服屋重兵衛(勘十郎)、親平作(辰五郎)、池添孫八(作十郎)。
△	一九五三	昭和28	1/11	広島 広島市児童文化 会館 〈三和会〉	(伊賀越道中双六) 沼津里の段。 ※「中国新聞」(1月10日の記事、1月8・10日の広告)に拠る。	(不明)
	一九五三	昭和28	1/29~30	名古屋 松坂屋ホール 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津里より千本松まで(切 住=勝太郎・ツレ 一郎右衛門・胡弓 勝平)。	お米(紋十郎)、呉服屋重兵衛(勘十郎)、平作(辰五郎)、孫八(作十郎)。
	一九五三	昭和28	3/17~19	京都 宮川町歌舞練場 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津里より千本松まで(切 住=勝太郎・ツレ 一郎右衛門・胡弓 勝平)。	お米(紋十郎)、重兵衛(勘十郎)、平作(辰五郎)、孫八(紋市)。
	一九五三	昭和28	4	地方公演 (中国・九州) 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段(綱=弥七・ツレ 新三郎)。	娘お米(文五郎)、呉服屋重兵衛(亀松)、親平作(玉助)、池添孫八(紋太郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五三	昭和28	5/2~24	四ツ橋文楽座 〈因会〉	伊賀越道中双六 通し狂言	和田行家横死の段（口 弘=寛弘、奥 静=清友）、政右衛門屋敷婚礼の段（切 相生=松之輔）、大広間御前試合の段（大内記一河内・唐木政右衛門／桜田林左衛門一役毎日替 宮／長子・宇佐美五右衛門一静・近習一相次・近習一弘=広助）、沼津里より平作内の段（津=寛治郎・ツレ 錦糸）、千本松原平作腹切りの段（親平作一綱・呉服屋重兵衛一松・池添孫八一相生・およね一南部=弥七・胡弓 寛弘）、富士川新聞所の段（奴助平一宮／長子・お袖一織部・和田志津馬一十九=豊助・ツレ 友十郎・ツレ 藤之助）、竹藪の段（弘=清好）、岡崎相合傘の段（口 長子／宮=新三郎、中 南部=清八）、師弟再会より貰切りの段（切 綱=弥七）、名残りの出立の段（松=清六）、伏見船宿北国屋の段（雛=八造）、伊賀上野仇討の段（政右衛門一河内・志津馬一織部・林左衛門一十九・股五郎一相次・付人一弘=喜八郎）。 ※三代竹本津太夫追善芸題「沼津里より平作内の段」。 ※千種楽は「毎日新聞（大阪版）」（5月23日）に拠る。 ※吉田兵次休演、桜田林左衛門を吉田玉男が代演した日あり（『舞台展望』昭和28年6月号）。 ※5月17日「沼津里より平作内の段」ラジオ放送（「朝日新聞（大阪）」「読売新聞」（5月17日）に拠る）。	和田志津馬（玉男）、娘およね・傾城瀬川（玉五郎）、沢井股五郎（光次）、女房お谷（栄三）、菅田大内記（栄三）、宇佐美五右衛門（淳造）、桜田林左衛門（兵次）、唐木政右衛門（玉助）、呉服屋重兵衛（亀松）、親平作（玉市）、池添孫八（玉昇）、娘お袖（文雀）、山田幸兵衛（玉市）。
△	一九五三	昭和28	5/17	加古川 兵庫県立加古川 東高等学校講堂 〈三和会〉	（伊賀越道中双六） 沼津より千本松原まで。 ※文楽観賞会。 ※「神戸新聞（東播版）」（5月16日）に拠る。	（不明）
	一九五三	昭和28	6/1~7	四ツ橋文楽座 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大顔合せ特別公演。	娘およね（前=玉五郎、後=文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉助）、池添孫八（玉昇）。
	一九五三	昭和28	6/10~15	東京 新橋演舞場 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段（相生=松之輔・ツレ 友十郎）、平作内より千本松原の段まで（親平作一綱・呉服屋重兵衛一松・娘およね一雛・池添孫八一河内=弥七・胡弓 寛弘）。	娘およね（玉五郎）、呉服屋重兵衛（亀松）、親平作（玉市）、池添孫八（文昇）。
	一九五三	昭和28	9/26	四ツ橋文楽座 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里より千本松原の段まで。 ※人形浄瑠璃素義会公演。	娘およね（玉五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉市）、池添孫八（兵次）。
△	一九五三	昭和28	6/17	ラジオ放送 〈因会〉	（伊賀越道中双六） 行家横死の段（静=清友）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞」（6月17日）に拠る。	
△	一九五三	昭和28	6/24	ラジオ放送 〈因会〉	（伊賀越道中双六） 政右衛門屋敷の段（相生）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（6月24日）に拠る。	
	一九五四	昭和29	1/25~27	名古屋 御園座 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段（山城少掾=藤蔵・ツレ 清友）、平作内より千本松原の段まで（綱=弥七・胡弓 清好）。	娘およね（文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉助）、池添孫八（淳造）。
	一九五四	昭和29	6/6~10	東京 新橋演舞場 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段（綱=弥七・ツレ 錦糸）、平作内より千本松原の段まで（切 山城少掾=藤蔵・胡弓 錦糸）。	娘およね（前=玉五郎、後=文五郎）、呉服屋十兵衛（栄三）、親平作（玉助）、池添孫八（兵次）。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九五四	昭和29	6/8~13	東京 三越劇場 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津里より千本松原まで（前 つばめ=喜左衛門・ツレ 八助、切 住=勝太郎）。	お米（紋之助）、呉服屋重兵衛（勘十郎）、親平作（辰五郎）、池添孫八（紋七/紋四郎）。
	一九五四	昭和29	6/16	ラジオ放送 〈三和会〉	（伊賀越道中双六） 沼津里の段（つばめ=喜左衛門）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（6月16日）に拠る。	
	一九五四	昭和29	10/1	岡山 葦川会館 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津里より千本松原まで（切 住=勝太郎・ツレ 団作）。 ※中国巡業の内。	およね（紋之助）、重兵衛（勘十郎）、平作（辰五郎）、池添孫八（紋七）。
	一九五四	昭和29	11/2~23	四ツ橋文楽座 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段（切 綱=弥七・ツレ 錦糸）、平作内より千本松原まで（切 山城少掾=藤蔵・胡弓 寛弘）。 ※千種楽は『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	娘およね（前=玉五郎、後=文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉助）、池添弥（マ）八（兵次）。
	一九五四	昭和29	12/17~19	神戸 八千代劇場 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段（綱=弥七・ツレ 寛弘）、平作内より千本松原まで（切 山城少掾=藤蔵・胡弓 寛弘）。	娘およね（前=玉五郎、後=文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉助）、池添孫八（兵次）。
	一九五五	昭和30	1/22~24	名古屋 御園座 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段（切 綱=弥七・ツレ 錦糸）、平作内より千本松原の段まで（切 山城少掾=藤蔵・胡弓 寛弘）。	娘およね（前=玉五郎、後=文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉助）、池添孫八（兵次）。
△	一九五五	昭和30	3/20	ラジオ放送 〈因会〉	（伊賀越道中双六） 沼津の段（山城少掾=藤蔵・ツレ 錦糸）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（3月20日）に拠る。	
	一九五五	昭和30	4/4~6	名古屋 新歌舞伎座 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津の里の段より千本松原の段まで。	（不明）
△	一九五五	昭和30	4/24	津 曙座 〈三和会〉	（伊賀越道中双六） 平作住家より松原まで。 ※地方公演（東海・関東・東北）の内。4月25日伊勢市・伊勢会館で同公演あり。 ※「中部日本新聞（三重版）」（4月23日の広告）に拠る。	（不明）
	一九五五	昭和30	6/21	新潟 新潟劇場 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津里より千本松（若=勝太郎・ツレ 勝平）。 ※関東・東北巡業の内。	およね（紋之助）、重兵衛（勘十郎）、平作（辰五郎）、池添孫八（紋四郎）。
	一九五五	昭和30	9/1~	地方公演 （東海・他） 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段（綱=弥七・ツレ 錦糸）、平作内より千本松原まで（山城少掾=藤蔵・胡弓 団二郎）。	お米（前=玉五郎、後=文五郎）、呉服屋重兵衛（亀松）、親平作（玉助）、池添孫八（玉男）。
	一九五五	昭和30	9/15~18	神戸 仏教会館 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津里より千本松まで（前 つばめ=喜左衛門・ツレ 勝平、切 住=勝太郎）。	およね（紋之助）、重兵衛（紋十郎）、平作（辰五郎）、孫八（作十郎）。
	一九五五	昭和30	10/15	福岡 大博劇場 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津里より千本松まで（前 つばめ=燕三・ツレ 勝平、切 住=勝太郎）。 ※九州巡業（9月27日~）の内。	お米（紋之助）、重兵衛（勘十郎）、平作（辰五郎）、池添孫八（作十郎）。
	一九五五	昭和30	11/6	東京 新橋演舞場 〈合同〉	伊賀越道中双六 沼津里の段より千本松原の段（前 綱=弥七、後 山城少掾=藤蔵）。 ※芸術祭文楽合同公演。	娘お米（前=玉五郎、後=文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉市）、池添孫八（亀松）。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九五五	昭和30	12/24	徳島日和佐町 弁天座 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津の段（住＝勝太郎）。	お米（紋十郎）、重兵衛（勘十郎）、平作（辰五郎）、池添孫八（作十郎）。
△	一九五五	昭和30	12/25～26	徳島市 歌舞伎座 〈三和会〉	（伊賀越道中双六） 沼津里より千本松原の段。 ※「徳島新聞」（12月20日の広告）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（不明）
△	一九五六	昭和31	1/5	ラジオ放送 〈因会〉	（伊賀越道中双六） 岡崎（綱＝弥七）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（1月5日）に拠る。	
	一九五六	昭和31	2/20～25	京都 祇園甲部歌舞練場 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段（綱＝弥七・ツレ 団六）、平作内より千本松原まで（切 山城少掾＝藤蔵・胡弓 清好）。	娘およね（前＝玉五郎、後＝文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、雲助平作（玉助）、池添孫八（兵次）。
	一九五六	昭和31	2/25	姫路 姫路市公会堂 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津里より千本松まで（住＝勝太郎・ツレ 団作）。	お米（紋之助）、重兵衛（勘十郎）、平作（辰五郎）、孫八（紋二郎）。
	一九五六	昭和31	4/25	山中温泉 温泉会館 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段（口 長子＝猿糸・ツレ 藤之助、奥 雛＝広助・胡弓 藤之助）。 ※豊沢仙八披露浄瑠璃大会。	（不明）
△	一九五六	昭和31	4/28	ラジオ放送 〈因会〉	（伊賀越道中双六） 沼津の段（相生＝喜左衛門・松之輔）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（4月28日）に拠る。	
△	一九五六	昭和31	5/12	ラジオ放送 〈因会〉	（伊賀越道中双六） 沼津の段（雛＝八造）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（5月12日）に拠る。	
△	一九五六	昭和31	6/28	ラジオ放送 〈因会〉	（伊賀越道中双六） 沼津（津）。 ※「朝日新聞（大阪版）」（6月28日）に拠る。	
	一九五六	昭和31	7/5～29	道頓堀文楽座 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段（相生＝松之輔・ツレ 徳太郎）、平作内より千本松原まで（綱＝弥七・胡弓 団二郎）。	娘お米（前＝玉五郎、後＝文五郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉助）、池添孫八（光次）。
	一九五六	昭和31	8/19	貝塚市公会堂 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津の段（若＝市治郎・ツレ 勝平）。	お米（紋十郎）、重兵衛（勘十郎）、平作（辰五郎）、池添孫八（作十郎）。
	一九五六	昭和31	10/29	東京 歌舞伎座 〈合同〉	伊賀越道中双六 沼津（住＝勝太郎・ツレ 勝平）。 ※第2回国家指定芸能特別鑑賞会。	
	一九五七	昭和32	5/27	神戸 神戸国際会館 〈合同〉	伊賀越道中双六 沼津（住＝喜左衛門・勝平）。 ※国家指定芸能特別鑑賞会第1回神戸公演。	
	一九五七	昭和32	6/11～16	東京 三越劇場 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津里より千本松まで（前 源＝叶太郎・ツレ 団作、切 住＝勝太郎）。	お米（紋之助）、重兵衛（勘十郎）、平作（辰五郎）、池添孫八（一日交替 紋 寿／紋四郎）。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九五七	昭和32	6/20~23	名古屋 毎日ホール 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津里より千本松まで（前 古住=燕三・ツレ 団作、切 住=勝太郎）。 ※初代桐竹紋十郎五十回忌追善。野澤喜左衛門毎日演劇賞受賞記念。	娘お米（紋之助）、重兵衛（勘十郎）、 親平作（辰五郎）、池添孫八（紋四郎）。
△	一九五七	昭和32	7/1	北海道 三井砂川中央会館 〈三和会〉	（伊賀越道中双六） 沼津里より千本松まで。 ※地方公演（北海道・東北）の内。 ※「砂川春秋」（6月15日）に拠る。	（不明）
	一九五八	昭和33	3/1~23	道頓堀文楽座 〈合同〉	伊賀越道中双六 沼津里の段（津=寛治・ツレ 八造//つばめ=喜左衛門・ツレ 燕三）、平作内の段（綱=弥七）、千本松原平作腹切の段（切 山城少掾=藤蔵・胡弓 藤二郎）。 ※吉田難波掾17~18日休演（『文楽興行記録昭和篇』）。	娘およね（前=玉五郎、後=文五郎事 難波掾）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉助）、池添孫八（紋之助）。
	一九五八	昭和33	6/25~29	東京 新橋演舞場 〈合同〉	伊賀越道中双六 沼津里の段（つばめ=喜左衛門・ツレ 団六//津=寛治・ツレ 団六）、平作内の段（綱=弥七）、千本松原平作腹切の段（相生=松之輔・胡弓 団二郎）。	娘およね（沼津里・千本松原=玉五郎、 平作内=難波掾）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉助）、池添孫八（作十郎）。
	一九五八	昭和33	7/10~17	京都 南座 〈合同〉	伊賀越道中双六 沼津里より平作内の段（綱=弥七・ツレ 団六）、千本松原平作腹切の段（切 山城少掾=藤蔵・胡弓 藤二郎）。	娘およね（前・後=玉五郎、中=文五郎 事 難波掾）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉助）、池添孫八（作十郎）。
△	一九五八	昭和33	8/9	ラジオ放送 〈因会〉	（伊賀越道中双六） 沼津 千本松の場（山城少掾=藤蔵）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（8月9日）に拠る。	
△	一九五八	昭和33	8/19	ラジオ放送 〈三和会〉	（伊賀越道中双六） 沼津（住=勝太郎・勝平）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（8月19日）に拠る。	
△	一九五八	昭和33	8/26	ラジオ放送 〈三和会〉	（伊賀越道中双六） （住）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（8月26日）に拠る。	
	一九五九	昭和34	8/6~9	京都 南座 〈合同〉	伊賀越道中双六 沼津里の段（役毎日替 津=寛治・ツレ 錦糸//つばめ=喜左衛門・ツレ 燕三）、平作内の段（役毎日替 つばめ=喜左衛門//津=寛治）、千本松原平作腹切の段（相生=松之輔・胡弓 清治）。	娘およね（前・後=玉五郎、中=文五郎 事 難波掾）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉助）、池添孫八（勘十郎）。
△	一九五九	昭和34	9/6・13	ラジオ放送 〈因会〉	（伊賀越道中双六） 岡崎（綱=弥七）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（9月6・13日）に拠る。	
	一九五九	昭和34	11/13~16	東京 新橋演舞場 〈合同〉	伊賀越道中双六 沼津里の段（津=寛治・ツレ 吉三郎）、平作内の段（土佐=藤蔵）、千本松原平作腹切りの段（相生=松之輔・胡弓 藤二郎）。	娘およね（前・後=玉五郎、中=難波 掾）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉市）、池添孫八（東太郎）。
	一九六〇	昭和35	4/24~5/15	道頓堀文楽座 〈合同〉	伊賀越道中双六 沼津里の段より平作腹切の段まで（切 綱=弥七・ツレ 団六・胡弓 団二郎）。 ※5月15日「沼津里の段」テレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（5月15日）に拠る）。	娘およね（前・後=紋十郎、中=文五郎 事 難波掾）、呉服屋重兵衛（栄三）、親平作（玉助）、池添孫八（清十郎）。
	一九六〇	昭和35	5/23	東京 美術倶楽部 〈合同〉	伊賀越道中双六 千本松原の段（若=重造）。 ※故竹本綾之助・故乃村乃菊十三回忌追福会。	

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九六〇	昭和35	12/20~23	東京 新橋演舞場 〈合同〉	伊賀越道中双六 新関の段（口 弘＝藤二郎、奴助平一静改め 大隅・娘お袖一南部・和田志津馬一文字＝重造・燕三・勝平・市治郎）、竹藪の段（伊達路＝藤二郎）、岡崎相合傘の段（口 十九＝叶太郎、つばめ＝喜左衛門）、師弟再会の段（津＝寛治）、苺切りの段（綱＝弥七）、名残りの出立の段（若＝勝太郎）。	和田志津馬（勘十郎）、女房お谷（紋十郎）、桜田林左衛門（玉昇）、唐木政右衛門（玉助）、娘お袖（清十郎）、山田幸兵衛（辰五郎）。
△	一九六一	昭和36	3/16	ラジオ放送 〈因会〉	（伊賀越道中双六） 沼津の段（綱＝弥七）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（3月16日）に拠る。	
	一九六一	昭和36	9/22	松坂会館 〈因会〉	伊賀越 沼津の段。 ※有楽会素義会に人形参加。	娘お米（玉五郎）、呉服屋重兵衛（東太郎）、親平作（玉助）、池添孫八（文昇）。
	一九六二	昭和37	1/26~2/4	道頓堀文楽座 〈因会〉	伊賀越道中双六 沼津里の段より平作内の段まで（切 相生＝重造・ツレ 団六）、千本松原平作腹切の段（重兵衛一津・娘およね一南部・池添孫八一織の・親平作一相生＝寛治・胡弓 清治）。	娘およね（玉男）、呉服屋重兵衛（栄三）、雲助平作（玉助）、池添孫八（文昇）。
	一九六二	昭和37	7/10	足利市 月見ヶ丘学園 〈三和会〉	伊賀越道中双六 沼津里より千本松原まで（切 つばめ＝喜左衛門）。	お米（紋十郎）、重兵衛（勘十郎）、平作（辰五郎）、池添孫八（紋寿）。
	一九六二	昭和37	9/24	東京 本 牧 亭 〈三和会〉	伊賀越道中双六 岡崎（若＝重造）。 ※豊竹若大夫会。	
△	一九六四	昭和39	1/7	愛知 小牧大口町公民館	（伊賀越道中双六） 沼津。 ※『吉田文雀ノート』に拠る。	お米（文雀）。
	一九六四	昭和39	5/14~16	京都 祇園会館	伊賀越道中双六 沼津里の段（相生＝重造・ツレ 団六）、平作内より千本松原の段（若＝勝太郎・胡弓 勝之輔）。	娘およね（紋十郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、雲助平作（玉助）、池添孫八（文昇）。
	一九六四	昭和39	5/23~24	名古屋 愛知文化講堂	伊賀越道中双六 沼津里の段（相生＝重造・ツレ 団二郎）、平作内より千本松原の段（若＝勝太郎・胡弓 勝之輔）。	娘およね（紋十郎）、呉服屋重兵衛（栄三）、雲助平作（玉助）、池添孫八（文昇）。
△	一九六四	昭和39	9/17	ラジオ放送	（伊賀越道中双六） 沼津の段（文字＝喜左衛門・勝平）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（9月17日）に拠る。	
	一九六四	昭和39	10/31~ 11/18	朝 日 座	伊賀越道中双六 沼津里の段（春子＝松之輔・ツレ 勝平）、平作内より千本松原の段（相生＝重造・胡弓 勝之輔）。	娘およね（亀松）、呉服屋重兵衛（玉男）、雲助平作（玉助）、池添孫八（辰五郎）。
	一九六五	昭和40	1/8~17	東京 三 越 劇 場	伊賀越道中双六 沼津里の段（相生＝重造・ツレ 団六）、平作内より千本松原の段（津＝寛治・胡弓 清治）。	娘およね（亀松）、呉服屋重兵衛（玉男）、雲助平作（玉助）、池添孫八（辰五郎）。
△	一九六五	昭和40	5/18カ	東京 第一生命ホール	（伊賀越道中双六） 沼津（綱＝弥七）。 ※綱弥会。沼津の段に関する芸談と沼津の演奏。 ※「毎日新聞（大阪版）」（5月26日）に拠る。	
△	一九六五	昭和40	12/12	ラジオ放送	（伊賀越道中双六） 沼津の段（後 つばめ）。 ※「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（12月12日）に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六六	昭和41	6/9~23	地方公演 (東北・甲信越・北陸)	伊賀越道中双六	沼津里の段(大隅=徳太郎・ツレ 勝之輔)、平作内より千本松原の段(十九=弥七)。	娘お米(玉五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、雲助平作(勘十郎)、池添孫八(玉幸)。
一九六七	昭和42	3/5~19	東京国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六 通し狂言	大序 鶴が岡の段(若子=団六)、和田行家屋敷の段(松香=清治、大隅=叶太郎)、郡山宮居の段(相子=勝平、十九=錦糸)、唐木政右衛門屋敷の段(小春=団二郎、咲=燕三、越路=喜左衛門)、誉田家大広間の段(織=徳太郎)、沼津の段(相生=重造・ツレ 団二郎、綱=弥七・胡弓 清治)、富士川新関の段 引抜き 団子売(助平=文字・志津馬一咲・お袖=小松=吉兵衛・徳太郎・勝平・清治・勝之輔)、竹藪の段(伊達路=団六)、岡崎の段(若子=叶太郎、南部=錦糸、津=寛治、若=勝太郎)、伏見北国屋の段(春子=松之輔)、伊賀上野仇討の段(政右衛門=十九・志津馬=小松・林左衛門=伊達路・股五郎=松香・付人=小春=燕三)。 ※(6) 鶴沢寛治=補曲(「大序 鶴が岡の段」)。野沢松之輔=補曲(「和田行家屋敷の段」)。 ※竹本綱太夫休演のため、「沼津の段」を竹本文字太夫が代演。豊竹若太夫休演のため、「岡崎の段」を竹本春子太夫が代演。	和田志津馬(清十郎)、傾城瀬川・娘お米(簗助)、沢井股五郎(作十郎)、お谷(紋十郎)、誉田大内記(勘十郎)、宇佐見五右衛門(辰五郎)、桜田林左衛門(玉昇)、唐木政右衛門(栄三)、呉服屋重兵衛(玉男)、親平作(亀松)、池添孫八(文昇)、娘お袖(文雀)、山田幸兵衛(勘十郎)。
△	一九六七	昭和42	7/20	ラジオ放送	(伊賀越道中双六) 政右衛門屋敷の段(越路=喜左衛門)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」「(7月20日)に拠る。	
△	一九六九	昭和44	10/21	兵庫 尼崎市文化会館	(伊賀越道中双六) 沼津の段。 ※文楽人形浄瑠璃大会。素義会に人形参加。	娘およね(紋十郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(辰五郎)、池添孫八(文昇)。
	一九六九	昭和44	11/14~16	京都 弥栄会館	伊賀越道中双六 沼津の段(越路=喜左衛門・ツレ 錦糸・胡弓 勝之輔)。	娘およね(玉五郎)、呉服屋重兵衛(栄三)、親平作(勘十郎)、池添孫八(紋弥)。
△	一九七〇	昭和45	1/3	ラジオ放送	(伊賀越道中双六) 沼津の段(越路)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」「(1月3日)に拠る。	
	一九七二	昭和47	4/15~27	朝日座	伊賀越道中双六 大序 鶴が岡の段(松香=団六)、和田行家屋敷の段(英=清治、十九=叶太郎)、沼津の段(越路=喜左衛門・ツレ+胡弓 勝之輔)、伏見船宿北国屋の段(南部=松之輔)、伊賀上野仇討の段(相生=燕三)。 ※野沢松之輔=作曲(「伏見船宿北国屋の段」)。	和田志津馬(清十郎)、傾城瀬川・娘お米(玉男)、沢井股五郎(文昇)、娘お谷(小玉)、桜田林左衛門(作十郎)、唐木政右衛門(玉昇)、呉服屋十兵衛(栄三)、親平作(亀松)、池添孫八(紋弥)。
	一九七三	昭和48	10/14	東京国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六 沼津の段(文字=燕三・胡弓 団二郎)。 ※「上方の芸・江戸の芸」(第21回邦楽公演)。	
	一九七四	昭和49	2/3~17	東京国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六 沼津の段(切 津=寛治・ツレ 団二郎・胡弓 寛平)。	娘お米(亀松)、呉服屋十兵衛(玉男)、雲助平作(勘十郎)、池添孫八(玉松)。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九七四	昭和49	2/28~3/24	地方公演 (近畿・東海・関東)	伊賀越道中双六	沼津の段(文字=錦糸・ツレ 勝之輔、津=勝太郎・胡弓 勝之輔)。	娘お米(文雀)、呉服屋十兵衛(勘十郎)、親平作(亀松)、池添孫八(玉幸)。
一九七四	昭和49	5/22~6/8	地方公演 (近畿・中国・九州)	伊賀越道中双六	沼津の段(伊達路=道八・ツレ 勝司、十九=吉兵衛)。	娘お米(亀松)、呉服屋十兵衛(簗助)、親平作(勘十郎)、池添孫八(紋寿)。
一九七四	昭和49	6/9~7/10	地方公演 (近畿・北陸・信越・関東・東海)	伊賀越道中双六	沼津の段(伊達路=道八・ツレ 勝司、十九=吉兵衛)。	娘お米(亀松)、呉服屋十兵衛(簗助)、親平作(勘十郎)、池添孫八(紋寿)。
一九七五	昭和50	7/13~27	朝日座	伊賀越道中双六	沼津の段(十九=錦糸・ツレ 寛平、越路=喜左衛門・胡弓 勝司)。	娘お米(清十郎)、呉服屋十兵衛(玉男)、親平作(勘十郎)、池添孫八(玉松)。
一九七五	昭和50	9/6	柏原市市民会館	伊賀越道中双六	沼津の段(十九=錦糸・ツレ 寛平、越路=喜左衛門・胡弓 寛平)。 ※大阪府民劇場。	娘お米(清十郎)、呉服屋十兵衛(玉男)、親平作(勘十郎)、池添孫八(文昇)。
		9/7	池田市民文化会館			
一九七七	昭和52	1/29	東京国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六	沼津の段(文字=燕三・胡弓 燕太郎)。 ※邦楽鑑賞会「義太夫の会」(第26回邦楽公演)。	
一九七七	昭和52	2/5~19	東京国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六	藤川新関の段 引抜き 寿柱立万歳(助平一咲・志津馬一英・お袖一津駒・ツレ 三輪=叶太郎・団二郎・弥三郎・燕太郎)、竹藪の段(相生=勝司)、岡崎の段(中 貴=清介、次 小松=勝平、切 津=吉兵衛)。 ※鶴沢叶太郎休演のため、「藤川新関の段」のシンを竹沢団二郎が、二枚目を鶴沢清介が代演。	和田志津馬(清十郎)、妻お谷(亀松)、桜田林左衛門(玉女)、唐木政右衛門(玉男)、娘お袖(一暢)、山田幸兵衛(勘十郎)。
一九七七	昭和52	12/12~21	東京国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六	【Aプロ】沼津の段(文字=燕三・ツレ 松也・胡弓 燕太郎)。	娘お米(文雀)、呉服屋十兵衛(玉男)、雲助平作(作十郎)、池添孫八(玉松)。
					【Bプロ】沼津の段(織=錦糸・ツレ 浅造・胡弓 八介)。 ※第9回文楽鑑賞教室(高校生のための文楽教室)。	娘お米(簗助)、呉服屋十兵衛(清十郎)、雲助平作(勘十郎)、池添孫八(玉幸)。
一九七九	昭和54	10/13~29	朝日座	伊賀越道中双六	藤川新関の段 引抜き 団子売(助平一咲・志津馬一英・お袖一津駒・ツレ 文字栄・文字登・津梅=勝司・弥三郎・浅造・八介・錦弥・燕二郎)、竹藪の段(相生=清友)、岡崎の段(松香=清介、南部=燕三、越路=清治、十九=錦糸)。	和田志津馬(簗助)、妻お谷(清十郎)、桜田林左衛門(勘寿)、唐木政右衛門(玉男)、娘お袖(一暢)、山田幸兵衛(勘十郎)。
一九七九	昭和54	11/2~5	京都府立文化芸術会館	伊賀越道中双六	沼津の段(文字=道八・ツレ 清介、越路=清治・胡弓 清介)。	娘お米(簗助)、呉服屋十兵衛(玉男)、親平作(勘十郎)、池添孫八(玉幸)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九八〇	昭和55	3/7~25	地方公演 (関東・東海・ 近畿・中国・九州)	伊賀越道中双六	沼津の段(十九=勝平・ツレ 吉之助、津=吉兵衛・胡弓 吉之助)。	娘お米(簗助)、呉服屋十兵衛(玉男)、親平作(勘十郎)、池添孫八(玉幸)。	
一九八〇	昭和55	10/10~26	朝日座	伊賀越道中双六	沼津の段(伊達路=叶太郎・ツレ 錦弥、越路=清治・胡弓 八介)。	妹お米(清十郎)、呉服屋十兵衛(玉男)、親平作(勘十郎)、池添孫八(小玉)。	
△	一九八一	昭和56	12/25	山崎光の卿清閑の座	伊賀越道中双六	沼津(文字=勝平・ツレ+胡弓 勝司)。 ※『七世竹本住大夫舞台年譜』に拠る。	
△	一九八二	昭和57	12/5	横浜 横浜市教育文化 ホールカ	伊賀越道中双六	沼津の段(越路=清治・ツレ+胡弓 清介)。 ※横浜文楽同好会5周年記念「義太夫名人会」。素浄瑠璃。 ※『横浜文楽同好会会報』第9号に拠る。	
	一九八二	昭和57	12/7~17	東京 国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六	【Aプロ】沼津の段(文字=勝平・ツレ 八介・胡弓 燕二郎)。 【Bプロ】沼津の段(織=団六・ツレ 吉之助・胡弓 団治)。 ※第14回文楽鑑賞教室。	娘お米(文雀)、呉服屋十兵衛(玉男)、雲助平作(作十郎)、池添孫八(玉也)。 娘お米(簗助)、呉服屋十兵衛(清十郎)、雲助平作(勘十郎)、池添孫八(玉輝)。
△	一九八三	昭和58	12/4	横浜	(伊賀越道中双六)	十兵衛と平作。 ※横浜文楽同好会主催特別公演「文楽人形の美を探る」。出演は、吉田玉男、桐竹勘十郎、竹本織太夫、鶴沢清治。 ※『横浜文楽同好会会報』第30号に拠る。	
	一九八四	昭和59	3/11~27	地方公演 (近畿・九州・ 中国・東海・関東)	伊賀越道中双六	沼津の段(前 伊達路=団六・ツレ 燕二郎、切 文字=勝平)。	娘お米(一暢)、呉服屋十兵衛(玉男)、親平作(作十郎)、池添孫八(勘寿)。
	一九八四	昭和59	11/9~25	国立文楽劇場	伊賀越道中双六	鶴が岡の段(股五郎一松香・志津馬一英・丹右衛門一緑・瀬川一津駒・定七・津国・実内一津梅・番人一織美/文字久=清介)、和田行家屋敷の段(伊達路=清友)、円覚寺の段(中 相生=浅造、切 文字=錦糸)、沼津の段(切 津=団七・ツレ 燕二郎・胡弓 清二郎)、伏見船宿北国屋の段(十九=富助)。 ※六代鶴沢寛治=補曲(「鶴が岡の段」)。野沢松之輔=作曲(「和田行家屋敷の段」「伏見船宿北国屋の段」)。四代野沢錦糸=作曲(「円覚寺の段」)。 ※竹本緑太夫休演のため、「鶴が岡の段」の丹右衛門を初日~17日まで竹本文字久太夫が、18日~千種楽まで竹本織美太夫が代演。	和田志津馬(簗助)、佐々木丹右衛門(文昇)、傾城瀬川・娘お米(文雀)、沢井股五郎(文吾)、桜田林左衛門(玉幸)、唐木政右衛門(文吾)、呉服屋十兵衛(玉男)、親平作(勘十郎)、池添孫八(一暢)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九八六	昭和61	5/10~25	東京 国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六 通し狂言	和田行家屋敷の段（口 貴=弥三郎、奥 小松=勝平）、郡山宮居の段（口 三輪=浅造、奥 呂=富助）、唐木政右衛門屋敷の段（口 津国=八介、中 嶋=清介、切 越路=清治）、菅田家大広間の段（十九=清友）、沼津の段（切 住=燕三・ツレ 燕二郎・胡弓 清吾）、富士川新関の段 引抜き 団子売（助平=伊達路・志津馬=相生・お袖=津駒・ツレ 文字久・南都・文字栄=団六・錦弥・団治・清二郎・清吾）、竹藪の段（松香=燕二郎）、岡崎の段（口 緑=団治、中 咲=叶太郎、切 津=団七）、伏見北国屋の段（織=錦糸）、伊賀上野仇討の段（政右衛門一英・志津馬=千歳・林左衛門=津梅・股五郎=文字久・付人=南寿=錦弥）。 ※野沢松之輔=作曲（「和田行家屋敷の段」「伏見北国屋の段」「伊賀上野仇討の段」）。 ※竹本緑太夫休演のため、「岡崎の段・口」を竹本津駒太夫が代演。鶴沢叶太郎休演のため、「岡崎の段・中」を鶴沢清介が代演。竹本津太夫休演のため、「岡崎の段・切」前半を豊竹十九太夫、後半を竹本伊達路太夫が代演。	和田志津馬（一暢）、娘お米・傾城瀬川（文昇）、沢井股五郎（作十郎）、お谷（簗助）、菅田大内記（文吾）、宇佐美五右衛門（玉松）、桜田林左衛門（玉幸）、唐木政右衛門（玉男）、呉服屋十兵衛（文雀）、親平作（作十郎）、池添孫八（勘寿）、娘お袖（紋寿）、山田幸兵衛（勘十郎）。
一九八八	昭和63	10/15	横浜 横浜市教育会館	伊賀越道中双六	沼津里のだん（越路=燕三・ツレ 燕二郎）。 ※横浜文楽同好会主催「素浄瑠璃、人間国宝竹本越路大夫・鶴沢燕三を聴く会」。	
一九九一	平成3	1/3~24	国立文楽劇場	伊賀越道中双六	沼津の段（切 住=燕三・ツレ 燕二郎・胡弓 団治）。	娘お米（簗助）、呉服屋十兵衛（玉男）、親平作（作十郎）、池添孫八（玉也/玉輝）。
一九九一	平成3	2/9~24	東京 国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六	和田行家屋敷の段（口 千歳=浅造、奥 相生=団七）、岡崎の段（口 津駒=清二郎、中 咲=錦弥、前 十九=清治、後 伊達=清介）、伊賀上野仇討の段（政右衛門=三輪・志津馬=津国・林左衛門=南都・股五郎=呂勢・付人=文字栄=団治）。 ※野沢松之輔=作曲（「和田行家屋敷の段」「伊賀上野仇討の段」）。	和田志津馬（文昇）、沢井股五郎（玉松）、お谷（簗助）、桜田林左衛門（勘緑）、唐木政右衛門（玉男）、池添孫八（文司）、娘お袖（一暢）、山田幸兵衛（作十郎）。
一九九一	平成3	11/2	東京 国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六	沼津の段（住=燕三・ツレ+胡弓 燕二郎）。 ※第3回文楽素浄瑠璃の会（第70回邦楽公演）。国立劇場開場25周年記念。	
一九九二	平成4	4/5~21	国立文楽劇場	伊賀越道中双六 通し狂言	和田行家屋敷の段（口 呂勢=団吾、奥 緑=団治）、円覚寺の段（中 津駒=清二郎、奥 呂=錦弥）、唐木政右衛門屋敷の段（口 文字久=喜一郎、中英=燕二郎、奥 織=団六）、菅田家大広間の段（相生=喜左衛門）、沼津の段（切 住=燕三・ツレ 燕二郎・胡弓 団治）、藤川新関の段 引抜き 団子売（助平=咲・志津馬=三輪・お袖=貴・ツレ 南都・文字栄・新=清介・八介・清二郎・清太郎・団市）、竹藪の段（松香=弥三郎）、岡崎の段（中 千歳=八介、次 小松=団七、前 十九=清治、後 嶋=富助）、伏見北国屋の段（伊達=清友）、伊賀上野敵討の段（政右衛門=津国・志津馬=南都・林左衛門=文字久・股五郎=呂勢・付人=文字栄=浅造）。 ※野沢松之輔=作曲（「和田行家屋敷の段」「伏見北国屋の段」「伊賀上野敵討の段」）。四代野沢錦糸=作曲（「円覚寺の段」）。 ※竹本相生太夫8日~千種楽まで休演のため、「菅田家大広間の段」を竹本緑太夫が代演。	和田志津馬（一暢）、佐々木丹右衛門（文吾）、娘お米・傾城瀬川（文雀）、沢井股五郎（玉女）、お谷（簗助）、菅田大内記（文昇）、宇佐美五右衛門（玉松）、桜田林左衛門（玉幸）、唐木政右衛門（玉男）、呉服屋十兵衛（簗助）、親平作（作十郎）、池添孫八（簗太郎）、娘お袖（紋寿）、山田幸兵衛（文雀）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九九三	平成5	6/5	能勢町浄るりシアター	(伊賀越道中双六) 沼津の段(住=燕三・ツレ+胡弓 燕二郎)。 ※素浄瑠璃。 ※国立文楽劇場第54回文楽公演解説書(平成6年4月)に拠る。	
	一九九三	平成5	6/27	国立文楽劇場小ホール	伊賀越道中双六 相合傘の段(貴=団吾)。 ※第12回若手向上素浄瑠璃の会。	
△	一九九六	平成8	11/30	横浜 横浜市教育文化ホール	伊賀越道中双六 沼津の段(緑=団七)。 ※横浜文楽同好会主催若手公演。 ※『横浜文楽同好会会報』第30号に拠る。	(玉女)、(簀太郎)。
	一九九七	平成9	9/28~10/16	地方公演 (近畿・山陽・東海・関東・中京)	伊賀越道中双六 沼津の段(前 伊達=団六・ツレ 団市、切 綱=清二郎・胡弓 団吾)。	娘お米(文雀)、呉服屋十兵衛(文吾)、親平作(作十郎)、池添孫八(勘寿)。
	一九九七	平成9	10/4	イシハラホール	伊賀越道中双六 沼津(住=錦弥・ツレ+胡弓 燕二郎)。 ※「竹本住太夫の世界~素浄瑠璃と話」。 ※『七世竹本住太夫舞台年譜』に拠る。	
	一九九七	平成9	10/25	東京 国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六 沼津の段(切 綱=清二郎・ツレ+胡弓 喜一郎)。 ※第9回文楽素浄瑠璃の会(第101回邦楽公演)。	
	一九九八	平成10	3/3~24	地方公演 (近畿・中国・九州・四国・東海・関東・北陸)	伊賀越道中双六 沼津の段(切 住=錦弥・ツレ 喜一郎・胡弓 清志郎)。 ※竹本住太夫13日より休演のため、「沼津の段・前」を竹本伊達太夫が、「切」を竹本綱太夫が代演。	娘お米(紋寿)、呉服屋十兵衛(文雀)、親平作(玉幸)、池添孫八(玉志)。
	一九九八	平成10	4/4~26	国立文楽劇場	伊賀越道中双六 沼津の段(切 住=錦弥改め 錦糸・ツレ 燕二郎・胡弓 喜一郎)。 ※野沢錦弥改め五世野沢錦糸襲名披露狂言。	娘お米(簀助)、呉服屋十兵衛(玉男)、親平作(文雀)、池添孫八(簀二郎)。
	一九九八	平成10	5/9~24	東京 国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六 通し狂言 和田行家屋敷の段(口 新=団吾//始=団市//咲甫=清志郎、奥 松香=八介)、円覚寺の段(中 三輪=弥三郎、奥 相生=団七)、唐木政右衛門屋敷の段(口 呂勢=清太郎、中 英=宗助、切 嶋=富助)、菅田家大広間の段(咲=清友)、沼津の段(切 住=錦弥改め 錦糸・ツレ 燕二郎・胡弓 喜一郎)、藤川新関の段 引抜き団子売(助平=伊達・志津馬=津駒・お袖=貴・ツレ 新・始・咲甫=団六・弥三郎・清二郎・団吾・団市・清志郎)、竹藪の段(緑=喜一郎)、岡崎の段(中 千歳=燕二郎、次 小松=喜左衛門、切 綱=清二郎、十九=清治)、伏見北国屋の段(呂=清介)、伊賀上野敵討の段(政右衛門=津国・志津馬=南都・林左衛門=文字久・股五郎=呂勢・付人=文字栄=清太郎)。 ※野沢松之輔=作曲(「和田行家屋敷の段」「伏見北国屋の段」「伊賀上野敵討の段」)。四代野沢錦糸=作曲(「円覚寺の段」)。 ※「沼津の段」野沢錦弥改め五世野沢錦糸襲名披露。 ※鶴沢清太郎休演のため、「唐木政右衛門屋敷の段・口」を野沢喜一郎が、「伊賀上野敵討の段」を竹沢団吾が代演。	和田志津馬(文昇)、佐々木丹右衛門(玉幸)、娘お米・傾城瀬川(紋寿)、沢井股五郎(玉也)、お谷(簀助)、菅田大内記(文吾)、宇佐美五右衛門(作十郎)、桜田林左衛門(玉幸)、唐木政右衛門(玉男)、呉服屋十兵衛(簀助)、親平作(文雀)、池添孫八(勘寿)、娘お袖(一暢)、山田幸兵衛(文雀)。

「伊賀越道中双六」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇〇一	平成13	10/27	東京 国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六	沼津の段（切 住＝錦糸・ツレ＋胡弓 喜一郎）。 ※第13回文楽素浄瑠璃の会（第117回邦楽公演）。国立劇場開場35周年記念。	
二〇〇四	平成16	5/29	国立文楽劇場	伊賀越道中双六	沼津の段（住＝錦糸・ツレ＋胡弓 清志郎）。 ※第7回文楽素浄瑠璃の会（文楽劇場第26回邦楽公演）。国立文楽劇場開場20周年記念。	
二〇〇五	平成17	1/3～25	国立文楽劇場	伊賀越道中双六	沼津の段（切 住＝錦糸・ツレ 喜一郎・胡弓 龍隼）。	娘お米（簗助）、呉服屋十兵衛（玉男）、親平作（文吾）、池添孫八（玉志）。
二〇〇五	平成17	2/12～27	東京 国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六	沼津の段（切 住＝錦糸・ツレ 喜一郎・胡弓 龍隼）。	娘お米（簗助）、呉服屋十兵衛（玉男）、親平作（文吾）、池添孫八（玉志）。
二〇〇五	平成17	12/22～23	福岡 博多座	伊賀越道中双六	沼津の段（切 住＝錦糸・ツレ 清丈・胡弓 龍隼）。 *「清丈」の丈は異体字。	娘お米（勘十郎）、呉服屋十兵衛（簗助）、親平作（玉也）、池添孫八（玉志）。
二〇〇六	平成18	11/4～26	国立文楽劇場	伊賀越道中双六	藤川新関の段 引抜き団子売（助平＝伊達・志津馬＝松香・お袖＝つばさ・ツレ 呂茂・希／靖＝清友・喜一郎・清旭・龍隼・龍爾）、竹藪の段（相子＝清丈）、岡崎の段（中 三輪＝清志郎、次 英＝宗助、切 綱＝清二郎、切 十九＝富助）、伊賀上野敵討の段（政右衛門＝南都・志津馬＝新・林左衛門＝津国・股五郎＝芳穂・付人＝希＝団吾）。 ※国立劇場開場40周年記念。 ※野沢松之輔＝作曲（「伊賀上野敵討の段」）。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	和田志津馬（和生）、沢井股五郎（玉輝）、お谷（紋寿）、桜田林左衛門（亀次）、唐木政右衛門（玉女）、池添孫八（和右）、娘お袖（玉英）、山田幸兵衛（文雀）。
二〇〇七	平成19	12/4～16	東京 国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六	【Aプロ】沼津の段（前 文字久＝宗助・ツレ 清旭、後 英＝清介・胡弓 清公）。	娘お米（紋豊）、呉服屋十兵衛（和生）、親平作（勘十郎）、池添孫八（清三郎）。
					【Bプロ】沼津の段（前 呂勢＝清二郎・ツレ 清丈、後 千歳＝富助・胡弓 龍爾）。 ※第39回文楽鑑賞教室。 ※7・14日の夜には「社会人のための文楽鑑賞教室」も実施。 ※吉田幸助14日休演のため、池添孫八を吉田簗一郎が代演。 *「清丈」の丈は異体字。	娘お米（清之助）、呉服屋十兵衛（玉女）、親平作（玉也）、池添孫八（幸助）。
二〇〇八	平成20	5/28	東京 紀尾井小ホール	伊賀越道中双六	沼津の段（住＝錦糸・ツレ＋胡弓 清志郎）。 ※「住大夫三夜」公演。	
二〇〇八	平成20	6/28	大分 iichiko音の泉 ホール	伊賀越道中双六	沼津の段（住＝錦糸・ツレ＋胡弓 清志郎）。 ※「人間国宝～その心と技～」第1回公演。	
二〇〇九	平成21	8/27	神戸 神戸新聞松方 ホール	伊賀越道中双六	沼津の段（切 住＝錦糸・ツレ 清志郎・胡弓 龍爾）。	娘お米（簗助）、呉服屋十兵衛（勘十郎）、親平作（文雀）、池添孫八（玉志）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇〇九	平成21	9/5~23	東京 国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六	沼津の段（切 綱＝清二郎・ツレ 清旭、切 住＝錦糸・胡弓 龍爾）。	娘お米（紋寿）、呉服屋十兵衛（簗助）、親平作（勘十郎）、池添孫八（清五郎）。
二〇一〇	平成22	10/9	大阪市立大学学術情報総合センター10階大会議室	伊賀越道中双六	沼津の段（住＝錦糸・ツレ＋胡弓 龍爾）。 ※大阪市立大学創立130周年記念事業「日中伝統芸能競演会一文楽素浄瑠璃と評弾の至芸」。	
二〇一一	平成23	10/22	東京 国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六	沼津の段（住＝錦糸・ツレ＋胡弓 清志郎）。 ※第23回文楽素浄瑠璃の会（第157回邦楽公演）。国立劇場開場45周年記念。 ※鶴沢清志郎休演のため、「沼津の段」ツレと胡弓を豊沢龍爾が代演。	
二〇一一	平成23	10/29~ 11/20	国立文楽劇場	伊賀越道中双六	沼津の段（切 源＝藤蔵・ツレ 清旭、切 住＝錦糸・胡弓 龍爾）。 ※国立劇場開場45周年記念。 ※竹本源太夫10月31日～千種楽まで休演のため、「沼津の段・前」を竹本津駒太夫が代演。	娘お米（文雀）、呉服屋十兵衛（玉女）、親平作（勘十郎）、池添孫八（玉志）。
二〇一三	平成25	9/7~23	東京 国立劇場 小劇場	伊賀越道中双六 通し狂言	和田行家屋敷の段（口 咲寿／小住＝清公、奥 松香＝清友）、円覚寺の段（中 相子＝清文、奥 文字久＝藤蔵）、唐木政右衛門屋敷の段（口 希＝龍爾、中 睦＝清志郎、切 咲＝燕三）、菅田家大広間の段（咲甫＝喜一郎）、沼津里の段（津駒＝寛治・ツレ 寛太郎）、平作内の段（呂勢＝清治）、千本松原の段（切 住＝錦糸・胡弓 清公）、藤川新関の段 引抜き 寿柱立万歳（助平＝三輪・志津馬＝始・お袖＝咲甫・ツレ 咲寿・亘＝喜一郎・清文・龍爾・錦吾・燕二郎・清允）、竹藪の段（靖＝寛太郎）、岡崎の段（中 芳穂＝清旭、次 呂勢＝宗助、切 嶋＝富助、後 千歳＝団七）、伏見北国屋の段（英＝清介）、伊賀上野敵討の段（政右衛門＝南都・志津馬＝芳穂・林左衛門＝津国・股五郎＝文字栄・付人＝小住＝団吾）。 ※野沢松之輔＝作曲・鶴沢清友＝補曲（「和田行家屋敷の段」）。野沢錦糸＝作曲（「円覚寺の段」）。野沢松之輔＝作曲（「伏見北国屋の段」「伊賀上野敵討の段」）。 ※竹本義太夫300回忌。 ※竹本相子太夫休演のため、「円覚寺の段・中」を豊竹靖太夫が代演。 *「清文」の文、「芳穂」の芳は異体字。	和田志津馬（清十郎）、佐々木丹右衛門（玉志）、娘お米（簗助）、傾城瀬川（一輔）、沢井股五郎（玉輝）、お谷（和生）、菅田大内記（勘寿）、宇佐美五右衛門（玉也）、桜田林左衛門（文司）、唐木政右衛門（玉女）、呉服屋十兵衛（和生）、親平作（勘十郎）、池添孫八（幸助）、娘お袖（文雀）、山田幸兵衛（勘十郎）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇一三	平成25	11/2~24	国立文楽劇場	伊賀越道中双六 通し狂言	鶴が岡の段（亘、小住、咲寿、靖、希＝清允、燕二郎、錦吾、清公、寛太郎、龍爾）、和田行家屋敷の段（口 咲寿／小住＝清公、奥 松香＝清友）、円覚寺の段（中 靖＝清文、奥 文字久＝藤蔵）、唐木政右衛門屋敷の段（口 希＝龍爾、中 睦＝清志郎、切 咲＝燕三）、菅田家大広間の段（咲甫＝喜一郎）、沼津里の段（津駒＝寛治・ツレ 寛太郎）、平作内の段（呂勢＝清治）、千本松原の段（切 住＝錦糸・胡弓 清公）、藤川新関の段 引抜き 寿柱立万歳（助平＝三輪・志津馬一始・お袖＝咲甫・ツレ 咲寿・亘＝清文・龍爾・錦吾・清允・燕二郎）、竹藪の段（靖＝寛太郎）、岡崎の段（中 芳穂＝清旭、次 呂勢＝宗助、切 嶋＝富助、後 千歳＝団七）、伏見北国屋の段（英＝清介）、伊賀上野敵討の段（政右衛門＝南都・志津馬＝芳穂・林左衛門＝津国・股五郎＝文字栄・付人＝小住＝団吾）。 ※（6）鶴沢寛治＝作曲・（7）鶴沢寛治＝補曲（「鶴が岡の段」）。野沢松之輔＝作曲・鶴沢清友＝補曲（「和田行家屋敷の段」）。野沢錦糸＝作曲（「円覚寺の段」）。野沢松之輔＝作曲（「伏見北国屋の段」「伊賀上野敵討の段」）。 ※文楽協会創立50周年記念・竹本義太夫300回忌。 *「清文」の文、「芳穂」の芳は異体字。	和田志津馬（清十郎）、佐々木丹右衛門（玉志）、娘お米（簗助）、傾城瀬川（一輔）、沢井股五郎（玉輝）、お谷（和生）、菅田大内記（勘寿）、宇佐美五右衛門（玉也）、桜田林左衛門（文司）、唐木政右衛門（玉女）、呉服屋十兵衛（和生）、親平作（勘十郎）、池添孫八（幸助）、娘お袖（文雀）、山田幸兵衛（勘十郎）。
△ 二〇一六	平成28	2/23	東京 赤坂区民セン ター区民ホール	伊賀越道中双六	千本松原の段（千歳＝富助・龍爾）。 ※赤坂文楽（文楽の伝統を受継ぐ 其の六）。 ※チラシに拠る。	（勘十郎）、（玉男）。